

## 富岡町災害復興計画（第二次）

# 資料編

### I. 町民の抱える課題の抽出について…… 1

- (1) 住民意向調査…… 1

### II. 検討委員会での検討内容…… 15

- (1) 検討委員会策定経緯…… 15
- (2) 検討部会での主な検討事項…… 17
- (3) 検討委員会で考えた重要な取り組み…… 21
- (4) 基本方針の策定根拠…… 22
- (5) 検討委員会で考えた  
課題－基本方針－アイデア・取り組みの関連…… 23
- (6) 富岡町の復興を進める検討委員会の提案…… 24
- (7) 各部会での事業アイデア…… 57
- (8) 検討委員名簿…… 105

### III. 政策化会議での検討内容…… 107

- (1) 政策化会議策定経緯…… 107
- (2) 政策化会議での主な検討事項…… 108
- (3) 居住地に関する住民意向に対応する主な取り組み・ 128
- (4) 政策化会議委員名簿…… 129



# I. 町民の抱える課題の抽出について

- ・今回の計画策定にあっては、町民が今置かれている状況、悩みや不安なことをつぶさにきいて、それを一つひとつ解消していこうという方針で検討を進めました。
- ・そのため、意向調査による町民の生の声、意見を分析し、また、町政懇談会等の全国に避難されている町民の話をきき、また、検討委員会でも、真剣にいま何が一番困っているのか、町民は、避難先での生活を送られる中で、何に不安を、悩みを抱き、そして課題と感じられているのかについて議論してきました。

## (1) 住民意向調査

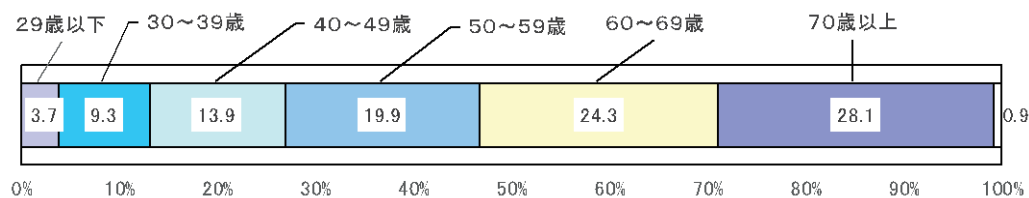
### ① 住民意向調査の結果

- ・2014(平成 26)年に町が復興庁、福島県と合同で実施した住民意向調査の結果から抜粋しました。

### ○ 調査の概要

調査対象：世帯の代表者(7,775 世帯)  
調査時期：平成 26 年 8 月 8 日～8 月 22 日  
調査方法：郵送配布、郵送回収  
回答数者：3,979 世帯(回収率 51.2%)

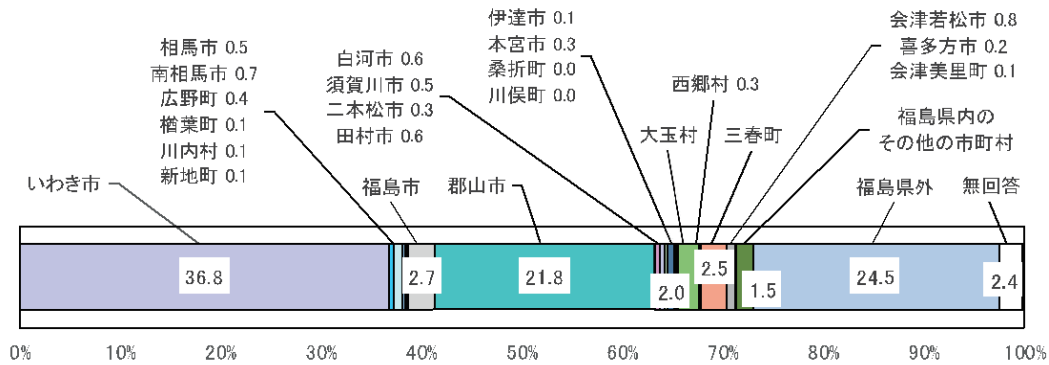
### ・ 回答者の年代別割合



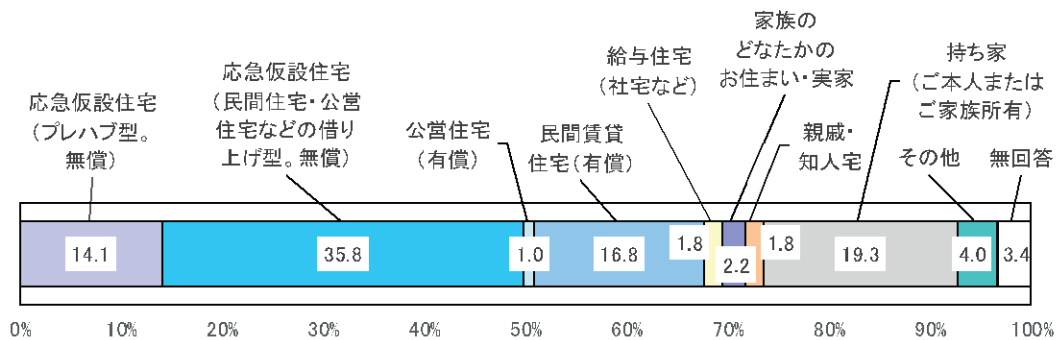
## ○調査結果

### 避難状況について

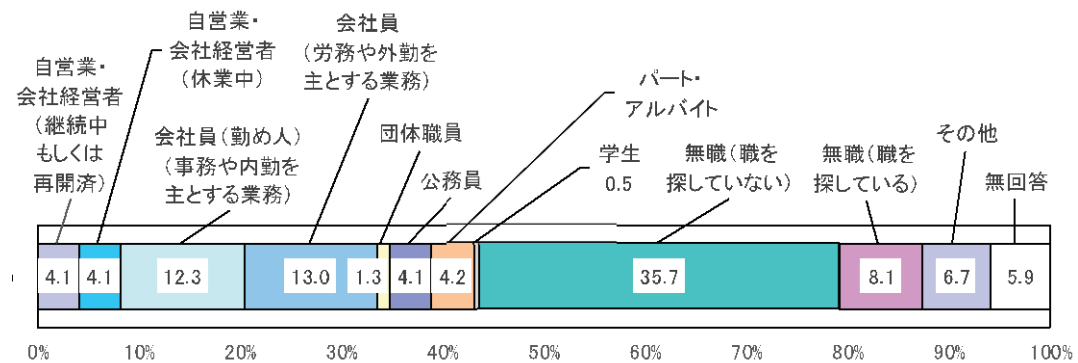
#### ・避難先の自治体について



#### ・現在の住居形態について



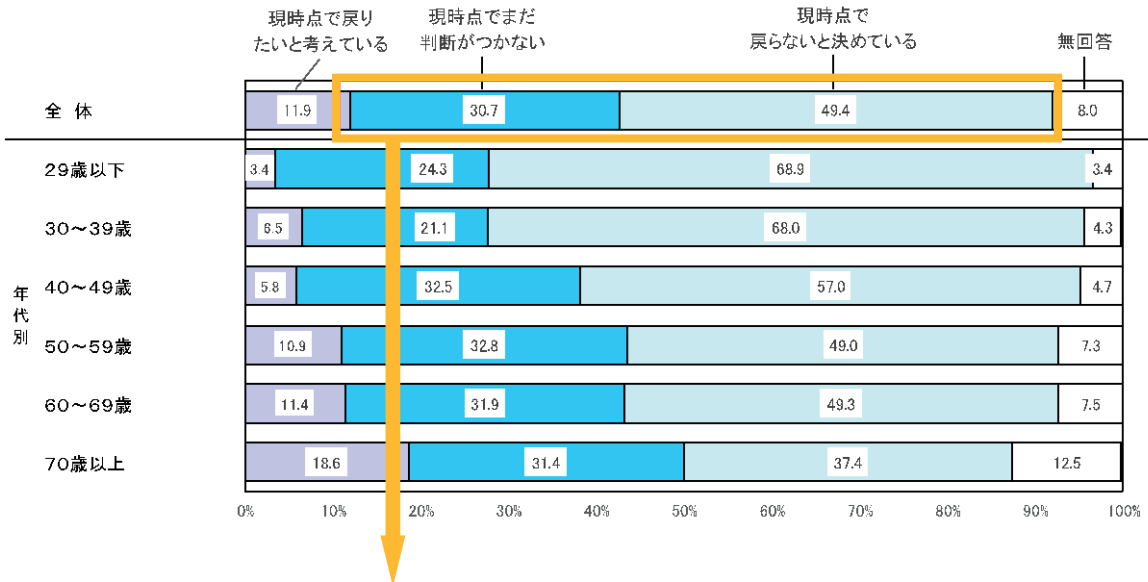
#### ・現在の職業について





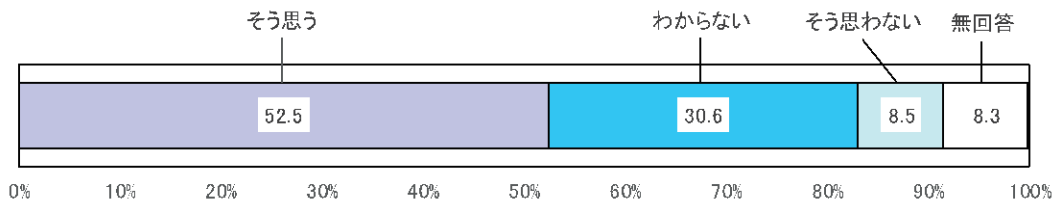
## 将来の意向について

### ・ 帰還の意向について



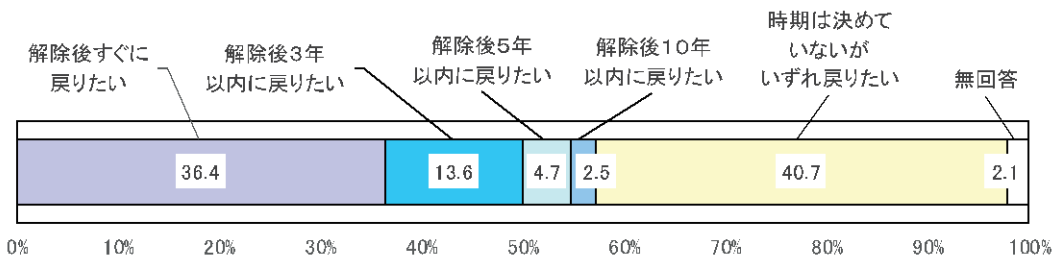
### ・ 富岡町とのつながりを保ちたいか

※帰還について「現時点ではまだ判断がつかない」、「現時点で戻らないと決めている」と回答した方のみへの質問



### ・ 帰還時期について

※帰還について「現時点で戻りたいと考えている」と回答した方のみへの質問



## ◆帰還意向の推移

- ・町、復興庁、福島県が合同で実施している住民意向調査(平成24年12月、平成25年8月、平成26年の8月の3回行われています)の結果から整理しました。

選択肢	2012(平成24)年	2013(平成25)年	2014(平成26)年
現時点で戻りたいと考えている	15.6%	12.0%	11.9%
現時点でまだ判断がつかない	43.3%	35.3%	30.7%
現時点で戻らないと決めている	40.0%	46.2%	49.4%

## ○「帰還する場合に希望する行政の支援」、「帰還を判断する上で必要な情報」、「戻らないと決めている理由」について

- ・帰還する場合に希望する行政の支援としては、「医療、介護福祉施設、商業施設等の再開、公共交通機関の再開もしくは新設」に関する事、また、「住まいの修繕や建て替えへの支援」といった居住、生活関連サービスの再開、支援が上位に挙げられました。
- ・帰還を判断する上で必要な情報として、「居住、生活関連サービス等の復旧時期の目安」や「どの程度の住民が戻るのか」といった情報、及び「放射線の影響や線量・除染の状況、原発の事故収束や廃炉といった安全性に関する情報」が上位に挙げられました。
- ・戻らないと決めていると回答された方に、その理由をおうかがいしたところ、上記の帰還を判断する上で必要な情報と同様に、「居住、生活関連サービス等の再開に不安があるから」、及び「放射線の影響や原発の安全性に不安があるから」が挙げられました。

## ○町民より「国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ち」について自由回答いただいた内容を分析すると、次のような要望や気持ちに整理されます。

- ・個人としては、帰還する、移住する、分からないという判断はしつつも、町として、町内への帰還に関する考えや、復興に対する考え方を求めています。
- ・また、町民は「将来に憂いを残さない国の全面对処による原発事故解決」を求めている一方で、社会に対しては、原発事故の風化をくい止めたいという思いが挙げられます。これは、3.11の大地震、原発事故に伴って被災者が様々なかたちで今なお故郷を離れ不自由な避難生活をしているという現実が日本社会から忘れ去られ始めており、絶対に風化させてはならないという思いに整理されます。
- ・そのためにも、国・東電に対しては、原発被災からの救済・復興に向け、正確な情報公開を行うことを望んでいます。

## ②子どもアンケート

- ・富岡町は、2013年8月15日～9月9日と、2014年12月19日～12月31日に、2回にわたり10～12才、13～15才、16～18才の3世代に異なる調査票を送付、ただし各年代とも①避難以前の富岡町について②将来の帰還意向や復旧・復興、まちづくりについて③現在の避難生活について④町への要望や自由な意見を求める一という4類型の設問構成としました。  
そこから、自由意見等で得られた意見を、本計画の参考意見として盛り込んでいます。

### 【調査の概要】

	2013年	2014年
調査対象	10歳～18歳の子どもたち (送付数：1,503)	10歳～18歳の子どもたち (送付数：1,444)
調査時期	平成25年8月15日～9月9日	平成26年12月19日～12月31日
調査方法	10～12歳用、13～15歳用、16～18歳用の3種類の調査票を郵送配布、郵送回収。	10～12歳用、13～15歳用、16～18歳用の3種類の調査票を郵送配布、郵送回収。
回答者数	691人 (46.1%)	505人 (34.9%)

### 【回収実績】

2013年	送付数	回収数	回収率
10～12歳用	556	212	38.3%
13～15歳用	484	228	47.1%
16～18歳用	463	251	54.4%
計	1,503	691	46.1%

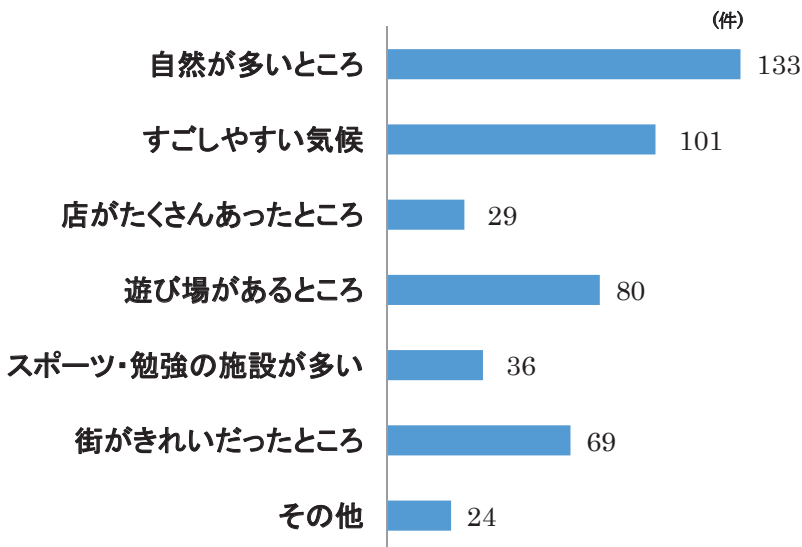
2014年	送付数	回収数	回収率
10～12歳用	428	155	36.2%
13～15歳用	500	186	37.2%
16～18歳用	516	164	31.7%
計	1,444	505	34.9%

○調査結果

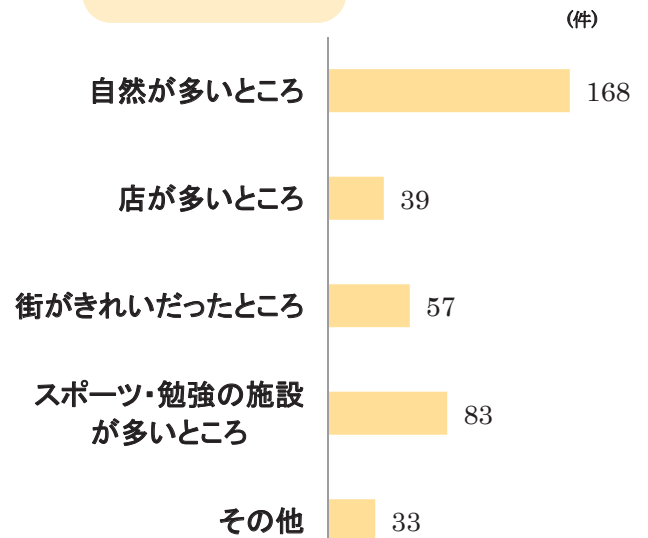
2013 年子どもアンケート 調査結果

・富岡町の好きなところ、誇れるところ（3つまで回答可）

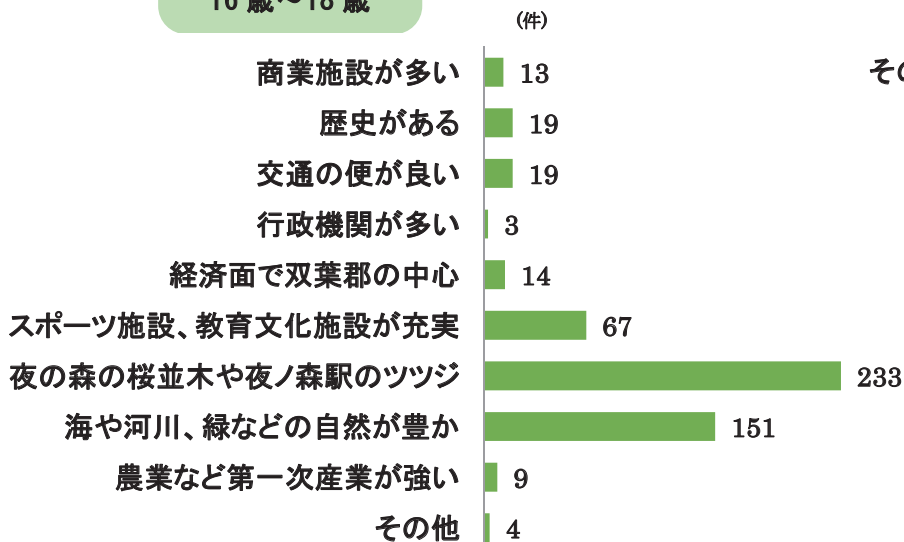
10 歳～12 歳



13 歳～15 歳

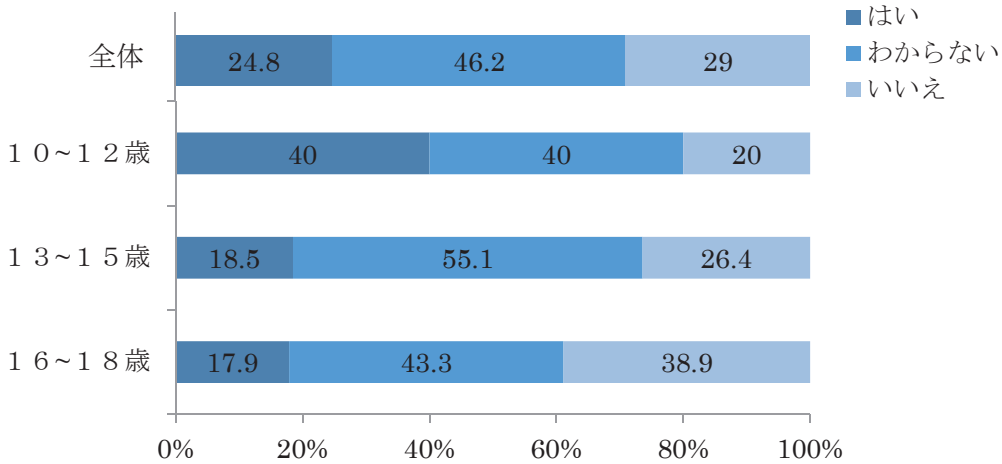


16 歳～18 歳



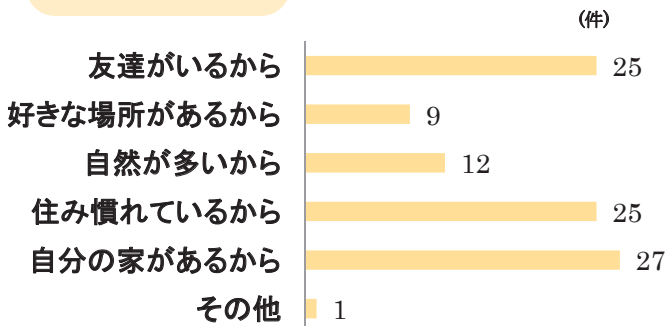
## 将来の帰還について

### ・将来富岡町に帰りたいと思いますか



### ・帰りたい理由（3つまで回答可）

#### 13歳～15歳



#### 16歳～18歳

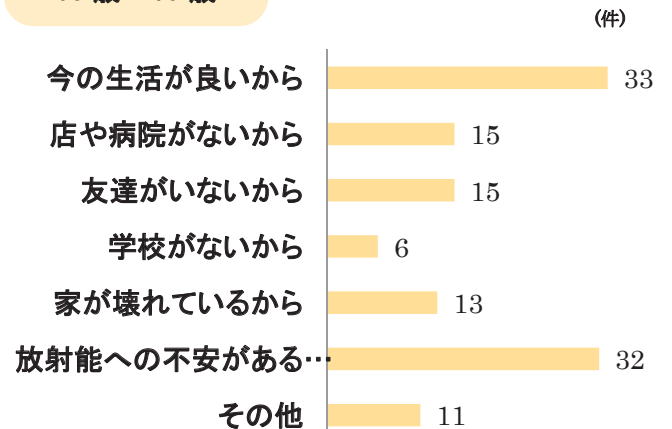


### ・帰りたくない理由（3つまで回答可）

#### 10歳～12歳



#### 13歳～15歳

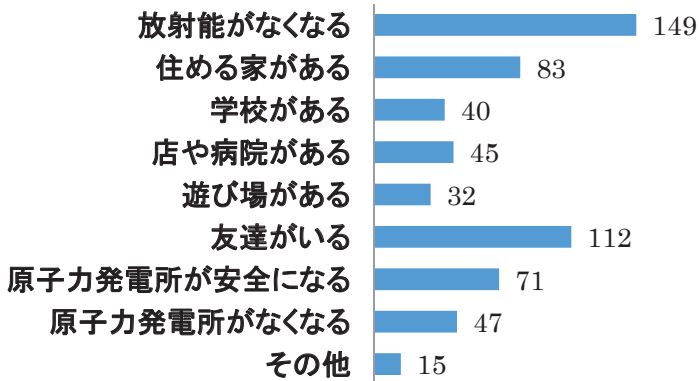


16歳～18歳

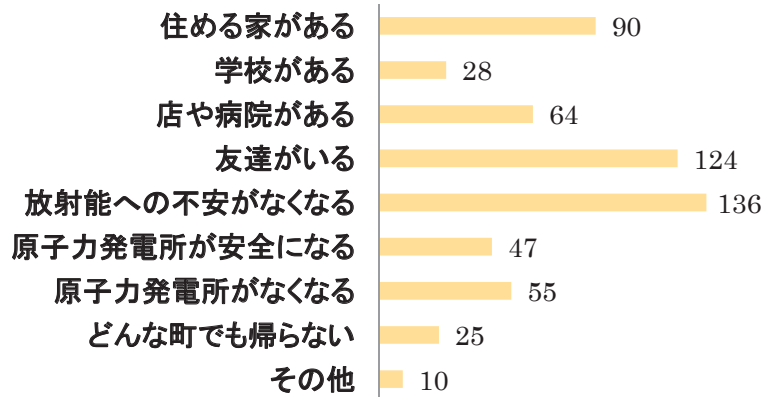


・どんな町であれば帰りたいと思いますか（3つまで回答可）

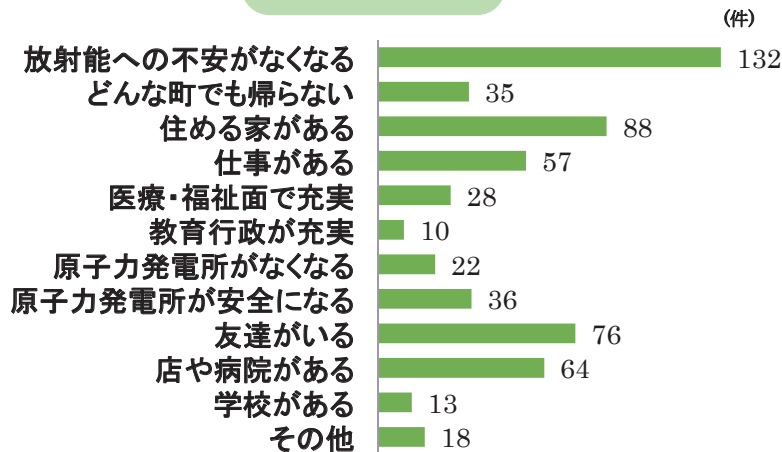
10歳～12歳



13歳～15歳



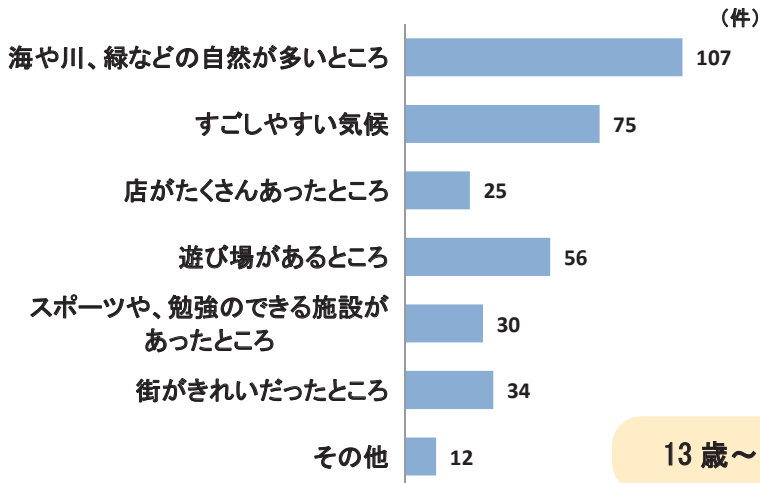
16歳～18歳



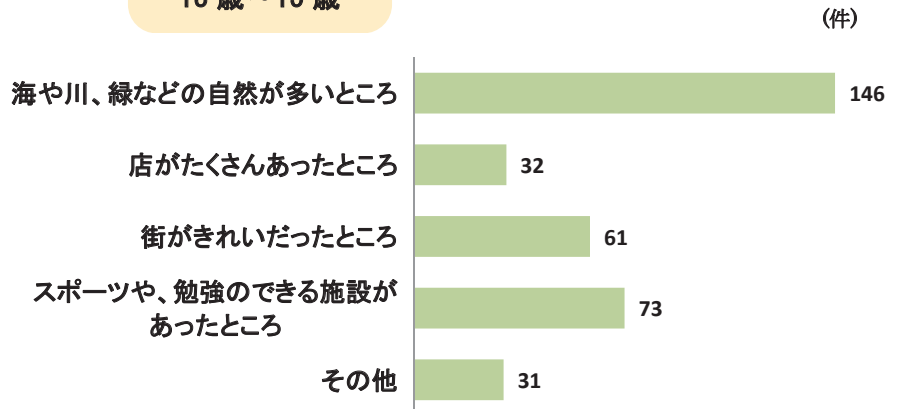
## 2014 年子どもアンケート 調査結果

### ・富岡町の好きなところ、誇れるところ(3つまで回答可)

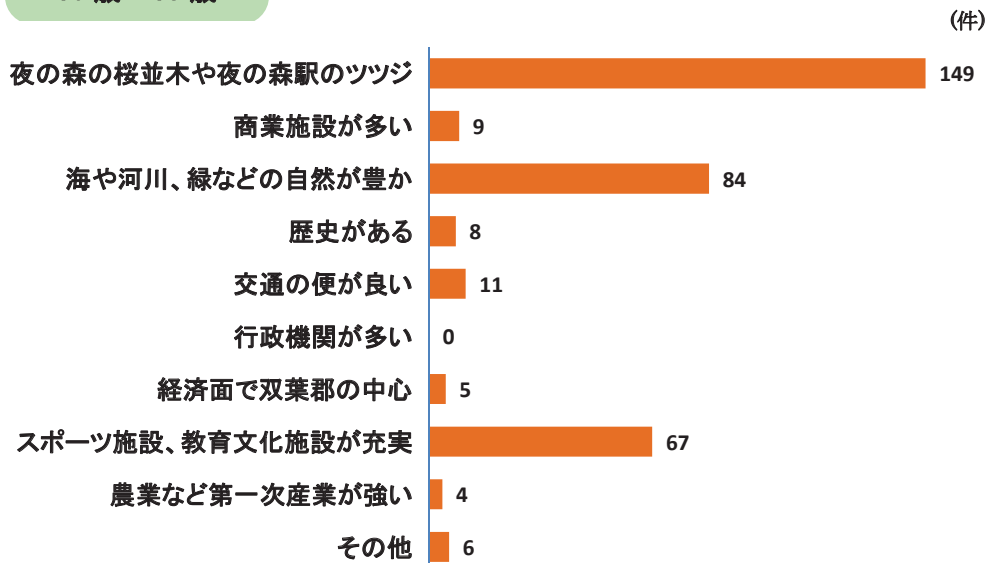
#### 10 歳～12 歳



#### 13 歳～15 歳

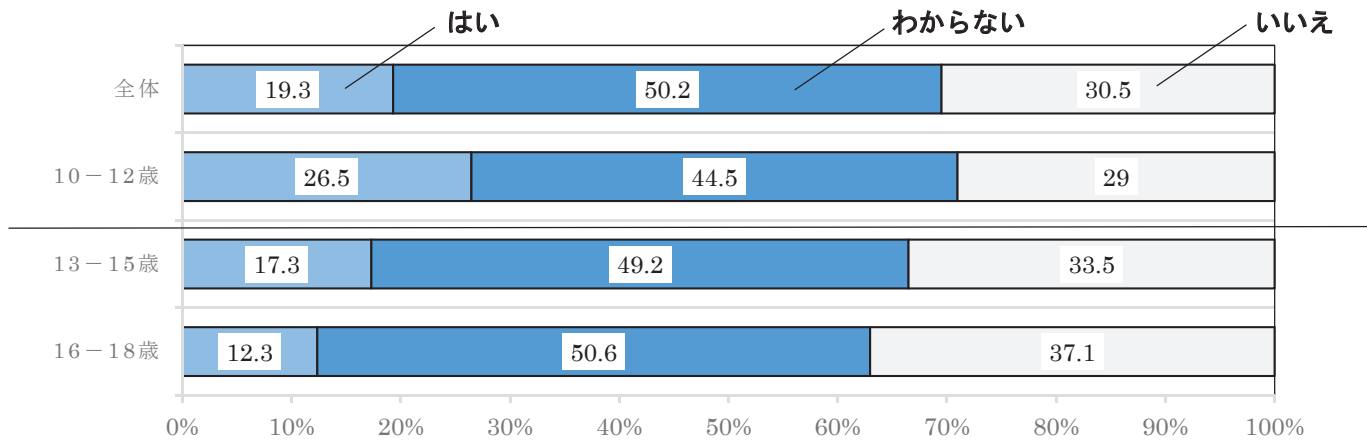


#### 16 歳～18 歳



## 将来の帰還について

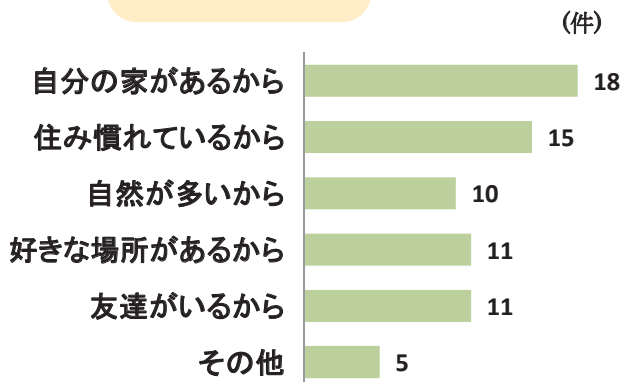
### ・将来富岡町に帰りたいと思いますか



### ・帰りたい理由(3つまで回答可)

※将来富岡町に帰りたいかの質問に「はい」と答えた子どもたちのみへの質問  
(10~12歳は設問なし)

#### 13歳~15歳



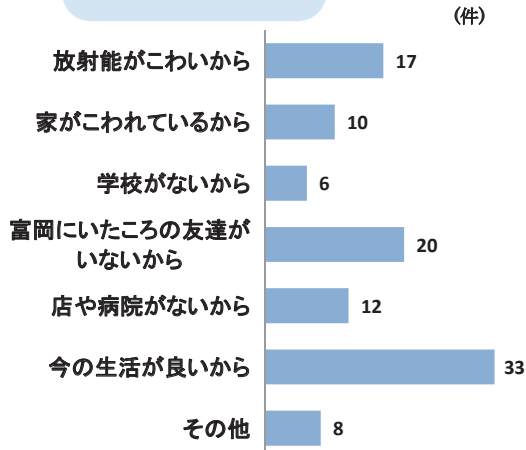
#### 16歳~18歳



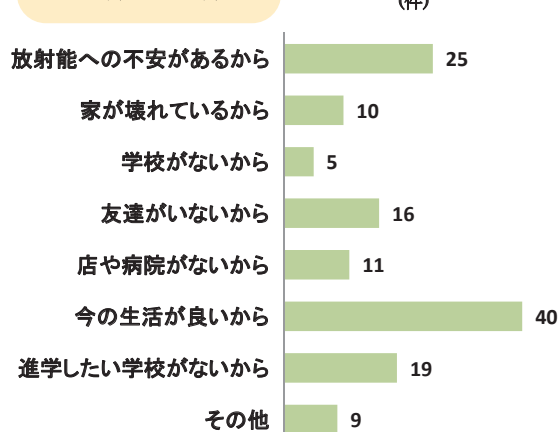
### ・帰りたくない理由(3つまで回答可)

※将来富岡町に帰りたいかの質問に「いいえ」と答えた子どもたちのみへの質問

#### 10歳~12歳



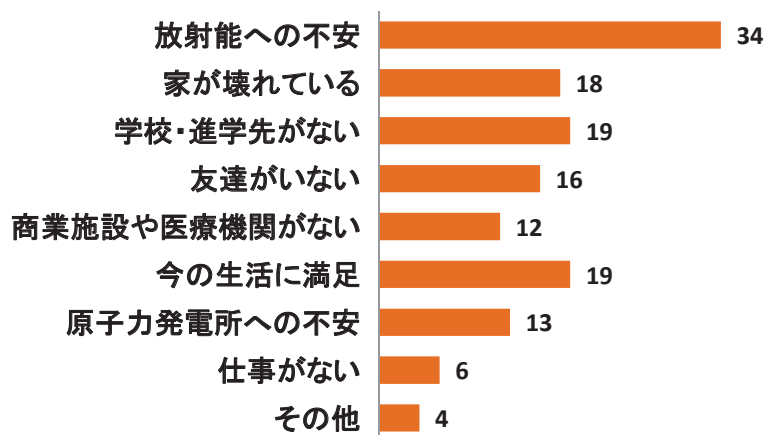
#### 13歳~15歳





16歳～18歳

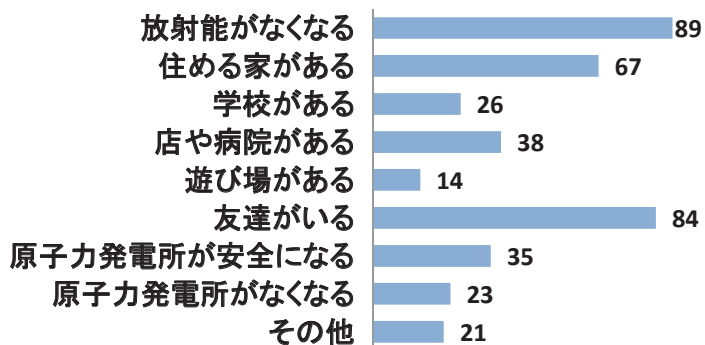
(件)



・どんな町であれば帰りたいと思いますか(3つまで回答可)

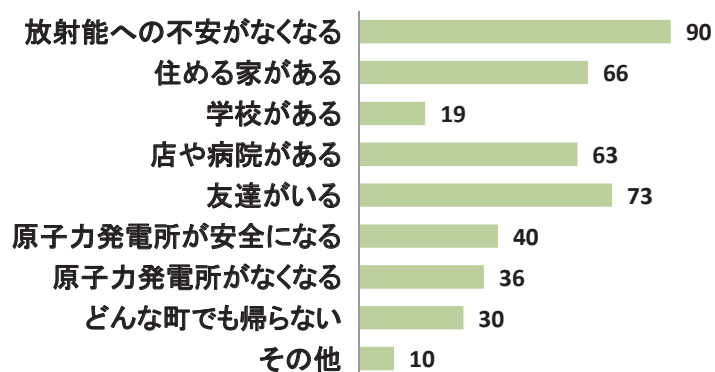
10歳～12歳

(件)



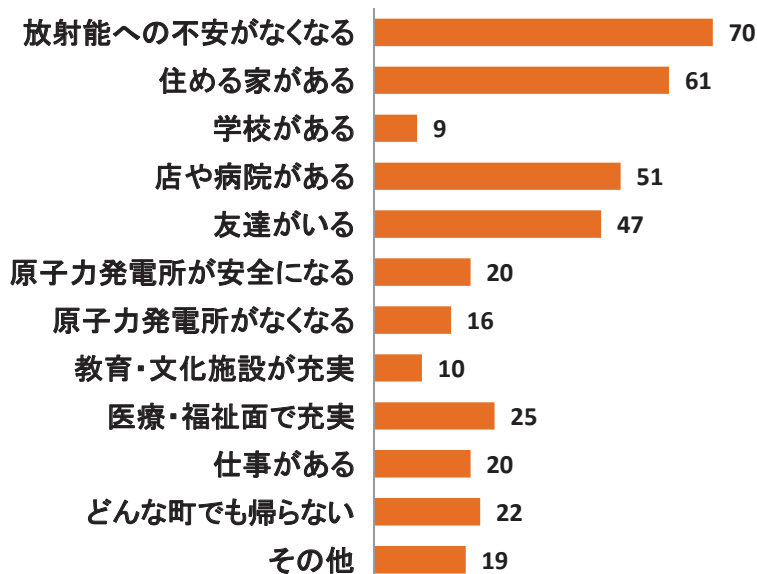
13歳～15歳

(件)



16歳～18歳

(件)



### 今後の学校生活 について

- ・今通っている学校に通いたい
- ・転校するのはいやだ。
- ・どこでもいい(あまり気持ちの変化はないと思う)

2013年アンケートより

### 町に変えてほしい 事

- ・放射能・原発をなくす
- ・早く帰れるようにしてほしい
- ・家・店・病院を直してほしい
- ・再開の集いの回数を増やしてほしい
- ・病院・商業施設・学校・働ける会社がある町づくり
- ・同じ年代でコミュニケーションがとれる場所が欲しい

2014年アンケートより

### 町にお願いする事

- ・町に帰りたい
- ・桜が見たい
- ・再開の集いを増やしてほしい
- ・情報発信
- ・友達に会いたい
- ・原発をなくしてほしい
- ・放射能をなくしてほしい
- ・きれいな町にしてほしい
- ・避難者支援(税金、賠償金)

2013年アンケートより

### 未来に前進する為 に必要な事

- ・人がたくさん住む事
- ・教育機関や医療機関の充実
- ・上下水道・電気・電話回線・道路の町内全域修復
- ・きちんとした収入が入る仕事
- ・若者対象の説明会
- ・若者の力

2014年アンケートより

### 不安に思う事

- ・家族の健康
- ・進学について
- ・引越(今の友達と別れてしまう、新しい友達とうまくいくか)
- ・自分の出身地を説明した時に周りの人が不快にならないか
- ・原発の廃炉ができるのか

2013年アンケートより

### 町にお願いする事

- ・放射線をなくしてほしい
- ・原発が安全になってほしい
- ・町を直してほしい
- ・家を見てみたい
- ・店を増やしてほしい
- ・再開の集いを増やしてほしい
- ・えびす講市を復活させてほしい
- ・桜のトンネルを残してほしい
- ・地震や津波がきたときの対応を考えてほしい

2014年アンケートより

### ③町政懇談会等による町民の声

2014（平成26）年度に実施した町政懇談会等の町民の意見も本計画に盛り込んでいます。

#### ○町政懇談会で挙げられた主な町民の意見

- ・町政懇談会では、「除染」「帰還の前提・時期」「賠償」「中間貯蔵施設・管理型処分場」「富岡現地の土地等の管理」についての意見や質問が多く挙げられました。

#### ○各自治会と町議員との意見交換会で挙げられた主な意見

- ・各自治会と町議員との意見交換会では、「復興公営住宅」「町内自宅の維持管理」「除染や賠償」「管理型処分場」「インフラ復旧・整備」についての意見や質問が多く挙げられました。

### ④長期にわたり避難生活を送っている町民が抱える主な課題を整理しました。

#### ◆一緒に暮らしていた家族が別々の生活へ、家族と一緒に戻りたくても戻れない状況

- ・震災前は、親、子どもの3世代で一緒に暮らしていたが、今はばらばらに暮らしている。親孝行をしたくて一緒に住んでいたのに、親孝行もきちんとできないといった悔しさや悲しみがある。
- ・父親は、町は活発に活動していた人だったが、今の避難場所では親しい人も、知り合いもない。帰還の話をする、父親は「帰りたい」とは言わない。それは、迷惑をかけると思って我慢しているのではないかと思う。

#### ◆賠償問題が、町民、家族の絆を分断し、町民どうしの心の復興の障壁になった。

- ・同じ被災者で、避難先で仲良くなり、支え合って生活してきた町民どうしでさえ、避難区域再編に伴う賠償額の差に関する発表がなされた後、関係がぎくしゃくして連絡をとらなくなったという話も聞く。道を挟んで補償金に大きな差が出てくる場合もあり、それが住民間の妬みや僻みを生んだとも言われる。
- ・賠償があるから働かないという人がいるというのも現実である。

#### ◆子どもたちのおかれている状況への理解が必要

- ・子どもアンケートでは、多くの子どもたちが避難先で育まれた友人関係の中で生活し、その友人関係の維持を望んでいる。
- ・震災時、小学校の低学年だった子どもたちには、富岡の記憶や愛着が薄い。大人と違い、子どもはいつまでも富岡町民という気持ちではないし、親が押し付けるものではないと思う。
- ・子どもたちの中には、避難先で友達ができず、その後、勉強して入った学校等でも、いじめにあって不登校になってしまった子もいる。原発問題の風評が原因らしいが、このように悩みを抱えている子どもが相談できる場や、支援を必要ではないか。
- ・震災後4年経って、不登校やひきこもり、自傷行為が増えたという現実がある。子どもは避難先での暮らしや学校生活に適應していたのではなく、自分の意見が言えないだけで、我慢していたというのが現実ではないか。

#### ◆気持ちはそのときの立場や状況によって変化するもの。

- ・子どもが居るから帰らないと言っていた方が、子どもの就職が決まり独り立ちした時に、町に帰ろうかと意識が変化することは考えられる。当時は子どもを守るということを優先していたが、4年経ち生活も変わり、状況変化により意向が変化することは十分にありうる。

**◆当面戻れないことへの不安やあきらめ、今後どのようにまちと関わっていくことができるか？**

- ・40～50代の子どもや年老いた親の面倒を見る世代は、親や子の状況、仕事の状況により、戻りたくてもなかなか戻るという選択を選べない方も多いと思う。
- ・帰還困難区域の方は、未だ除染の計画もなく、すぐに戻るといふことは考えられない。それは30年後でも戻ろうとは考えられない。しかし、生まれ育った土地でもあるし、祖先の墓もあるため、富岡町から完全に離れることができない。今後はどのように関わっていくことができるか悩んでいる。

**◆意向調査が“帰還する”“帰還しない（移住する）”の二者択一で、どちらの判断もできない町民の気持ちにこたえられていない。**

- ・国や自治体からのアンケート調査は、「今すぐ町に戻りたいですか？」と「戻る気はありませんか？」の二者択一的で、町内の状況が分からず判断できずにいる者を無視しているのではないか。

**◆原発事故解決に向けて。**

- ・私たちは何もわからないまま町を離れ、以来慣れない土地での避難生活の日々を送ってきたが、今なお、震災当時の記憶が払拭できない。原発事故がなぜ起こったのか、今はどのような状況なのか、廃炉や除染をどのように進めていくのかについて、国が責任をもって、正しい情報と指針を町民に周知していく必要があると感じます。
- ・除染や放射能に関する情報が分からないといっている町民も多いですが、被災者である私たち町民自身がきちんと放射能や放射線量に関する正しい知識を身につけ、帰還などの判断をしていくことが必要なのではないか。

**◆富岡町内に残してきた土地や建物等の資産の課税や管理が負担になる**

- ・安定した生活を送りたく、やむをえなく避難先での住居を構えた。しかし、富岡町内に残してきた家屋、土地の課税や管理などが二重の負担となってかかってくる可能性がある。

**◆先が見えない。富岡の状況を知りたい。**

- ・先が見えない中で、帰還する、しないの判断がつかない。しかし、判断しなくてはならない時期が来ると思う。町の復旧の状況は少しずつ進んでいるとも聞いている。しかし、原発事故から一度も町に戻ったことがない方も多し中、判断するためにも富岡町の現状を正確に知る必要がある。

**◆町に戻りたいと考える高齢者の気持ちになんとか応えたい。**

- ・「新しい土地での生活にストレスを感じながら死ぬよりは富岡で生活したい」。最低限の生活インフラさえ整えば帰りたいという高齢者の話を聞くとなんとか戻してあげたい。

**◆子どもたちは町への愛着が薄れている。**

- ・かつての富岡町内に遊べる場所は少なく、子どもの時も遊びに行くのは郡山かいわきであった。避難先の都市で暮らす子どもたちは、都市の魅力や利便性に慣れてしまった。子どもたちが戻りたい、住みたいと思う町にするには、放射能の問題だけでなく、娯楽や利便性といったものも大切ではないか。

**◆“広がる差別”“やまない風評”“まちへの関心の低下”“世論の原発事故の関心の風化”**

- ・放射能は目に見えず、また、東京などの県外で避難生活を送っていると、福島原発事故の情報はほとんど入ってこない。町内の整備が進んでいくと世論は帰れると思っている。
- ・避難先での生活が長期化する中、富岡への思いや関心が薄れつつある。

## II. 検討委員会での検討内容

### (1) 検討委員会策定経緯

検討委員会ファシリテーター(第1回検討委員会～第5回検討委員会)

千葉大学大学院看護学研究科特命教授 山浦 晴男

講演者

【第5回検討委員会】 東京大学大学院法学政治学研究科教授 金井 利之

【第6回検討委員会】 福島大学行政政策学類教授 今井 照 (敬称略)

回数	日時・場所	主な内容
第1回 【全体会】	2014(平成26)年 8月9日(土) ～ 8月10日(日)  富岡町役場桑野分室	【8月9日】 ・委嘱状交付 ・委員自己紹介 ・グループ単位で意見交換と意見カードの記入 (避難者が抱えている課題について) ・意見地図の作成  【8月10日】 ・意向調査分析結果や子ども未来ネットワークによる資料の読み込み・説明 ・グループ単位で意見交換と意見カードの追加 (避難者が抱えている課題について) ・意見地図の作成(続き) ・意見地図に対する重要度評価 ・部会の編成
第2回 【部会】	2014(平成26)年 9月20日(土) 午前:産業再生・創出部会 午後:心のつながり部会 9月21日(日) 午前:生活支援部会 午後:情報発信部会 富岡町役場郡山事務所 2階会議室	【各部会同じ内容での議論】 ・部会・班別の自己紹介(3.11 当時から現在に至るまでの各委員の状況について) ・意見交換と意見カードの記入 (避難者が抱えている課題について) ・部会ごとの意見地図の作成 ・意見地図に対する重要度評価
第3回 【部会】	2014(平成26)年 11月3日(月) 午前:産業再生・創出部会 午後:心のつながり部会 11月4日(火) 午前:生活支援部会 午後:情報発信部会 富岡町役場郡山事務所 2階会議室	【各部会同じ内容での議論】 ・意見交換と意見カードの記入 (避難者が抱えている課題の掘り下げ) ・部会ごとの意見交換と意見地図の作成 ・意見地図に対する重要度評価



<p>第4回 【全体会】 【部会】</p>	<p>2014（平成26）年 12月5日（金） ～ 12月6日（土） 富岡町役場桑野分室</p>	<p>【12月5日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回全体会検討内容のおさらい（課題地図の説明）</li> <li>・部会長から4部会検討内容報告（課題地図の説明）</li> <li>・課題意見の統合（全体会、部会のタイトル項目をもとに、課題地図作成）</li> <li>・漏れ落ちた課題の点検・挿入</li> <li>・職員ワークショップの課題地図の説明</li> <li>・子どもアンケートの自由意見の分析結果の説明</li> <li>・長期的観点からの重要度評価（予備選挙・中間選挙・本選挙）</li> </ul> <p>【12月6日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的観点からの重要度評価（予備選挙・中間選挙・本選挙）</li> <li>・部会に分かれ、班ごとに意見交換・アイデアカードの作成</li> <li>・部会ごとにアイデア地図の作成</li> </ul>
<p>第5回 【部会】 【全体会】</p>	<p>2015（平成27）年 1月24日（土） ～ 1月25日（日） 富岡町役場桑野分室</p>	<p>【1月24日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会に分かれ、アイデア地図の作成（第4回続き）</li> <li>・部会ごとに長期・短期の角度から優先度評価</li> <li>・部会別の検討内容の報告アイデア地図の説明</li> </ul> <p>【1月25日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員ワークショップの検討内容の報告</li> <li>・解決アイデアの統合（部会と職員ワークショップのタイトル項目をもとにアイデア地図を作成）</li> <li>・漏れ落ちたアイデアの点検・挿入</li> <li>・公共政策の専門家からの情報提供</li> <li>・解決アイデアの統合地図の長期・短期の観点から優先度評価</li> <li>・これまでの議論の計画書への反映の仕方と現時点での計画書（案）の概要説明、および今後の進め方</li> </ul>
<p>第6回 【全体会】</p>	<p>2015（平成27）年 2月22日（日） 富岡町役場桑野分室</p>	<p>【各部会に分かれて議論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡町災害復興計画（第二次）たたき台案に関する検討</li> <li>・公共検討の専門家からの情報提供</li> <li>・「復興を進めるための56の提案」に関する検討</li> </ul>
<p>第7回 【全体会】</p>	<p>2015（平成27）年 2月28日（土） 富岡町役場桑野分室</p>	<p>【各部会同じ内容での議論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡町災害復興計画（第二次）検討委員会案に関する検討</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>
<p>第8回 【全体会】</p>	<p>2015（平成27）年 3月28日（土） 富岡町役場桑野分室</p>	<p>【各部会同じ内容での議論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡町災害復興計画（第二次）検討委員会・政策化会議案に関する検討</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>

## (2) 検討部会での主な検討事項

### 情報発信部会

#### ◆情報発信部会で検討された課題について

##### ●情報を発信する側と、受け取る側のニーズとがマッチしていない。

- ・情報発信をしているつもりであるが、発信する側と、受け取る側とのニーズがうまくマッチしていないと感じる。
- ・どんなニーズがあるのかを把握しないと、良い情報も発信できない。町からの情報発信も大事だが、個人からの情報をどう拾い上げていくかも大事。

##### ●県内と県外、及び年齢によつての情報格差が顕著に見られる。

- ・県内と県外との生活の二重生活を送っていると、県内と県外での温度差や情報格差が広がっていると感じる。
- ・東京と福島では報道の内容が全く違う。県外では富岡の問題は解決したと思われている。

##### ●情報を得ることができるような場所が必要である。

- ・避難先に集まれる場所や復興公営住宅も建つので、お茶を飲める場所が必要である。
- ・現地（富岡町）に遠くから来たのに少しの時間で帰ってしまう。現地で滞在するサロンが欲しい。サロンで語り部がいたり、自分のことを語れたり、情報を得られたらいい。
- ・現地で人が交流できる、拠点づくりする必要がある。
- ・現在ある建物で何か使えるものがあればいい。
- ・都内と首都圏に住んでいる富岡の人の情報交換会を定期的にできないかと考えている。

##### ●情報発信をしないでほしいという意見もある。

- ・47都道府県に避難している人から「情報発信はしないでください」という声もある。富岡町のことを思い出したくないから情報を見ないという人もいる。

##### ●情報は自分でとりにいかないと何も入ってこない現状がある。

- ・広報も月に1回でもタイムリーな情報ではないので、フェイスブック等を使ってタイムリーに情報発信もしたいが、使える人、使えない人がいるのが問題である。
- ・一人暮らしの高齢者は、写真は見るが文章を読むことをしない。

##### ●国の方針を待つのでなく、こちらから情報発信をして提案していくべき。

- ・個人の考え方が多様化している状況を国からの発信を待つのではなく、こちらからどのような対応をしてほしいかを発信していく必要がある。

##### ●放射線に関する知識不足がある。

- ・情報発信部会として感じている問題点・悩みは、町民の放射線に対する知識不足がある。難しい話なので、正しい情報を発信していければと思っている。

##### ●外に向けた情報発信が必要。マスコミの活用や分かりやすい情報発信が必要。

- ・福島の現状を外にも発信していかないとけない。
- ・町長にマスコミに出てもらいたい。情報戦略のプロをつけて、町民にも分かりやすく熱意が伝わるようにすべきである。
- ・分かりやすく伝えるのが大事。難しい言葉が多い。辞書みたいなものがあるといい。
- ・全国の色々な人に助けを求めた方が良い。全国に今の状況を知ってもらって発信の仕方を考えるべきだ。孤軍奮闘するよりも、色々味方をつけた方がいい。
- ・海外にも発信する広報もほしい。海外と日本では原発に対する考え方が違う。

### ◆生活支援部会で検討された課題について

#### ●「定められない居住地」が問題

- ・いわき、郡山など避難先での不動産が高騰し、住宅確保が難しい状況がある。
- ・子どもの学校や親世代の介護などにより、避難先を決めている場合には、子どもの卒業等のタイミングで、自分はどこに住めばよいのかわからなくなる。
- ・直近で就職を控える立場としては、富岡に戻りたい気もあったが現実的には難しく、避難先での就職や東京等へ出ることも考えざるを得ない。
- ・住む場所、生活を震災後2週間で決断させられた。今後の生活は考える時間が必要。

#### ●二重住民制について

- ・住民票を異動しないと、避難先での行政サービスを受けることができないこともある。
- ・避難先ではなく、富岡町からの支援を求めている人がいる。
- ・仕事とも関連し住民票の問題には課題が多い。

#### ●支援のあり方について

- ・「自立を促す」支援とは何かを考える必要がある。
- ・モノの支援はもう必要ないのではないか。必要なのは人的支援で、高齢者見回り等である。
- ・心のつながりや交流の機会が必要である。若い人での意見交換の場も作りたい。

#### ●避難先でのコミュニティづくりについて

- ・避難先でもコミュニティを持ちたいと考える人は多いが、それができない人も多い。
- ・県外で暮らす町民のコミュニティ実現により、県内での町民コミュニティも併せて改善できるのではないかと。
- ・話を聞いてもらいたいと思っている町民が多い。自治会や学校という大きな単位だけでなく、親戚や友人という小さい単位での集まりについても検討したい。

#### ●避難者受け入れへの拒否意識を持つ地域もある

- ・避難者扱い、いやがらせなど、今でも生活しにくい環境がある地域もある。

#### ●住民票について

- ・住民票を異動せずにおくと、免許など手続きが面倒な場面がある。
- ・住民票を移さずに避難先で生活する方々について、補償の面での問題も解消されており、様々な手続きでの面倒がありながら、なぜ移さずにいるのかを考える必要がある。
- ・富岡との関係性を断ち切りたくない意識がはたらいている。
- ・富岡町への復興の思いや帰還したいという意思表示、高速道路無料等のメリットがある一方で、原発賠償の話題になると後ろめたい雰囲気にもなる。

#### ●子どもたちの富岡への思いを切らさない

- ・子どもたちのふるさとが、富岡から避難先に移ってしまうことが懸念される。子ども達は避難先で馴染んでいる。
- ・震災のことを思い出したくない子ども達も多い。
- ・震災当時3~4歳以下だった子ども達は富岡町のことを知らない。知らない町がふるさとであることに混乱が生じることが心配。
- ・子どもたちが、今回の避難で将来壁にぶつかることが考えられる。その際の支援の仕組みが必要である。



### ◆心のつながり部会出検討された課題について

#### ●交流、コミュニティの維持に関して

- ・心のつながりのためには、町民同士が交流できる機会・場所が必要。
- ・富岡のコミュニティと、避難先の新しい場所のコミュニティの両方が必要。避難先でのつながりが3年も経つと生まれてきている。

#### ●心のつながりは、努力しないと保てなくなってきている。

- ・心のつながりは努力をしないと保てない。心のつながりを保つにはエネルギーがいる。
- ・エネルギーがあまり出せない人には行政のサポートが必要である。

#### ●富岡町の中に休憩、宿泊、交流ができるようなサロンが必要。

- ・避難先でも町民同士のコミュニティがあると思うが、富岡町の中であるということに意味がある。
- ・現地にサロンを作り、そこに行くことで積極的にコミュニティを作れる場があるという意見があるが、一方で、すべての人が直接サロンでつながることは難しい。現地に行けない人にも手を差し出すことができるといい。

#### ●きれいな町の再生と、桜の維持が心のつながりを持ち続けるために必要。

- ・桜の維持は将来的に帰れる場所があるという意味がある。
- ・桜の時期に子どもを連れてきている人がいたが、今子どもを連れていったらがっかりする。除染や草を刈ったり、町をきれいにしてから連れていくべき。

#### ●一人ひとりにあった対策が必要

- ・子どもは、富岡の記憶や富岡への愛着があまりない。大人と違い、子どもはいつまでも富岡町民という気持ちではない。心は時間が経つにつれて変化する。
- ・年齢や家族構成など個々にあったパターンを考えないといけない。
- ・富岡町を離れる人の最終的な気持ちは「もういいや」だと思う。

#### ●情報発信による心のつながりの重要性。

- ・富岡町の歴史が途絶えてしまわないように、昔から今の状況の情報を発信できる場所があってもいい。
- ・若い世代で富岡への思いを膨らませるような人材を育成する第一歩として、この町のことを伝えていく「歴史と保存プロジェクト」もある。
- ・避難先の仮設住宅や県外にいと富岡町との繋がりが薄れていく中で、あるきっかけで富岡町の人たちと繋がっていくことでエネルギーとなることがある。

#### ●富岡町と避難地とを行ったり来たりできる選択肢が必要。

- ・富岡町と避難地との両方を行ったり来たりできる選択肢が必要である。
- ・いくつかの選択肢を選べるようにすることが大切。行ったり来たりしながら、10年後20年後に戻ってくるという選択肢を一緒に作れるようにする。

#### ●心のつながりを保つためには、帰還したくなるような早急な整備が大切。

- ・安心安全な町に戻すには時間がかかるので、段階的に帰って来られる人を増やしていくような基盤づくりが必要である。
- ・コンパクトなまちづくりは必要かどうかを含めて検討する必要がある。

### ◆産業再生・創出部会で検討された課題について

#### ●産業を担う人材が課題

- ・富岡町で事業再開する際に、そこで働く人材の確保が課題。現在避難先で事業再開しているが、富岡町に戻る際に、一緒に戻ってくれる社員は限定的である。
- ・農業も人手が必要であり、高齢者ばかりではできない部分もある。持続的な産業とするにも人材は必要。

#### ●高齢者の活躍を促すこと

- ・アンケートからは町に戻りたいという意見は高齢者からが多く、高齢者のための産業を考えてもよい。
- ・高齢者施設やがんセンター等の整備が考えられる。
- ・元気な高齢者が農作業を行うことで、そのほかの事業者や住民がついてくるのではないか。

#### ●ハードの整備だけでなくソフト（制度面）の構築も必要

- ・町内での拠点があると町民が集まり復興が進むと考えられる。
- ・取り掛かれるところから行動に移していく必要がある。
- ・まちづくりの方向性、土地活用について考えることが必要。

#### ●財源の確保が必要

- ・県や国からの財源確保の考え方見直しが必要。

#### ●農地の除染と帰還のタイミングに差異

- ・農地除染・整地をしてもすぐに草は生えてくる。帰還後すぐに農業再開できるように、帰還までの間、農地管理を行う仕組みが必要。

#### ●農地の除染・管理・活用について

- ・遠方に避難していても、農地の管理ができる仕組み構築が必要。
- ・遊休農地での太陽光パネル設置ができないか。
- ・農業が営まれることで環境が保たれ、きれいで価値のある里山が多かったことを認識すべき。

#### ●農地に関する法制度の問題

- ・農地の畑としての活用ができない場合の太陽光発電や、線量の低い場所の農地は宅地として利用するなど考えたいが、農地法等制度の問題でできないことがある

#### ●町のストックを最大限活用

- ・世界に誇れる送電・配電施設が利用できる。
- ・持続的な雇用創出の仕組みが必要。
- ・太陽光発電では、パネル設置時の雇用はあるが持続的な雇用は生まない。

#### ●整備したことによる地域へのメリットを考える

- ・福島第一原発の廃炉後の活用として火力発電所が考えられるが、地域活性化への効果が薄い。
- ・環境が整備されることは良いが、富岡町が都市化してしまうのは抵抗がある。

#### ●広域での事業検討も必要

- ・町単独ではできないこともあると思うので、双葉群広域での事業推進を考える必要があるのではないか。

### (3) 検討委員会で考えた重要な取り組み

●計画の重点事業を検討するため、検討委員会で議論した中から短期的(3~5年)、長期的(10~30年後)それぞれの観点で重要度の評価を行いました。

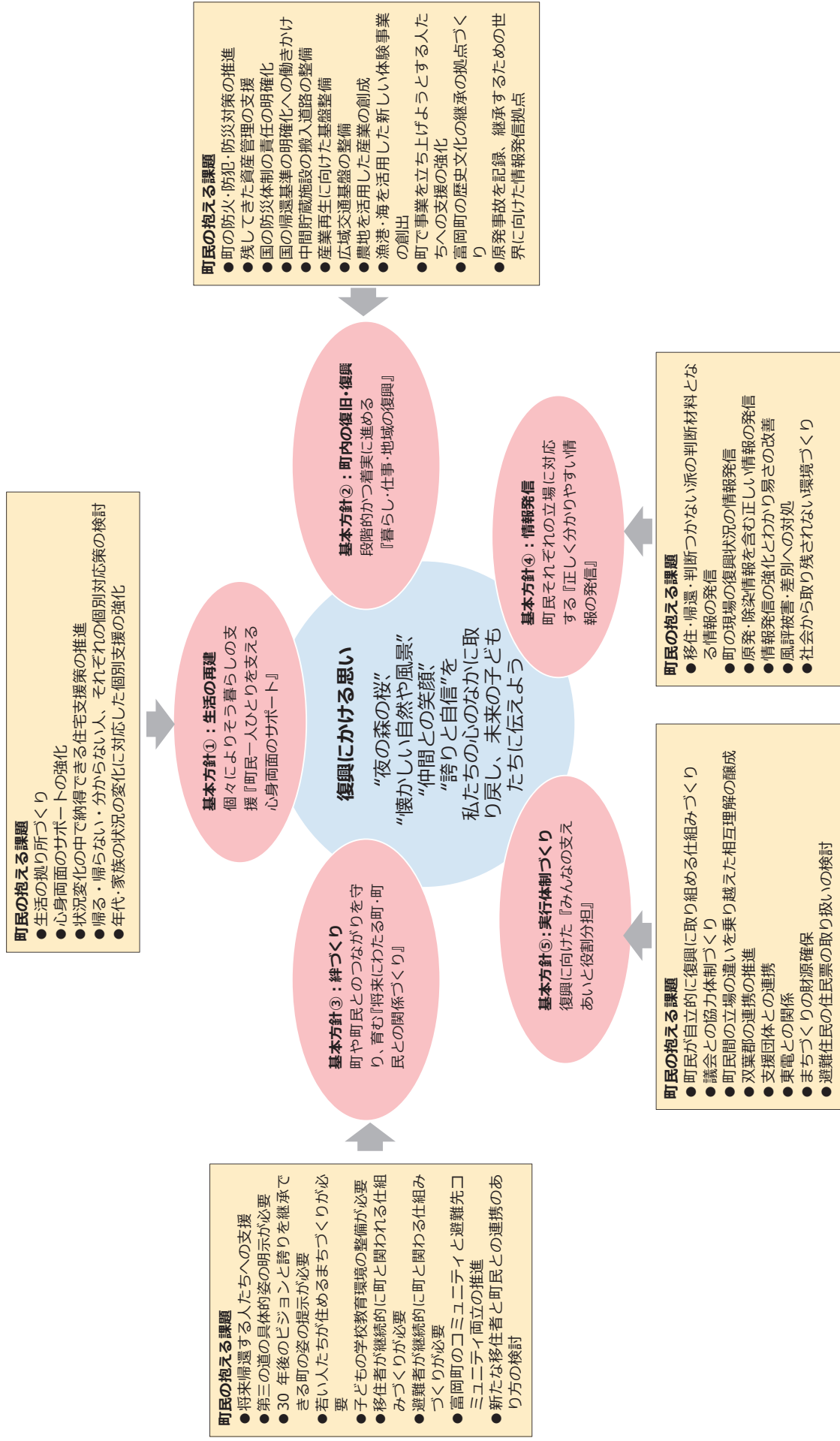
図：検討委員会で挙げられた重要事業の上位10項目（短期・長期）

短期的観点（3~5年後）から重要だと考える事業（上位10位）	長期的観点（10~30年後）から重要だと考える事業（上位10位）
1位：未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備	1位：子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
2位：避難先町民のニーズ把握	2位：エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
3位：避難者の自立に向けた支援	3位：未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備 3位：雇用創出に向けた夢のある産業づくり
4位：広域的な道路・鉄道交通基盤の整備 4位：個別支援の強化と見える化	5位：広域的な道路・鉄道交通基盤の整備
6位：IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み	6位：災害に強い防災基盤整備
7位：高齢者の孤立防止	7位：富岡町の歴史を踏まえた拠点づくり 7位：富岡のシンボル桜によるまちづくり
8位：富岡とのつながりづくりの維持と推進 8位：富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり	9位：住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
10位：住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進	10位：双葉郡の連携 10位：農業・農地再生に向けた取り組み 10位：魅力ある教育施設の充実

検討委員会で検討した重要事業の上位10項目（短期・長期）

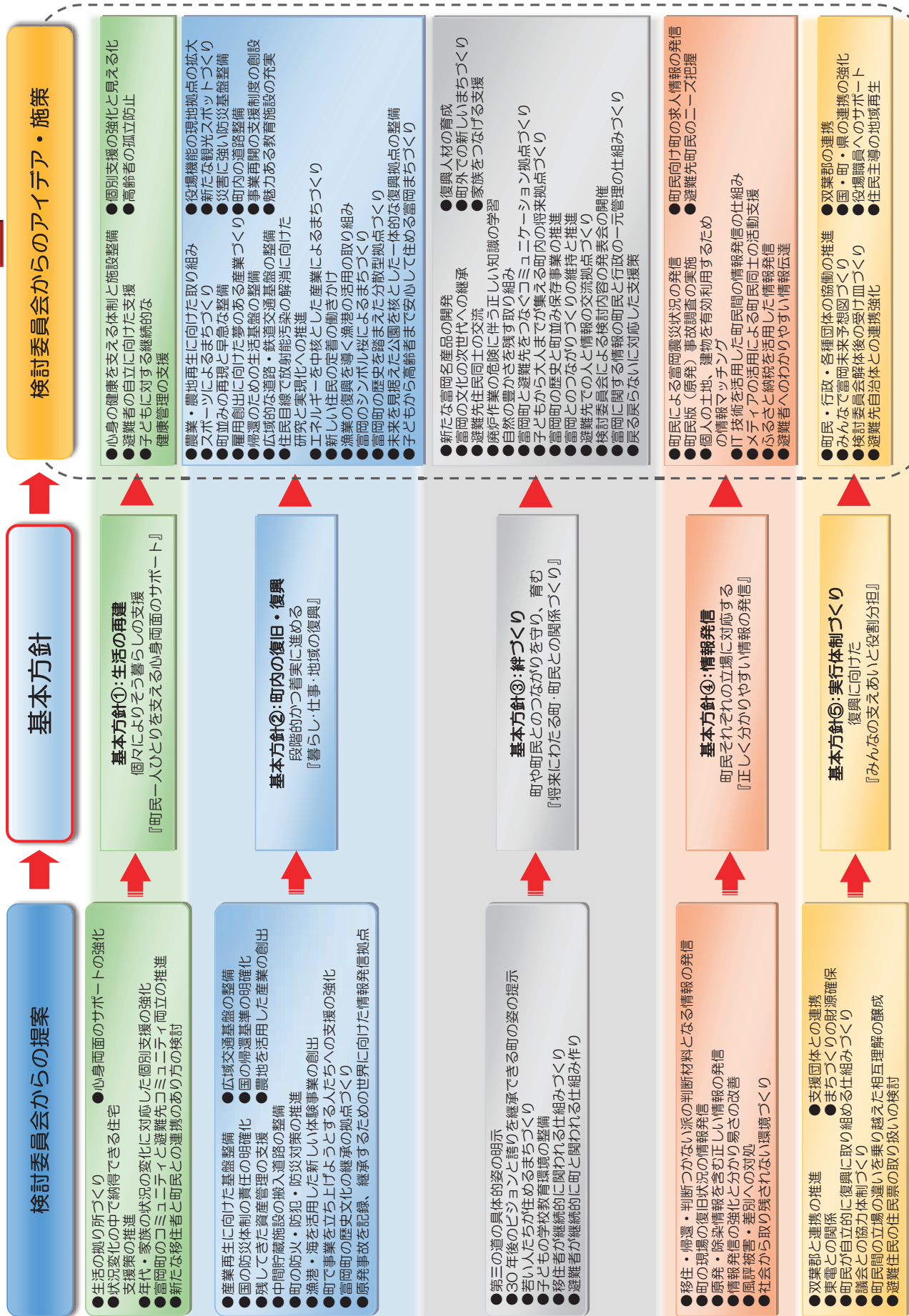
## (4) 基本方針の策定根拠

～基本方針は、検討委員会で話し合われた「町民の抱える課題」から決めました～





(5) 検村委員会で考えた 課題-基本方針-アイデア-取り組みの関連



## (6) 富岡町の復興を進める検討委員会の提案

基本方針	中区分	富岡町の復興を進める56の提案	項
1 生活の再建	1-1: 避難先で安心して生活が成り立つ支援策の推進	生活の拠り所づくり (提案Z)	23
		心身両面のサポートの強化 (提案お)	24
		状況変化の中で納得できる住宅支援策の推進 (提案S)	25
	1-2: 年代・家族の状況の変化と、それぞれの選択肢に対応した個別支援の強化	帰る・帰らない・分からない人、それぞれの個別対応策の展開 (提案W)	26
		将来帰還する人たちへの支援 (提案X)	27
		年代・家族の状況の変化に対応した個別支援の強化 (提案Y)	28
	1-3: 避難先コミュニティ・富岡町コミュニティ・新たな移住者を含めた富岡コミュニティの3つのコミュニティの形成	富岡町のコミュニティと避難先コミュニティ両立の推進 (提案く)	29
		町外でのスマートシティづくりの検討 (提案Q)	30
		新たな移住者と町民との連携のあり方の検討 (提案V)	31
	2 町内の復旧・復興	2-1: 町に現存する町民の資産の管理・保全の推進	町の防火・防犯・防災対策の推進 (提案B)
残してきた資産管理の支援 (提案せ)			33
2-2: 国の責任である原発事故の解決と安全な帰還の道筋の明確化への働きかけ		国の責任による廃炉作業の管理 (提案こ)	34
		原発・原子力事故防止体制の構築 (提案A)	35
		国の帰還基準の明確化への働きかけ (提案G)	36
2-3: 放射能の除染・管理・処分の道筋づくりによる住める環境づくり		除染による住み易いまちづくり (提案そ)	37
		中間貯蔵施設の搬入道路の整備 (提案た)	38
		管理型処分場の設置の可否の検討 (提案ち)	39
2-4: 産業再生に向けた基盤整備		産業再生に向けた基盤整備 (提案と)	40
		広域交通基盤の整備 (提案ぬ)	41
2-5: 原発事故を吹き飛ばす産業の再生・創出		原発被災を吹き飛ばす新たな産業づくり (提案な)	42
		農地を活用した産業の創成 (提案け)	43
		漁港・海を活用した新しい体験事業の創出 (提案ほ)	44
2-6: 地域産業の再建人材の育成と支援の強化		町で事業を立ち上げようとする人たちの支援の強化 (提案て)	45
		地域産業の後継者づくり (提案は)	46
2-7: 富岡町の歴史・文化と原発事故の記録、継承、世界的情報発信の拠点づくり		富岡町の歴史文化の継承の拠点づくり (提案ね)	47
		原発事故を記録、継承するための世界に向けた情報発信拠点 (提案ふ)	48

3 絆づくり	3-1: 30年後のビジョンと誇りを継承できる町の姿の提示	第三の道の具体的姿の明示(提案い)	49
		30年後のビジョンと誇りを継承できる町の姿の提示(提案き)	50
	3-2: 帰還によって世代継承ができる環境づくりの推進	人口減少への対策(提案あ)	51
		帰還に値する環境づくりの推進(提案う)	52
		若い人たちが住めるまちづくり(提案に)	53
		子どもの学校教育環境の整備(提案え)	54
	3-3: 移住者、避難者誰もが心のふるさと富岡町と繋がりが続けられる仕組みづくり	帰還しない人が継続的に町と関われる仕組みづくり(提案T)	55
		帰還希望者・分からない人が継続的に町と関わる仕組みづくり(提案U)	56
		ふるさと富岡の心のつながりづくりの推進(提案す)	57
4 情報発信	4-1: 移住・帰還・保留の選択の判断材料となる、国・県・町の復興の取り組みと現場の状況の把握と情報発信	移住・帰還・判断つかない派の判断材料となる情報の発信(提案P)	59
		国・県・町の復興取り組み状況の把握(提案L)	60
		町の復興状況の情報発信(提案E)	61
	4-2: 原発・除染情報を含む正しさ、わかり易さを主軸として情報発信の強化	原発・除染情報に関する正しい情報の発信(提案J)	62
		情報発信の強化とわかり易さの改善(提案K)	63
	4-3: 原発被災者であることに対する社会的差別と風化への対処	長期化による被災意識、世論の風化への対応(提案F)	64
		風評被害・差別への対処(提案ひ)	65
社会から取り残されない環境づくり(提案へ)		66	
5 実行体制づくり	5-1: 町民が自立的に復興に取り組めるための拠点と仕組みづくり	町民が自立的に復興に取り組める仕組みづくり(提案つ)	67
		住民のための富岡町復興拠点の整備(提案の)	68
	5-2: 課題解決に向けた議会・行政・町民の縦横の立場の違いを乗り越えた協力体制作り	町民・行政・議会の三位一体の体制づくり(提案さ)	69
		町の横断的な課題解決の仕組みづくり(提案し)	70
		町民間の立場を乗り越えた相互理解の醸成(提案か)	71
	5-3: 町を取り巻く利害関係組織との連携・協働	双葉郡の連携の推進(提案I)	72
		支援団体との連携(提案R)	73
		東電との関係(提案N)	74
	5-4: 避難生活と復興の取り組みに対する町民と町の財源補償の確立	賠償問題の早期確定(提案O)	75
		まちづくりの財源確保(提案M)	76
	5-5: 町民の権利を守るべく、避難状況の実態の沿った法整備と支援	避難状況の実態に沿った法整備(提案D)	77
避難住民の住民票の取り扱いの検討(提案C)		78	
住民の求める国の支援策の引き出し(提案H)		79	

# 基本方針 1 生活の再建

## 個々により暮らしの支援

### 『町民一人ひとりを支える心身両面のサポート』

#### 1-1. 避難先で安心して生活が成り立つ支援策の推進

##### 取り組み 1：生活の拠り所づくり

第 1 第 2 第 3 短期 中長期

###### <取り組みの方針>

- ・ 些細な相談ができる拠点の設置をめざします。
- ・ 避難先で高齢者が家の外に出て活動できる機会を創出します。
- ・ 避難先で共用農地を用意し作業できる場を作ります。

###### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難者の自立に向けた支援
- 高齢者の孤立化防止

##### 取り組み 2：心身両面のサポートの強化

第 1 第 2 第 3 短期 中長期

###### <取り組みの方針>

- ・ 放射線に対する健康管理の継続と充実を図ります。
- ・ 高齢者の孤立防止や健康増進の高齢者サポートの充実を図ります。
- ・ 町民と町や支援組織が、直接話ができる仕組みや機会創出を図ります。
- ・ 悩みに応じて相談ができる窓口の設置や専門家の設置を推進します。
- ・ さくらスポーツとの連携を推進します。

###### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 心身の健康を支える体制と施設整備
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- 役場職員へのサポート
- 個別支援の強化と見える化
- 子どもに対する継続的な健康管理の支援
- 避難者の自立に向けた支援
- 高齢者の孤立化防止
- 町民・行政・各種団体の協働の推進
- 検討委員会解散後の受け皿づくり



### 取り組み3：状況変化の中で納得できる住宅支援策の推進

#### <取り組みの方針>

- ・町民の意向調査に基づく災害公営住宅の整備を進めます。
- ・災害復興公営住宅情報を発信します。
- ・復興公営住宅の入居要件の緩和を要求していきます。
- ・災害復興公営住宅のスペック向上をめざします。
- ・避難継続中は借り上げ住宅制度を続けられるよう国に求めます。
- ・町内住宅の整備を進めます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 避難先町民のニーズ把握

## 1-2. 年代・家族の状況の変化と、それぞれの選択肢に対応した個別支援の強化

### 取り組み4：帰る・帰らない・分からない人、それぞれの個別対応策の展開

#### <取り組みの方針>

- ・町民の個人の選択を尊重した個別の支援策を展開していきます。
- ・町民がどんな選択をしても後ろめたさを持たない、前向きに町と関われる関係の構築をめざします。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 避難先町民のニーズ把握
- 家族をつなげる支援

## 取り組み5：将来帰還する人たちへの支援

第1

第2

第3

短期

中長期

### <取り組みの方針>

- ・ 町民の帰還に対するニーズを、継続的に聞いていきます。
- ・ 帰還に対して、高齢者にも住みやすいまちづくりを進めていきます。
- ・ 将来帰還者への生活再建、自立支援を行います。
- ・ 将来において若い人たちが帰還、町との関わりをもてるよう、町の歴史や記憶の保存と情報発信を行います。
- ・ Iターン、Vターン者の受け皿となる環境整備を進めます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 富岡とのつながりづくりの維持と推進

第1

第2

第3

短期

中長期

## 取り組み6：年代・家族の状況の変化に対応した個別支援の強化

### <取り組みの方針>

- ・ 必要な支援策を必要としている方へ展開し、取り組みます。
- ・ タブレット、電話で相談ができる仕組みを構築します。
- ・ 個別の状況、そして変化に対応した支援策に取り組みます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 心身の健康を支える体制と施設整備
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- 町民向け町の求人情報の発信
- 役場職員へのサポート
- 家族をつなげる支援
- 個別支援の強化と見える化
- 子どもに対する継続的な健康管理の支援
- 避難者の自立に向けた支援
- 高齢者の孤立化防止

# 1-3. 避難先コミュニティ・富岡町コミュニティ・新たな帰還しない人を含めた富岡コミュニティの3つのコミュニティの形成

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

## 取り組み7：富岡町のコミュニティと避難先コミュニティ両立の推進

### <取り組みの方針>

- ・避難者が避難先地域にとけ込めるよう支援していきます。
- ・避難先で富岡町民が語らう交流の機会を増やします。
- ・県外での交流の場づくりに努めます。
- ・避難者が分け隔てなく語らうことで復興への醸成の場を図ります。
- ・多くの町民が参加できるよう情報発信を強化していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
- 除染による住み易いまちづくり
- 管理型処分場の設置の可否の検討

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

## 取り組み8：町外でのスマートシティづくり

### <取り組みの方針>

- ・避難先でも町民同士のつながりを保つためのソフト事業を展開します。
- ・多くの町民が避難する先の町立の保育所・小中学校を維持し、医療機関を充実するよう国・県に求めます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 町外での新しいまちづくり
- 国・町・県の連携の強化

第1

第2

第3

短期

中長期

## 取り組み9：新たな移住者と町民との連携のあり方の検討

### <取り組みの方針>

- ・町民と新たな住民の交流を図り、復興へ歩んでいきます。
- ・町民と新たな住民が安心して生活できる環境づくりを進めます。
- ・富岡町に住みたいと思ってもらえるよう魅力ある情報を発信していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな富岡名産品の開発
- 新しい住民の定着の働きかけ
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 町民・行政・各種団体の協働の推進

## 基本方針 2 町内の復旧・復興

### 段階的かつ着実に進める

#### 『暮らし・仕事・地域の復興』

## 2-1. 町に現存する町民の資産の管理・保全の推進

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

### 取り組み10：町の防火・防犯・防災対策の推進

#### <取り組みの方針>

- ・家屋、農地などの雑草は火災の原因となり、ふるさとの景観が失われることが懸念されるため、維持管理体制を構築します。
- ・消防団、警察、JVによるパトロールを継続します。
- ・防犯カメラの運用を続けます。
- ・福島第1原発の廃炉作業を含めた新たな『防災計画』は町民の意向や町の復興状況を踏まえて早期の策定をめざします。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 町並みの再現と早急な整備
- 災害に強い防災基盤整備
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり

### 取り組み11：残してきた資産管理の支援

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

#### <取り組みの方針>

- ・荒廃した家屋については、環境省による解体を実施します。
- ・農地などの保全は、除草を行う管理組合などの設置を進めております。
- ・相続や土地取引が円滑に行われるよう、広報誌やホームページを活用し随時各種制度についての情報提供を行います。
- ・適正な資産財産管理が行われる仕組みづくりを検討していきます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 個人の土地、建物を有効利用するための情報のマッチング

## 2-2. 国の責任である原発事故の解決と安全な帰還の道筋の明確化への働きかけ

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

### 取り組み12：国の責任による廃炉作業の管理

#### <取り組みの方針>

- ・ 廃炉作業の継続的な監視を行う仕組みづくりを進めます。
- ・ 原子力災害への防災体制、住民の安全な生活を確保する道路網や避難施設の整備を進めます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

### 取り組み13：原発・原子力事故防止体制の構築

#### <取り組みの方針>

- ・ 全国の原発立地地域と連携し、原子力事故の検証、原因追求、公表、原子力災害に対応する災害法制の見直しを求めます。
- ・ 福島第一原発の廃炉や第二原発についての防災計画を策定します。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 町民版（原発）事故調査の実施
- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- みんなで富岡未来予想図づくり

## 取り組み 14 : 国の帰還基準の明確化への働きかけ

### <取り組みの方針>

- ・ 廃炉作業の監視を行い、町民の安全を確保する体制を構築します。
- ・ 町の帰還基準をより明確にするよう国へ示していきます。
- ・ 放射線に対する考え方を示し、放射線に関する知識の普及に努めます。
- ・ 帰還に必要な町内の生活関連サービスの整備を進めます。
- ・ 町民が納得できる帰還基準を設定します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 帰還のための生活基盤の整備
- 町民版(原発)事故調査の実施
- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 災害に強い防災基盤整備

## 2-3. 放射能の除染・管理・処分の道筋づくりによる住める環境づくり

## 取り組み 15 : 除染による住み易いまちづくり

### <取り組みの方針>

- ・ 帰還困難区域に対する除染方針を早急に確立させるよう求めます。
- ・ 国に対し、住民が納得する除染方法の確立を求めます。
- ・ 除染方法について、研究機関と有効な手段を模索していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- スポーツによるまちづくり
- みんなで富岡未来予想図づくり

第 1	第 2	第 3		短期	中長期
-----	-----	-----	--	----	-----

## 取り組み 16：中間貯蔵施設の搬入道路の整備

### <取り組みの方針>

- ・搬入専用の道路整備計画の提示を国に求めます。
- ・搬入に関する線量管理の徹底を求めます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備
- 町内の道路整備
- 国・町・県の連携の強化

第 1	第 2	第 3		短期	中長期
-----	-----	-----	--	----	-----

## 取り組み 17：管理型処分場の設置の可否の検討

### <取り組みの方針>

- ・町民の意向把握を継続的に実施し、管理型処分場の設置可否の検討を進めていきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 国・町・県の連携の強化
- 住民投票による帰還時期の決定
- 富岡に関する情報の町民と行政の一元管理の仕組みづくり



## 2-4. 産業再生に向けた基盤整備

### 取り組み18：産業再生に向けた基盤整備

第1

第2

第3

短期

中長期

#### <取り組みの方針>

- ・ライフラインとインフラの復旧、除染の早期完了を推進します。
- ・現状に対応した土地利用の見直しを図ります。
- ・商業施設、医療施設の整備、事業従事者の生活拠点の確保を図ります。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 町内の道路整備
- 帰還のための生活基盤の整備
- 事業再開の支援制度の創設
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 魅力ある教育施設の充実
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 町民向け町の求人情報の発信
- みんなで富岡未来予想図づくり

### 取り組み19：広域交通基盤の整備

第1

第2

第3

短期

中長期

#### <取り組みの方針>

- ・広域交通基盤の検討・整備促進を図り、町の発展につなげていきます。
- ・広域的な交通基盤の整備により町民の暮らし方の選択肢の増加につなげていきます。
- ・2020年の東京オリンピックの開催時に多くの人に富岡に来てもらうための広域交通ネットワークの確保を図ります。
- ・県道小野富岡線の拡幅・広規格化を国・県に整備を求めます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 町内の道路整備
- 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備
- 富岡町の歴史を踏まえた拠点づくり
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 国・町・県の連携の強化

## 2-5. 原発事故を吹き飛ばす産業の再生・創出

第1

第2

第3

短期

中長期

### 取り組み20：原発被災を吹き飛ばす新たな産業づくり

#### <取り組みの方針>

- ・自然再生エネルギーを活用とした産業づくりを推進します。
- ・農林水産業の復興、町民の雇用創出に繋がる産業づくりを検討します。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな富岡名産品の開発
- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 災害に強い防災基盤整備
- 雇用創出に向けた夢のある産業づくり
- 事業再開の支援制度の創設
- 新しい住民の定着の働きかけ
- 新たな観光スポットづくり
- 漁業の復興を導く漁港の活用の取り組み
- 富岡町の歴史を踏まえた拠点づくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 魅力ある教育施設の充実
- 町民による富岡震災状況の発信
- 心身の健康を支える体制と施設整備
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- みんなで富岡未来予想図づくり

### 取り組み21：農地を活用した産業の創成

第1

第2

第3

短期

中長期

#### <取り組みの方針>

- ・農作物や海産物に対する徹底した検査体制を作ります。
- ・農業委員会や土地改良区、農協と連携して、遊休農地の保全・管理を進めていく仕組みづくりを進めています。
- ・新たな産業おこしや活用に向けた実験や、事業化を進めます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 個人の土地、建物を有効利用するための情報のマッチング
- 農業・農地再生に向けた取り組み

## 取り組み 2 2 : 漁港・海を活用した新しい体験事業の創出

### <取り組みの方針>

- ・当面、震災以前の漁業の再興が難しい富岡漁港を、新たな産業を育成する場所として活用し魚介類の安全性やエネルギーに関する学習ができる漁港とします。
- ・海～漁港・海岸線～後背地を結ぶエリアを、復興祈念公園として位置づけ、世界から人が訪れ、交流し、レクリエーションの場として活用します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 新たな観光スポットづくり
- 漁業の復興を導く漁港の活用の取り組み

## 2-6. 地域産業の再建人材の育成と支援の強化

## 取り組み 2 3 : 町で事業を立ち上げようとする人たちへの支援の強化

### <取り組みの方針>

- ・町内での事業再開における用地確保、施設整備、人材確保に向けた支援を行います。
- ・新たに町内で事業を始めたい方への起業・育成に関する支援を行います。
- ・町の復興に必要なサービスを提供する事業者に関して、町からの委託などでの事業支援を行います。
- ・町内で事業を再開・起業した事業所については、情報発信を行います。
- ・税制優遇策の創出を検討します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 事業再開の支援制度の創設

## 取り組み24：地域産業の後継者づくり

第1

第2

第3

短期

中長期

### <取り組みの方針>

- ・後継者確保・育成に関するニーズ把握を行います。
- ・専門知識の習得など後継者育成を支援する事業を行います。
- ・後継者が従事できる、地域産業を活かした新たな事業を創出します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 雇用創出に向けた夢のある産業づくり
- 新たな富岡名産品の開発
- 事業再開の支援制度の創設
- 農業・農地再生に向けた取り組み
- 復興人材の育成

## 2-7. 富岡町の歴史・文化と原発事故の記録、継承、世界的情報発信の拠点づくり

第1

第2

第3

短期

中長期

## 取り組み25：富岡町の歴史文化の継承の拠点づくり

### <取り組みの方針>

- ・町内での祭り・行事・伝統芸能の継承を図ります。
- ・祭り・行事・伝統芸能の体感プログラムの企画、実践を図ります。
- ・震災の記録を含む、富岡町の歴史文化遺産の保存・継承を図ります。
- ・子どもたちに富岡の記憶を多様な媒体を用いて伝えていきます。
- ・富岡の歴史文化の継承・発信拠点の整備を図ります。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 町並みの再現と早急な整備
- 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 富岡の文化の次世代への継承
- 避難先住民同士の交流と
- メディアの活用による町民同士の活動支援

**取り組み 26 : 原発事故を記録、継承するための世界に向けた情報発信拠点****<取り組みの方針>**

- ・町民への聞き取り、震災遺構の保存などを通じて、地震や津波、原発事故に関する記録の収集と保存（アーカイブ）と、教訓を次世代へ継承します。
- ・原発事故の記録を世界に向け発信する情報拠点施設の整備を行います。
- ・記憶遺産として世界から人々が学びに集まる町をめざします。

**<取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>**

- 町民版（原発）事故調査の実施
- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 新たな観光スポットづくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 町民による富岡震災状況の発信
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 富岡の文化の次世代への継承

## 基本方針3 絆づくり

町や町民とのつながりを守り、育む  
『将来にわたる町・町民との関係づくり』

### 3-1. 30年後のビジョンと誇りを継承できる町の姿の提示

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

#### 取り組み27：第三の道の具体的姿の明示

##### <取り組みの方針>

- ・ 帰還、移住ではない、今は判断できない(しない)といった新たな道を提示し、法制度改正や施策の実現について、有識者と連携しながら検討・提案を進めていきます。
- ・ 各個人の選択を尊重し、移住や将来的な帰還を選択した人でも、何らかの形で富岡町と関わり合える環境を整えます。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- ふるさと納税を活用した情報発信
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 富岡の文化の次世代への継承
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難先住民同士の交流と支えあい
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- 個別支援の強化と見える化
- 避難先自治体との連携強化
- 避難者の自立に向けた支援

第 1

第 2

第 3

短期

中長期

## 取り組み 28 : 30 年後のビジョンと誇りを継承できる町の姿の提示

### <取り組みの方針>

・今後定める実施計画で具体像を示していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 町内の道路整備
- 富岡町の歴史を踏まえた拠点づくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- みんなで富岡未来予想図づくり

## 3-2. 帰還によって世代継承できる環境づくりの推進

第 1

第 2

第 3

短期

中長期

## 取り組み 29 : 人口減少への対策

### <取り組みの方針>

- ・町民の帰還意向などのアンケート調査を踏まえ、避難指示解除後の帰還人口フレームを想定します。また、どうすれば町に戻りたいと思うか、将来若い人が住みたい、戻りたいと思う町となるのかについて検討を進めていきます。
- ・大幅な人口減少を食い止めるために、帰還町民のための住居、生活関連サービスの確保、並びに雇用確保を図ります。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新しい住民の定着の働きかけ
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
- 帰還のための生活基盤の整備



### 取り組み30：

#### 帰還に値する環境づくりの推進

第1

第2

第3

短期

中長期

#### <取り組みの方針>

- ・除染を推進し、子どもが安心して帰れる環境の整備をめざします。
- ・曲田・岡内地区を復興拠点として、機能的なまちづくりを進めます。
- ・曲田・岡内以外の拠点整備の可能性についても模索・検討していきます。
- ・除染作業が進む中、土地や建物の管理を徹底し、町の環境・美観の維持を図ります。
- ・復興祈念公園により、人の集うまちづくりをすすめます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- エネルギーを中核とした産業によるまちづくり
- 町並みの再現と早急な整備
- 町内の道路整備
- 帰還のための生活基盤の整備
- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 富岡町の歴史を踏まえた拠点づくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 自然の豊かさを残す取り組み
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 心身の健康を支える体制と施設整備
- 子どもから高齢者まで安心して住める富岡まちづくり
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難者の自立に向けた支援
- みんなで富岡未来予想図づくり
- 検討委員会解散後の受け皿づくり

### 取り組み31：

#### 若い人たちが住めるまちづくり

第1

第2

第3

短期

中長期

#### <取り組みの方針>

- ・ふるさと富岡とのつながりを保つため、若い世代の現状や悩みを共有できる場の設置や再会の集いなどのイベントを継続して実施します。
- ・フェイスブックやタブレットを活用し、町とのつながりを維持していきます。
- ・病院や学校、商業施設が近接した子育て環境の充実を図ります。
- ・若い人の雇用の場を確保するため、従前の企業再開を支援するとともに、新規企業の誘致を積極的に図ります。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡の文化の次世代への継承
- 子どもに対する継続的な健康管理の支援
- 避難先自治体との連携の強化

### 取り組み32：

#### 子どもの学校教育環境の整備

第1

第2

第3

短期

中長期

##### <取り組みの方針>

- ・保護者の不安を解消することが、子どもの不安解消につながります。保護者と子どもたち双方の声を継続的に聞き、施策に反映する仕組みをつくりまします。
- ・「双葉郡からの避難者だから」という非難や偏見といった差別（子どもアンケート）があるため、子どもが安心して教育が受けられる環境整備に向け、避難先市町村との連携を図ります。
- ・町内の学校、生涯学習施設・運動施設など文化施設の再開に向けた検討をすすめます。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 災害に強い防災基盤整備
- 帰還のための生活基盤の整備
- 魅力ある教育施設の充実
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 富岡の文化の次世代への継承
- 避難先住民同士の交流
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- 避難先町民のニーズ把握
- 家族をつなげる支援

### 3-3. 帰還しない人、避難者誰もが心のふるさと富岡町と繋がりに続けられる仕組みづくり

### 取り組み33：

#### 帰還しない人が継続的に町と関われる仕組みづくり

第1

第2

第3

短期

中長期

##### <取り組みの方針>

- ・富岡町に「関わりたい」と思う人すべてがつながることができる仕組みづくりを推進します。
- ・移住を決めた町民へも継続的に情報発信方法を行えるよう工夫します。
- ・発信すべき情報の精査と内容の充実を図ります。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな富岡名産品の開発
- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- ふるさと納税を活用した情報発信
- 町民による富岡震災状況の発信
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 個別支援の強化と見える化
- 町民・行政・各種団体の協働の推進

## 取り組み 3 4 : 帰還希望者・分からない人が継続的に町と関わる仕組みづくり

### <取り組みの方針>

- ・将来帰還を希望する人、現時点では分からない人に継続的に情報発信を行えるよう工夫し、発信すべき情報の精査と内容の充実を図ります。
- ・広報やインターネットなどの媒体を活用した情報発信に加え、全国の避難先で顔と顔をあわせて話ができる体制づくりを推進します。
- ・気楽に町に訪れることができる拠点づくり、環境づくりを推進します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 新たな富岡名産品の開発
- 新たな観光スポットづくり
- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- ふるさと納税を活用した情報発信
- 町民による富岡震災状況の発信
- IT 技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 富岡に関する情報の町民と行政の一元管理の仕組みづくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 個別支援の強化と見える化
- 町民・行政・各種団体の協働の推進

## 取り組み35：ふるさと富岡の心のつながりづくりの推進

### <取り組みの方針>

- ・「帰還する権利」「帰還しない・できない権利」「今は判断できない（しない）権利」を認識し、町民同士が互いの選択を尊重できる意識づくりに力を入れます。
- ・富岡の子どもたち、富岡に住むことができない人たちにとっての心のつながりとして、富岡について学び、富岡に愛着をもつことができる「ふるさと富岡」を推進していきます。
- ・多様な状況の中にある町民のそれぞれのニーズを把握し、それぞれの立場での町との関わり方を保ち続けられる仕組みを整えます。
- ・富岡の情報、町民の声、町と関わるための情報の発信を強化していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな富岡名産品の開発
- 事業再開の支援制度の創設
- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 自然の豊かさを残す取り組み
- ふるさと納税を活用した情報発信
- 町民による富岡震災状況の発信
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 富岡に関する情報の町民と行政の一元管理の仕組みづくり
- 富岡の文化の次世代への継承
- 避難先住民同士の交流
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- 個別支援の強化と見える化
- 町民・行政・各種団体の協働の推進
- みんなで富岡未来予想図づくり

## 基本方針 4 情報発信

### 町民それぞれの立場に対応する

### 「正しく分かりやすい情報の発信」

#### 4-1. 移住・帰還・保留の選択の判断材料となる、国・県・町の復興の取り組みと現場の状況の把握と情報発信

第 1	第 2	第 3		短期	中長期
-----	-----	-----	--	----	-----

#### 取り組み 36 : 移住・帰還・判断つかない派の判断材料となる情報の発信

##### <取り組みの方針>

- ・町の将来ビジョン、帰還行程や町の動きに関する情報を発信します。
- ・帰還する、帰還しない、判断を決めかねている方のニーズに沿った情報の発信に努め、それぞれの立場に立った支援策を町民へ示していきます。
- ・判断の材料となる情報の共有をめざし、長期的に判断材料となる情報を発信することで町民がいつでも判断を見直せる環境づくりに努めます。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- IT 技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡とのつながりづくりの維持と推進

第 1	第 2	第 3		短期	中長期
-----	-----	-----	--	----	-----

#### 取り組み 37 : 国・県・町の復興取り組み状況の把握

##### <取り組みの方針>

- ・国、県、町の復旧・復興事業の進捗状況について、随時情報提供していきます。
- ・第 2 次復興計画の策定の経緯が見える化し、必要に応じて、現行計画を精査・検証・見直します。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 国・町・県の連携の強化
- 町民・行政・各種団体の協働の推進
- 検討委員会による検討内容の発表会の開催



### 取り組み38：町の復興状況の情報発信

第1 第2 第3

短期 中長期

#### <取り組みの方針>

- ・富岡に関する正確な情報を、町民と行政とで一元管理して受発信する仕組みづくりを行います。
- ・IT技術を活用し、町民間の情報受発信の仕組みづくりを行います。
- ・富岡町内に、町と避難先とをつなぐ情報発信拠点づくりを行います。
- ・町の今を伝える情報を発信します。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 町民による富岡震災状況の発信
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- 検討委員会による検討内容の発表会の開催

## 4-2. 原発・除染情報を含む正しさ、わかり易さを主軸として情報発信の強化

### 取り組み39：

#### 原発・除染情報に関する正しい情報の発信

第1 第2 第3

短期 中長期

#### <取り組みの方針>

- ・除染や原発の廃炉作業に対して、正確に情報を発信していきます。
- ・町民が放射線に対する正しい知識・情報を学ぶ機会を提供します。
- ・個人の帰還判断の材料となる除染や放射線量の正確な情報を提供するため、県・国など関係機関との情報共有を強化します。
- ・富岡の状況を把握できる機会の設定、情報の提供方法についても検討していきます。
- ・放射線量に関するモニタリングを行い関係機関と協力し、情報の精査を進めていきます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 廃炉作業の危険に伴う正しい知識の学習
- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進

## 取り組み40：

### 情報発信の強化とわかり易さの改善

第1 第2 第3

短期 中長期

#### <取り組みの方針>

- ・定期的に住民ニーズの把握を行います。
- ・帰還判断のためのインフラの復旧状況や放射線量の情報を町民に発信していきます。
- ・子どもや子育て世代、高齢者や仮設住宅居住者、県外避難者などそれぞれの町民の状況に沿った情報を受発信できる仕組み作りを検討していきます。
- ・人と人による、心の通う情報発信の仕組みを構築し、情報発信の改善を図ります。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 個人の土地、建物を有効利用するための情報のマッチング
- 事業再開の支援制度の創設
- 漁業の復興を導く漁港の活用の取り組み
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 富岡に関する情報の町民と行政の一元管理の仕組みづくり
- 避難先住民同士の交流
- メディアの活用による町民同士の活動支援
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者へのわかりやすい情報伝達
- 町民向け町の求人情報の発信
- 個別支援の強化と見える化

## 4-3. 原発被災者であることに対する社会的差別と風化への対応

第1 第2 第3

短期 中長期

### 取り組み41：長期化による被災意識、世論の風化への対応

#### <取り組みの方針>

- ・町民が関心を持って町にかかわり復興に取り組めるよう、情報を発信していきます。
- ・世論の風化に対し、富岡の震災状況の発信強化に努めます。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな観光スポットづくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 町民による富岡震災状況の発信
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 富岡町の歴史と町並み保存事業の推進
- 避難者へのわかりやすい情報伝達



## 取り組み42：風評被害・差別への対処

第1 第2 第3

短期 中長期

### <取り組みの方針>

- ・住民の帰還や他地域からの人の定着を促進するために、分かりやすい放射能の汚染の情報を発信します。
- ・非食用作物、農水産物の放射線量の徹底した測定体制構築により、農水産物を活用した商品の開発など、新たな活用についても検討していきます。
- ・避難先での不当な扱いを受けることが無いよう、町民の避難の経緯と苦労を町外、県外へ情報発信し、理解醸成に努めます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進

第1 第2 第3

短期 中長期

## 取り組み43：社会から取り残されない環境づくり

### <取り組みの方針>

- ・容易に出歩くことができない方への訪問活動を進めます。相談、困っていることなどを伺い、継続した訪問活動を行います。
- ・町に帰還する(した)人、町と避難先(移住先)とを行き来する人、町に戻らない人、それぞれが自立して、地域社会とつながりをもった生活ができるよう相談員制度・支援員の活用を進めます。
- ・お年寄りの孤立化を防ぐため健康体操や料理教室などを開きます。
- ・老若関係なく富岡町のことを話し合える場をつくります。
- ・避難先の町民と町との間で、地域活動の支援、活動を支える人材の育成を行います。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 高齢者の孤立化防止

## 基本方針 5 実行体制づくり

### 復興に向けた

### 『みんなの支えあいと役割分担』

## 5-1. 町民が自立的に復興に取り組めるための拠点と仕組みづくり

第1 第2 第3

短期 中長期

### 取り組み 4-4 : 町民が自立的に復興に取り組める仕組みづくり

#### <取り組みの方針>

- ・避難者の自立にむけた支援を行います。
- ・検討委員会後の災害復興計画の推進・実行体制づくりを行います。
- ・町民主体による復興まちづくり組織の構築を図ります。
- ・復興人材の育成を図ります。

#### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 富岡に関する情報の町民と行政の一元管理の仕組みづくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難者の自立に向けた支援

## 取り組み 4 5 : 住民のための富岡町復興拠点の整備

### <取り組みの方針>

- ・既存インフラを最大限に活用した町民が集住できる復興拠点を岡内・曲田地区に整備し、生活サービスの集約、居住地の確保による賑わい創出、つながりの維持をめざします。
- ・復興拠点には、多くの人が町に訪れ、町の現状を知り、町民同志の交流、町の復興のアイデアを生み出せる情報発信基地・交流拠点も整備します。
- ・帰還のための生活基盤の整備を行います。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 新たな富岡名産品の開発
- 富岡のシンボル桜によるまちづくり
- 未来を見据えた公園を核とした一体的な復興拠点の整備
- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 避難者の自立に向けた支援
- 検討委員会解散後の受け皿づくり

## 5-2. 課題解決に向けた議会・行政・町民の縦横の立場の違いを乗り越えた協力体制作り

## 取り組み 4 6 : 町民・行政・議会の三位一体の体制づくり

### <取り組みの方針>

- ・災害復興計画（第二次）に位置づけられた施策・事業を推進していくために、議会と町と町民とが連携・協力し合える仕組みづくりを構築します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 避難先住民同士の交流

## 取り組み 47：町の横断的な課題解決の仕組みづくり

### <取り組みの方針>

- ・復興を推進できる町の組織体制の見直しについて検討・推進していきます。
- ・部署を横断して合理的に課題解決にあたるプロジェクトチームを有効に活用します。
- ・国や県、双葉郡の市町村などの連携・協力体制を構築します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 富岡の文化の次世代への継承
- 避難先町民のニーズ把握
- 原発事故を記録、継承するための世界に向けた情報発信拠点

## 取り組み 48：町民間の立場の違いを乗り越えた相互理解の醸成

### <取り組みの方針>

- ・町民は県内外に避難したことによって、それぞれ置かれる環境も異なるため、町民同士が様々な町民の状況を理解できるような仕組みを構築します。具体的には、スポーツ大会など同世代が集まることができる交流会などを開催し、町民が集まる機会の創出、また自由に集まって会話をすることができる場の設置、タブレットなどを活用した情報交換などが考えられます。
- ・町内で行われていた祭りの再開や、桜の時期に開催する「復興へのつどい」などを通じて、ふるさとへの想いをともにする機会創出に努めます。
- ・避難指示区域によって格差が生まれぬよう、引き続き国に強く要望していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 子どもから大人までが集える町内の将来の拠点づくり
- IT技術を活用した町民間の情報受発信の仕組み
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先住民同士の交流
- 町民・行政・各種団体の協働の推進
- 検討委員会解散後の受け皿づくり

### 5-3. 町を取り巻く利害関係組織との連携・協働

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

#### 取り組み49：双葉郡の連携の推進

##### <取り組みの方針>

- ・近隣市町村と連携して復興計画の推進を図るための仕組みを構築します。
- ・双葉郡としての連携組織の構築を図ります。
- ・将来的には広域連携・連合・市町村合併を含め、可能性を検討します。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 広域的な道路・鉄道交通基盤の整備
- 双葉郡の連携

第1	第2	第3		短期	中長期
----	----	----	--	----	-----

#### 取り組み50：支援団体との連携

##### <取り組みの方針>

- ・町内での支援団体との連携を強化するために、ボランティアなどの支援団体の受け入れ体制や支援に対する調整を行う、ボランティアセンターを構築、運営していきます。
- ・支援団体が有するノウハウやネットワークと連携して、日本国や世界に向けた情報発信を進めていきます。
- ・県内外の避難地に、町民同士の心の絆の維持、避難町民の相談窓口となる、支援拠点の強化、拡充を図ります。
- ・避難先の住民同士の交流と支え合いを進めます。
- ・町民、行政、各種団体の協働を推進します。

##### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 町民・行政・各種団体の協働の推進

## 取り組み5 1：東電との関係

第1 第2 第3

短期 中長期

### <取り組みの方針>

- ・東京電力への賠償対象項目の追加、一律的な全損賠償の早期確定などを継続していきます。
- ・ADRに関する町の考えを示し、情報提供を通じて、ADRに対する町民の理解促進を図ります。
- ・東電の復興本社の富岡町内への移動を推進するとともに、東電と協力し、町の復興に向けた取り組みを推進します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 町民・行政・各種団体の協働の推進
- 新しい住民の定着の働きかけ

## 5-4. 避難生活と復興の取り組みに対する町民と町の財源補償の確立

## 取り組み5 2：賠償問題の早期確定

第1 第2 第3

短期 中長期

### <取り組みの方針>

- ・避難指示区域間による賠償格差是正に向けて、国・東京電力に対して柔軟な対応を強く求めています。
- ・避難生活の長期化によって発生する精神的苦痛や賠償となる対象項目が公平に行われるよう、国が作成する賠償指針の追加を強く求めています。(一次計画より)
- ・ADRについては、和解事例や最新情報を広報紙やホームページなどを活用し、原子力損害賠償紛争解決センターと協力しながら、ADR手続きに関する説明会を開催し、理解促進に努めています。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 住民目線で放射能汚染の解消に向けた研究と実現化への推進
- 町民・行政・各種団体の協働の推進



## 取り組み53：まちづくりの財源確保

第1 第2 第3

短期 中長期

### <取り組みの方針>

- ・国や県の交付金、町自主財源についての歳入、復旧復興事業などの歳出シミュレーションを実施し、財政計画を策定します。
- ・復旧復興に必要な事業に係る財源は、交付金・補助金の拡充・継続を要望するとともに、自主財源の確保に取り組みます。
- ・まちづくりの財源として、ふるさと納税制度の活用を推進します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- ふるさと納税を活用した情報発信

## 5-5. 町民の権利を守るべく、避難状況の実態に沿った法整備と支援

第1 第2 第3

短期 中長期

## 取り組み54：避難状況の実態に沿った法整備

### <取り組みの方針>

- ・町の復興に向け、現状に対応できる法制度や運用の見直しなどについて国・県・関係機関などと協議します。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 国・町・県の連携の強化
- 農業・農地再生に向けた取り組み
- 漁業の復興を導く漁港の活用の取り組み
- 個人の土地・建物を有効利用するための情報のマッチング

## 取り組み 5 5 : 避難住民の住民票の取り扱いの検討

### <取り組みの方針>

- ・避難先自治体でも行政サービスを受けられるよう、避難先自治体との連携・協力を進めます。
- ・町外、県外で住民票などが取得できる仕組みづくりを構築します。
- ・学校教育における区域外就学においては、避難先市町村と連携を密に保ちます。
- ・住民票の異動にかかるメリット・デメリットの情報の提供を行います。
- ・二重住民票制度などの設計については、町民の意向を踏まえ、さらには研究者・国・県・関係機関と連携し慎重に検討していきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 富岡町と避難先をつなぐコミュニケーション拠点づくり
- 避難先での人と情報の交流拠点づくり
- 避難先町民のニーズ把握
- 避難先住民同士の交流と支えあい
- 避難先自治体との連携強化
- 避難者の自立に向けた支援
- 国・町・県の連携の強化

## 取り組み 5 6 : 住民の求める国の支援策の引き出し

### <取り組みの方針>

- ・町が復旧・復興作業に主体的に関われるような体制づくりに努めます。
- ・国が行う復旧事業に対して、町・町民が目を光らせ、必要なことは積極的に提案をしていきます。
- ・賠償問題だけでなく、町民の避難生活や生活再建のための補償や支援などを国に求めていきます。

### <取り組み方針を実現するための取り組みの内容(事業のアイデア)>

- 個別支援の強化と見える化

## (7) 各部会での事業アイデア

### 情報発信部会

#### A 町内外の協力をあおいで環境浄化する

##### 『国の原発・原子力規制基準を常に世界一厳しい基準に更新し続ける事』

今、日本の原子力規制基準は世界一厳しいとされているが、それは第一原発事故以前の米仏の規制基準にやっと追いついたに過ぎず、今の米仏の規制基準はさらに厳しくなっており遅れを取っている。一例として世界で一番厳しい原子力規制や原発事故時の非難・食品・水規制基準はウクライナだが日本は歴史的に国民保護より経済・国益優先で今頃1F事故以前のEUの原子力規制基準に追いついたのに過ぎないのに自称、世界一厳しい基準と称している。原発内の設備は40年前のレベルのままで基準だけ厳しくても実効性はない、常に規制基準と設備を最新に更新し続けないと地震活動期に入った日本列島で原発は全廃せざるを得ない発電方法である。

##### 『青森六ヶ所村中間貯蔵施設へ空冷式キャスク大量設置』

本来、中間貯蔵施設は最終貯蔵施設に搬入する前に原発から出たばかりの使用済み燃料棒の核分裂熱を冷ますための物だ。故に十分熱の下がった核燃料棒は中間貯蔵施設から空冷式キャスクに移せば旧式な第一原発と同じMrk I式の原発から使用済み核燃料棒を大量に六ヶ所村の中間貯蔵施設の空いたスペースに移せば旧式原発の安全性も高まり、廃炉作業もより安全にできるのになぜ熱の下がった燃料棒を空冷式キャスクに移さないのか疑問だ。本来なら福島の高濃度汚染物(土、水、植物、加工物)も放射性物質を吸着、濃縮して燃料棒として加工する施設だけあれば中間貯蔵部門は六ヶ所村に増設したほうがより容易で合理的でなかろうか？

#### B 富岡町環境浄化事業

##### 『ストロンチウム汚染水の物理的削減策』

ストロンチウムは水と同じ組成なので回収が困難だが、カルシウムで吸収浄化させる方法がないわけではない。しかし、もっと低コストに言うことであれば、今後他の国に新世代原発を輸出する場合モンゴル、トルコ、ヨルダン等、乾燥地帯・又は高湿地帯で原発を稼働させる場合、冷却水を確保しようとするれば国民の飲料水、農業、畜産用水が不足するが、エネルギー確保上原発は必要だが水資源不足となるなら、冷却水専用にストロンチウム汚染水を提供してはどうか？

原子炉内に密封、冷却用にさせ続けければストロンチウム汚染水処理のスピードも早まる。その場合、サリーや汚染水のステンレス溶接タンク空冷式の乾式キャスクなどもセットにして輸出すれば危険性は低減できると思う。

#### C 効果的な除染の提案

##### 『除染・分別・廃棄物処理事業の主力産業化へ』

仙台で分別・廃棄物処理が上手く行ったのは地元の業者で廃棄物処理組合を作り自主的に取り組んだからで、驚くことに大手ゼネコンは除染技術も廃棄物処理技術も持たず、廃棄物処理の資格を持っている下請けに丸投げし、精々焼却するだけで環境汚染につながっている。富岡に建設される管理型処分場も技術を持たないゼネコンが作るがやはり焼却だけ。後の地元の環境汚染には一切配慮がない。ビニールが破れ、コンクリートにヒビが入って汚染流出しても「想定外」で済みますか？

廃棄物を鉄、アルミ、ゴム、プラスチック、木材、電線、ガラス等に細かく分類し、浄化した後に各々電炉などでリサイクルして資材とし、木材や草木はバイオ燃料やバイオガス、木くずはペレット化して火力発電燃料にすれば一切無駄なくリサイクルし活用できるがどうか？

##### 『米のとぎ汁乳酸菌によるウラン、プルトニウム無毒化事業』

タダ・一週間で出来る無毒化

- ①米のとぎ汁をペットボトルに口切り一杯詰める。
- ②室温常温で一週間寝かせる。(乳酸菌増やす為)
- ③鼻を近づけて臭かったら失敗。(腐敗してる)
- ④酸っぱい匂いと味だったら成功。(発酵している)
- ⑤乳酸菌液をスプレー(100円ショップで可)で霧状にし肺の奥まで吸い込む。
- ⑥その肺から黄色や茶黄色等の放射性物質を痰として吐き出し、肺をリフレッシュできる。汚染処理場で出来る汚泥を乳酸発酵させて痩せ地、低養分の土地に運び農地化したり、日本の今の現状では汚染水処理場や農地のため池の底の汚泥を乳酸発酵させてウラン、プルトニウムを無毒化し土の不足している地域に提供してはどうか？

##### 『放射菌活用による放射性物質の消費・無毒化』

放線菌は乳酸菌、放射性吸着物質と並んで放射性物質の消費、無毒化、浄化に効果が高いとされている。原始的で旧式な土木的手法である、削る、掘る、他の場所へ移すと言う根本的解決につながらない除染・浄化・復興期間を長引かせて復興増税期間と復興利権を長引かせる事だけが目的の除染・浄化技術をもたないゼネコン丸投げと10次に及ぶ下請けピラミッド型ピンはね構造は絶対廃すべきである。

バクテリア、乳酸菌グループ、放射菌等、今までに研究成果が報告されている手法を活用するだけで大部人員の被ばく減少と除染・浄化復興期間が大幅短縮できるのになぜやらないのか？復興利権の分け前が欲しいのか？

### 『納豆菌のナットウキナーゼによるプルトニウムとウランの無毒化事業』

納豆菌は煮た大豆をナットウ菌というバクテリアで発酵させて作るが、この納豆菌が煮た大豆に作用するとナットウキナーゼと言う酵素が生まれウランとプルトニウムを無毒化したと言う論文は多数発表されている。これ等の研究が日本で一番進んでいる研究所は「日本原子力開発機構」、あの高速炉(もんじゅ)の独立行政法人である。我々は日本原子力開発機構の指導の下で消費・賞味期限の切れた廃棄納豆から大量のナットウキナーゼを抽出・培養する技術プラントを確立できないだろうか？納豆菌とナットウキナーゼを大量に富岡町内にばら蒔いてウランやプルトニウムの無毒化、放射性物質の滅殺や改善に是非、大々的に活用してはどうか？

### 『カリウムによるセシウム吸収・除去法』

カリウムは農地除染に使われる物質だがカリウムが多いとセシウム吸収を妨げ、少ないとセシウムが吸収される性質を利用し、農地だけでなく高線量地域内にカリウムカリウム少な目のセシウム吸収剤を開発し、ばら蒔けば、原発内や高線量地域のセシウム吸収除去を簡単に出来、帰還期間を大幅に短縮できる。

### 『ビール・ウオッカ線量低減法』

エタノール、メタノールやビール、ウオッカ等のアルコールを汚染前に飲んだり散布すると最大 34%線量が低減されることが証明されているが汚染後に有効化？のデータはない。しかし、仮に賞味期限の切れたビール等で高線量地域に散布して 34%線量をカットできるか、又は何%低減か？実験事業として事項する価値は高いと思う。

### 『米とぎ汁発酵物質除染構想』

米のとぎ汁は放射能をバリバリ食べる性質があることが発見された。米のとぎ汁は各家庭で必ず出るのでそれ等を集めて発酵させ、放射線量の高い場所にスプレーして吹きかければ放射性物質をバリバリたべ線量が低下する以上、ゼネコンに頼らず町民・希望者主体の環境浄化組合を作ってそれ等に作業させたほうが除染物を山や川に投げ捨てられる心配はなくなり安心である。

### 『津波被災地土壌の除塩をトマト以外の野菜で達成する方法』

以前よりトマトは土壌中の塩分を吸収する事は知られ、現に宮城ではデルモンテが津波被災地の除塩を支援する為に被災地にトマトジュース工場を作り津波浸水地でのトマト栽培を支援し、買い上げると言うが、原発事故のあった福島はそうは行かない。風評被害で売れない、売りにくい。ハウス建設や暖房費など高コスト作物であるトマト以外に塩分吸収する作物として「アイスプラント」があるが、直まきでトマトに比べ低コストである。有明海の埋立地の塩害を改善する為佐賀大学で研究してきたもので既に栽培されて出荷されていると言う。しかし、福島沿岸部では食品用農業としてはムリなのでバイオエタノール原料用作物として栽培せざるを得ないのではないか？農地で使うトラクターやコンバインの燃料として再利用できれば地産地消でムダはないと思う。

### 『土壌汚染の浄化法(浄化プラント方式による手法)』

米のとぎ汁乳酸菌、カルシウム、カリウム等を利用したバイオ的手法に限定せず、浄化プラント方式を活用してはどうか？  
①網目の大きさが違う数種の金網で小石、粘土等を選別し、ロウトの傘部分に投入。  
②ロウトの口部分にプルシアンブルー、ゼオライト、カルシウム等の各種フィルターを設置し放射性物質を吸着させる。  
③浄化された土はロウトの傘部分が折れて土をベルトコンベアーに落とし移送する。  
④浄化に利用した水は別のフィルターを多層配置した浄化プラントで浄化し土壌汚染浄化に活用。  
別に複雑な装置を必要とせず、コンクリート製造時にコンクリートミキサーでかくはんし、出来上がったコンクリートをベルトコンベアーで移送し、タンクローリーに注入する事と原理的には変わらない。



### 『除染抜材木材、草類のペレット縮減化』

家を廃棄したり、山林等の抜材除染で大量の廃棄材が出来た場合、これを焼却すれば大量のセシウム等を放出され放射性物質拡散を生む。これを防ぐ為に木材、干し草類をペレット化し貯蔵スペースを大幅減少させるか、二段焼却フィルター付きの汚染防止焼却炉で燃やし火力発電化し、排熱もコージェネ発電に利用すれば発電効率が高まり、更に自動車で使われているガスタービンを一体化させれば煙もタービンの翼に還流させ発電効率を高め、売電事業と除染に活用できる。

### 『水道管内プルシアンブルーコーティング法』

プルシアンブルーは塗料工業で使われている青い塗料の原料だが腸内のセシウムと結合して排出される性質がある。そこで震災でダメになった水道管を復旧する場合、水道管をプルシアンブルーで事前にコーティングすれば町民のセシウム吸収を予防できる可能性大である。

### 『カルシウムによるストロンチウム吸収法』

ストロンチウムは水に近く吸収困難とされたがカルシウムに蓄積され易い性質を利用してカルシウムが多ければストロンチウムは吸収されず、カルシウムが少ないとストロンチウムは吸収され易い以上、町内の川や用水路、湖、各ため池等の水源近くにはカルシウム少な目のフィルターを設置し、水道、河川水、海に近い川等にはカルシウム大目のフィルターを設置すれば川や海、水道へのストロンチウム流入は防げる。

## D 役場職員のサポート

### 『富岡町職員慰問・ストレス解消事業』

1/23 NHK の特集で被災地域の自治体職員が二年を超えてストレスで自殺や早期退職が増えているが、職員数の増加や専門職の新設・増員、自治体としてやらなくては済む仕事は思い切って廃止して重要部門に思い切り集中し、負担を減らさなければ職員の自殺と早期退職を食い止めなければ富岡の職員は疲弊し切って0(ゼロ)になる前に対策を打つべき。

職員とその親を会わせたり、親の仕事ぶりを参観会のように見学させたり、親子・夫婦の絆を確かな物にさせて士気を上げたりしなければ行政は崩壊するので何としても防ぐべき。

## E 富岡町スマートフォンアプリ

### 『富岡町スマートフォンアプリ』



スマートフォンアプリを作成し、情報を発信していく。

## F タブレットを使ったネットショッピング

### 『帰還した町民へタブレットを使ったネットショッピング』

町内に帰還された高齢者への支援としてタブレットを使ったネットショッピングを実施。スーパーマーケットと連携をする。

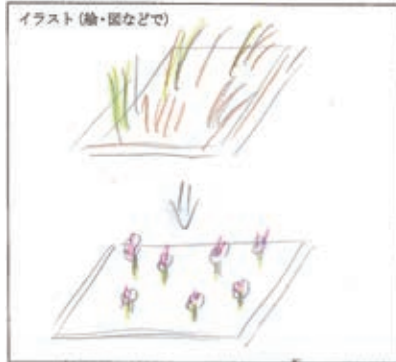
## G 個人の土地・建物を有効利用するための情報のマッチング

### 『町民の不動産の活用と復興計画とのマッチング』



富岡の不動産を処分したい、買い取って欲しい、管理して欲しい、貸したい等町民の要望に応えられる第三者の公的機関を設けて町内の開発や町の再生とマッチングできる。

### 『富岡町土地情報の提供』



「農地の管理が出来ない」「農業はやりたいが土地がない」と言う人を結びつけるための情報提供。花き類など非食用作物を栽培し、農地の保全をしつつ、活用してもらう。

## H テレビ電話

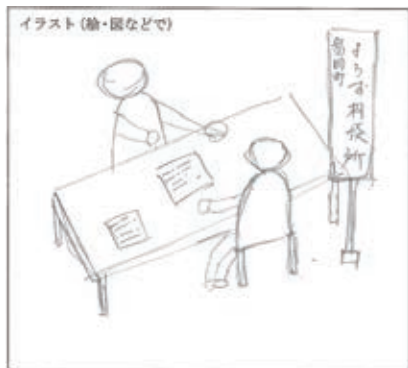
### 『テレビ電話』



テレビ電話があればお互いの顔を見て話ができ家族の絆も良くなる。

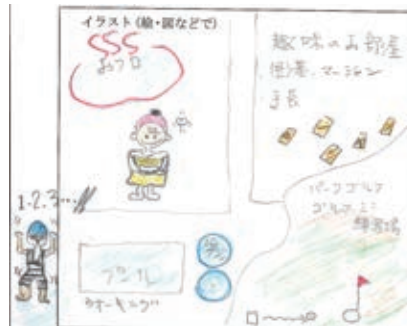
## I 富岡町内と避難先でのよろず相談所兼憩いの場づくり

### 『富岡町よろず相談所の設置』



町の人が一時帰宅した際に、よろず相談できる場の設置。町の行政相談や生活相談などができる場の設置。

### 『無理しないスポーツランド』



学校を利用して屋内施設を造ったらどうでしょう。ムリのない、極力年の行った方々を対象に。

### 『一言寄り合い場』



町に誰でも行ける場所があればいい。「カラオケ」声を出すと長生きの秘けつといわれています。



## J 震災の語り部

### 『富岡町民の雇用と絆維持のための憩いの場作り』

富岡町内、避難先自治体の「憩いの場」にてそこを訪れる人達を対応する人が元々の富岡町民ではなく、避難先の地元自治体ばかり雇用されると話が通じず足が遠のくというが、就職難に苦しむ富岡町民を採用して訪れる町民を世話させた方が町民の雇用と結束維持強化に役立つのでなかろうか。

当面は富岡町の官の資金による雇用の場育成に重点を移し、一人立ちできるまでサポートすべきではないか？

### 『語り部・真実の時』



学びの森で自分たちがあの原発事故をすべての方々に語り、真実をみてもらいたい。風化させない。人を呼ぶ。そこで新しい産業が生まれませんか。

### 『かたりべの現地視察案内』

町民各々が体験した「震災」を町民自らが「かたりべ」となり、語り、風化問題や地域間・意識の歪みや後世に伝承していく活動を行う。

## K あまちゃんの富岡版をつくる

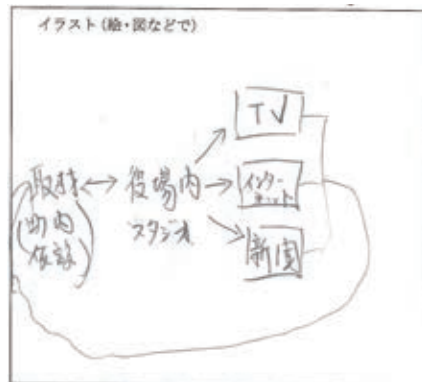
### 『Y(T)KB47 構想』

富岡町内で一番帰還意欲の強い人口の多い旧夜ノ森地域の女子を集めてアイドルチームを作り、各専門家からの助言と環境浄化設備の寄贈を受け見返りに各環境浄化プラントの性能実験と性能評価、改良の場を与え汚染を移すだけの除染でなく環境浄化産業を富岡の主力産業の一つに育成する為のツールとして「あまちゃん」の様なアイドルチームで宣伝すべきである。

YKBのYは帰還意欲人口の多い夜ノ森の頭文字であり47とは忠臣蔵の人数である。

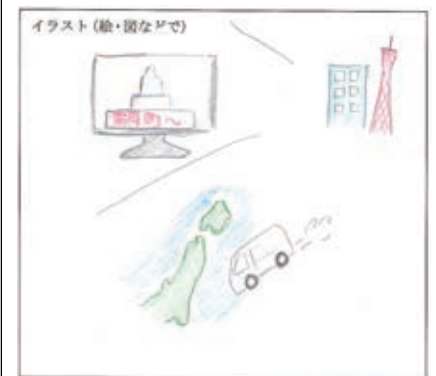
## L 富岡町に関する情報を一元的に集めて配信する仕組み

### 『富岡町放送局』



役場内に放送局を作る。町内や、仮設住宅、移住先の町民等を取材し、それらを色々なツールを使って配布する。(目指すは全国!!)

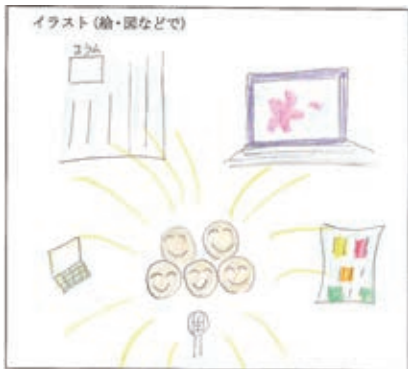
### 『総合放送局の設置』



情報の収集と発信を行う放送局を設置し、より速く正確な情報をつたえる。インターネットだけでなくTV番組や紙媒体も扱い、内容も富岡町のものだけでなく、今の避難先での生活まで発信する。

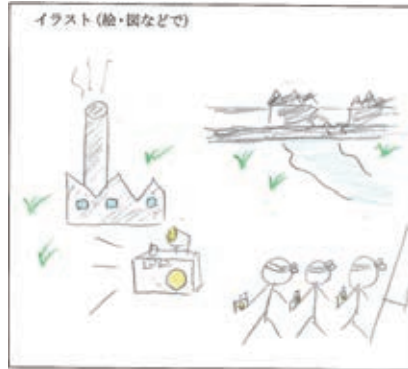
## M 富岡町民による放送部

### 『放送部の創立』



富岡町民による放送部みたいなものを作って、テレビ、新聞、インターネット等多様な媒体で町民目線で正確な富岡の今を伝える。

### 『情報発信部隊の委嘱』



町民の有志を募り、富岡町の現状を伝える情報発信部隊を編成する。

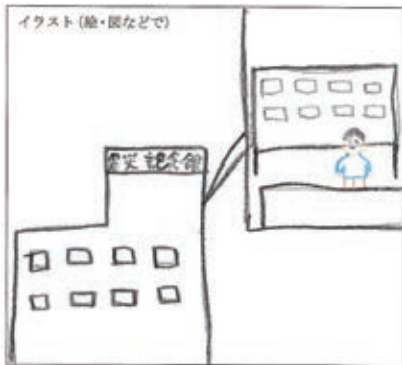
## N 情報発信拠点づくり

### 『現地の情報発信拠点運営主体の設置』



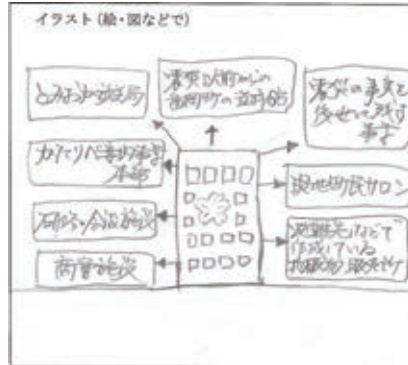
直接住民が参画する情報発信拠点の運営主体を設置(NPOでも公社でも可)。直接町民が情報の発信者になる。県外にサポーターを配置し拠点と連携する。

### 『情報発信拠点内にギャラリーの設置』



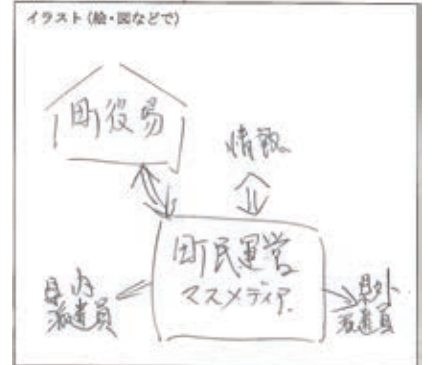
原発事故を記録、継承するための世界に向けた情報発信拠点内にギャラリーを設置し、事故後の富岡町の移り変わりを伝えていく。

### 『復興・情報発信拠点』



町民の立ち寄れる、また、震災や津波の歴史的事実を後世に伝えるアーカイブ事業も含めた拠点を作る。また地域間交流、交流人口増加も目的とした、複合施設をつくり、世界へ発信していく。

### 『町民による第三セクター』



情報を一括に集発信。町民主体の第三セクターを起し、町と一体となり活動する。

### 『富岡町の現在・過去・未来を紹介する情報発信拠点』



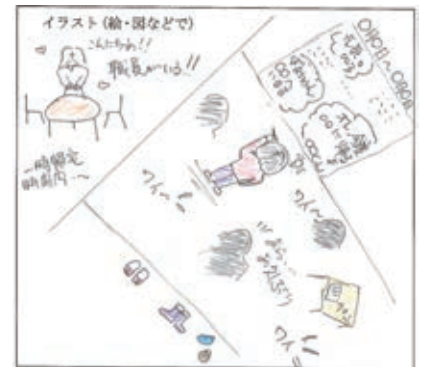
町のもともとの地域性、現在の復興状況、これからの進路を紹介する情報発信拠点。

### 『情報発信公社』



町内に設置する情報発信拠点を町民も参加する公社として「血の通った情報発信」をする。

### 『ほっと、いいどおステーション』

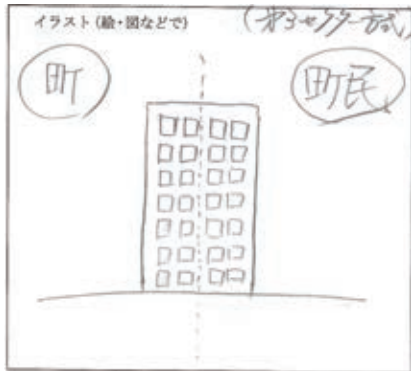


富岡町復興拠点の中央部あたりに誰でも寄れる場所を設ける。その中で壁寄せ書きなどがあればいいかと思う(まずは一時帰宅用から～)

## ○ 分かりやすい多媒体の紹介

## P 富岡テレビチャンネルの開設

### 『新たな情報発信組織・会社の設立(第三セクター方式)』



町と密接な、町民が雇用されている情報発信受信専用部門。出資も町民による株主制度を導入し、町民の手による組織を創設する。

### 『原発事故・震災関連のマンガ(コミック本)を幅広く紹介』

週間モーニングで原発内で作業しながらマンガ作品にしている「イチエフ」や震災時には須賀川や郡山の震災・原発事故当時のマンガもあった。これ等のマンガを富岡のHPやツイッターで紹介し、全国民に未だ原発終息とは言えない現実を全国民や全世界の人々に伝えてほしい。文章を理解できない人はマンガや絵でしか理解できない。米軍のマニュアルは全部コミックでわかりやすく書かれている。例えマンガの手法でもわかりやすく事実を教え広めるべき。

### 『富岡 TV 局開設』



富岡町現地の、現在の真実のニュースを伝える為に TV 局・放送部を開設し、町民を主体とした住民目線の情報をスピード感持って出していく。

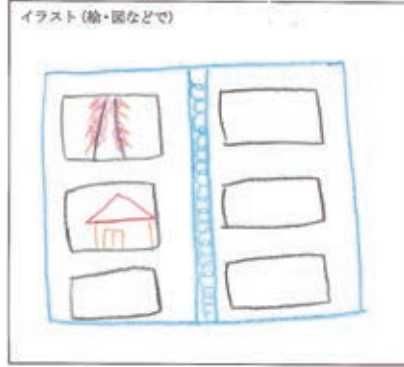
## Q 富岡復興アルバム

### 『富岡チャンネルの開設』



テレビを活用し富岡町の情報を伝える。(県、福島市、郡山市も実施しているので現実味はあると思う)

### 『富岡町写真館(紙媒体)』



インターネットが見れない方、または紙媒体の方が見やすい方へのためにアルバムを作成する。サロンや仮設、集会場、役場庁舎に配置する。月1回の更新をする。

### 『記録と復興の情報発信』



被災から復旧・復興の移りゆく様子を時系列に並べ富岡復興写真集を作る。

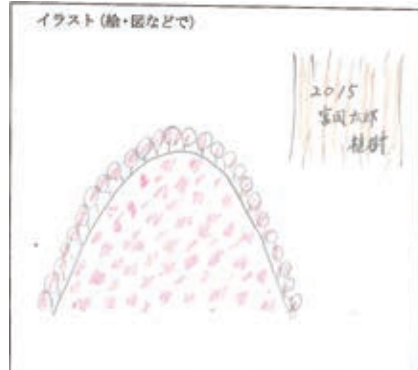
## R シンボル(桜)の新たなる継承と発展

### 『ふるさと納税による高津戸街道、IC付近桜化計画』



仙台までの高速道路開通により富岡が単なる通過点になってしまう。ふるさと納税をしてくれた方に植樹してもらい、高速IC～高津戸街道を桜化する。

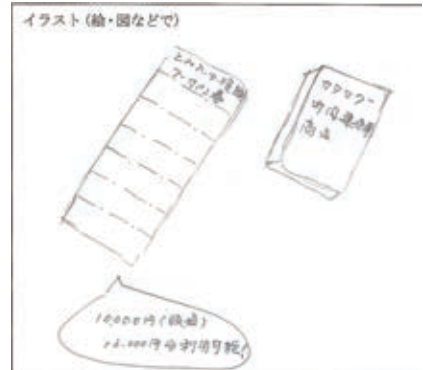
### 『ふるさと納税と桜の植樹』



ふるさと納税の特典として桜を植樹できるようにする。処分したい山林や野原を地主から土地を譲り受ける。もしくは借りる。

## S 既存の事業者協働

### 『とみおか復興クーポン券』

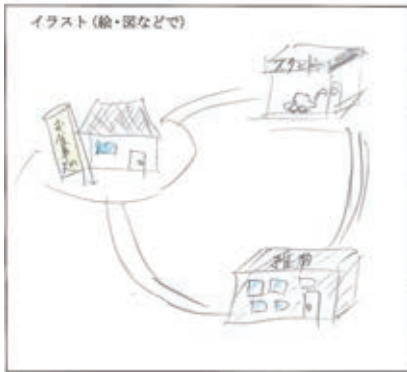


観陽亭や大玉村で活動する商店会、商工ふたばとタイアップし、富岡に特化したクーポンを発行。運営費の創出と復興に貢献する企業と歩みを共に進める。



## T 情報共有をリアルタイムで出来る仕組みづくり

### 『富岡事業者の輪』



富岡で事業をしていた方で富岡町内外で事業を再開している方を1冊のカタログにまとめて発信する

### 『海からの情報発信』

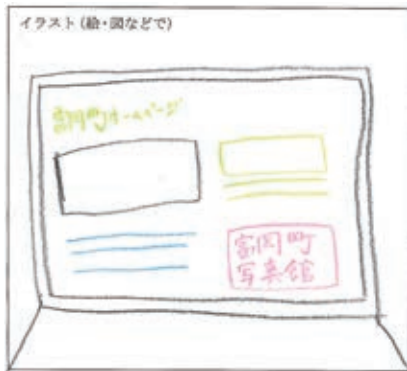
船を利用して富岡漁港を利活用し、海から見るとみおか、第一原発を発信していく。海は警戒区域がない。

### 『リアルタイム映像発信』



パトロールで巡回している消防車にカメラを設置する。リアルタイムで富岡町の現状を流す。

### 『富岡町写真館』



富岡町公式ホームページ内に、町、町民、それ以外、誰でも写真を投稿できるカテゴリを作る。これにより富岡町の様子を皆で共有することが可能になる。

### 『情報共有掲示板』



みんなが撮影した写真、動画を自由に貼付け、見ることが出来る掲示板を作り、富岡の今の状況を見てもらう。インターネット上も実物としても。

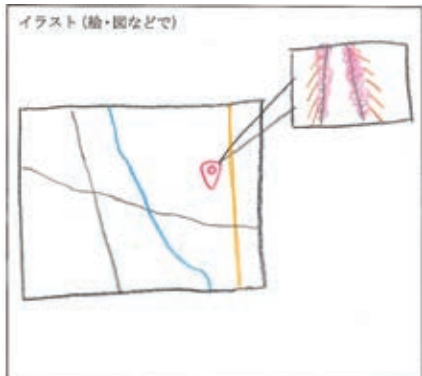
### 『富岡町 NOW』



富岡町内の今を投稿するサイトを作り、現在の写真や思いを自由に話せる場を設ける。

## U ネット上のマップで一元的に情報を見られるようにする

### 『富岡町フォトマップ』



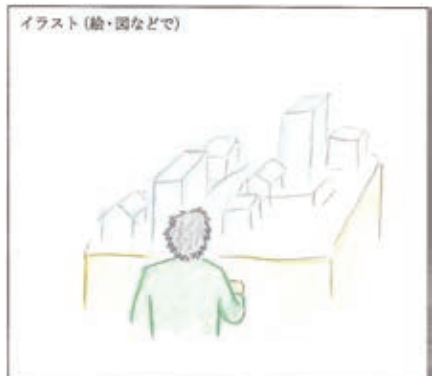
富岡町内で撮影した写真や地図情報をリンクさせる。地図上のマークをクリックすると写真が表示される。風景と場所がリンクすることによりイメージがつかみやすい。

### 『詳細な線量、危険マップの作成』



町民が自分の家、周辺地の線量等を自由に投稿してホットスポットや危険箇所を町民が共有する。一時帰宅などに活用。

### 『飛び出す富岡町』



飛び出る絵本のように、町の状況が立体的に分かるものを作り、平面でなく立体的に町の状況を知ってもらう。

## V ふるさと納税を活用しての情報発信

### 『ふるさと納税の活用』



富岡町に想いのある避難者、移住者が町の復興にかかわれ心をつなぎとめられるように。ひいては町の財源が永続的に確保できるように。

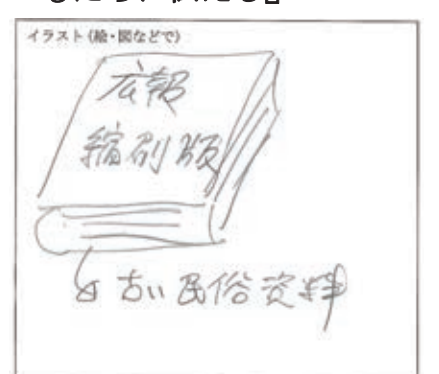
### 『富岡を思い出すための情報発信』



ふるさと納税をしてくれた方に富岡の桜の花びらを入れたしおりを作って送る。裏面には富岡のイベント等を記載し富岡を思い出す1つのツールになればうれしい。

## W 富岡町の由来等を伝える

### 『富岡町の由来などを子どもたちに伝える』

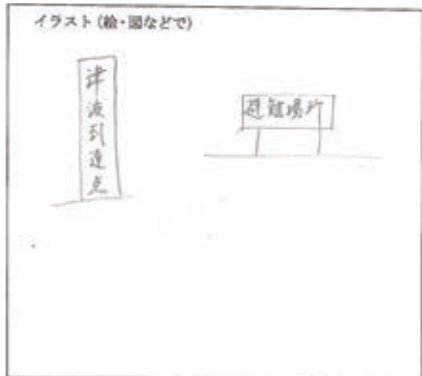


富岡広報縮刷版などから町の由来などを子どもたちに伝える。



## X 津波の記録を石碑として残す

『3.11の津波、避難を石碑として残す』



3.11の津波到達点の周知。石碑として残す。避難場所を再認識させる。その場所に歴史として刻む。

## Y 富岡町復興まちづくりポスト

『富岡町復興まちづくりpost設置事業』



町内にまちづくりに関する意見を投函できるpostを設置。メールなどと併せて寄せられた意見を全て公開する場所づくり(匿名可能)

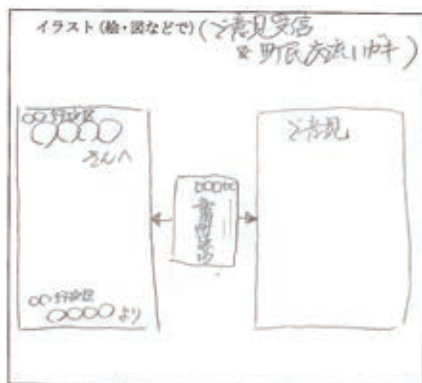
## Z 外からの智恵を聴く

『富岡の除染・環境浄化に関する提案を広く募集する』

HP やツイッター内等で富岡の町民・職員だけが除染や環境浄化、復興に関して調べても限界があるので、他県、他地域、他国の学者、有識者、技術者からの提案も受け入れ、実施してみた結果も公表し、技術・情報提供者には現地の地質・水質・線量・天候・線量マップの変化も提供すれば研究者にも喜ばれるのではないかと

## あ 広報誌を活用して意見募集

『富岡町専用ハガキ』



意見を受け取るツールの一つとして無料で送れるハガキを町民に配布する。また町民同士のコミュニケーションを図る新しい方法として活用する。各戸配布の広報に同封する。

『広報誌の表紙に意見募集の欄を作る』



町民から広く意見を集めるため広報誌の表紙に告知欄を作り返信用のハガキを同封する。

## い 富岡版震災ドキュメンタリーをつくる

『富岡町版震災ドキュメント作成』



富岡町版の震災ドキュメントを作成。5分、10分、15分など時間別に作成し各種イベントで放映する。(成人式・友情のつどいなど)復興拠点やサロンでも流す。

う DVDで思い出ビデオレター

『思い出DVD(短編)』



ビデオレターを作ってみる。(地区別、町全体などの)写真や、思い出の場所や今現在などで、ちょっとした記録のように。

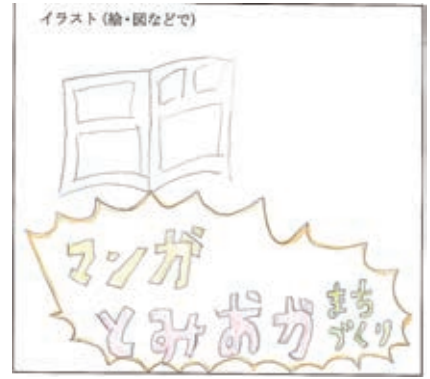
え 文字と絵で分かりやすく 伝える紙媒体

『とみおか紙芝居』



被災状況、復興の歩み等後世へと語り継がれる紙芝居を作成し同時に語り部も養成していく。

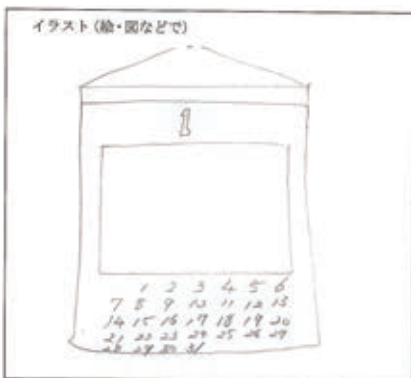
『復興マンガ』



まちづくり、復興の姿、完成図をマンガで分かりやすく町民に知らせ関心をもってもらう。

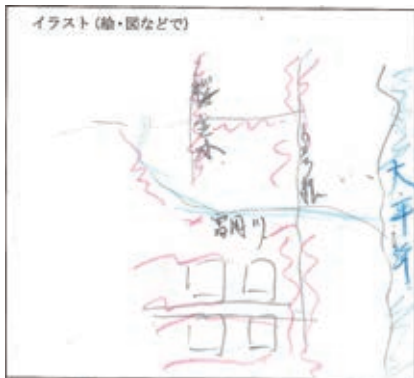
お 富岡未来予想図をみんなで作る

『復興カレンダー』



町のカレンダー作る。毎年町の移り変わり、復興の様子を見せる。

『富岡未来予想図』



町民の想いを具現化した町の地図を作成し、全長民に配布する。希望を持つきっかけになればよし!としますか。

『富岡町沖津波防護人工島構想』

今後富岡町内、県内の除染が活発化すると大量の除染土が双葉郡に押し付けられる可能性は極めて大きい。放射性汚染土を単に移動する移染ではなく、バイオの手法や科学的手法で浄化・消滅させた上で町沖合いに人工島建設の資材として投入してはどうか。海の汚染が心配なら海底の基礎土台部分は今後、公共事業や復興事業で大量に出る建設残土で作り海面上の島部分を汚染浄化土で形成し、完成時には除染や環境浄化技術・再生エネルギー技術・省エネ技術等の研究所と実験場を兼ねた地域とし、30m台の津波・M10の地震にも耐えられる津波防護施設の役割を兼ね合わせる存在として建設すれば、汚染浄化土と建設残土の処分を一括してでき合理的である。

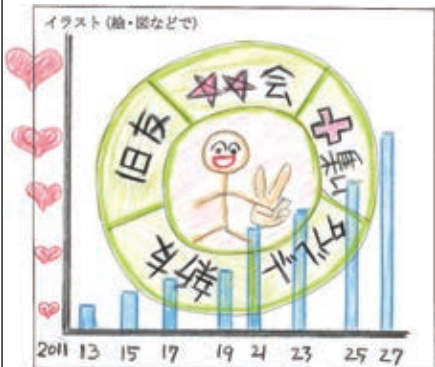




# 生活支援部会

## A 支援の先にある自立した姿

### 『支援ツールに囲まれて満足感』



多種多様な支援ツールに囲まれて年の経過と共に各個人が寄り満足感、生きてて良かったと思えるような日常を共につくっていきけたらいいな!と思います

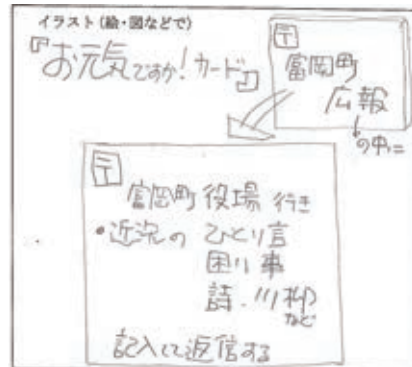
### 『ゴール』



皆それぞれの状況で自立した生活が送れていて、支援の必要性がなくなることがゴールではないか。

## B 循環型「支える仕組み」で心を支える支援

### 『お元気ですか!カード』



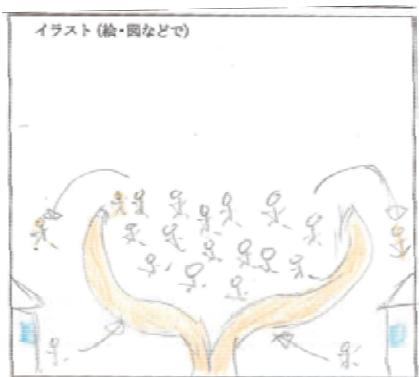
富岡町広報の封筒に、切手不要の返信カードを入れ、その時のつぶやき、悩み、困り事を無記名で記入返信。返事がほしい人は氏名、住所、記入。

### 『ふれあいコール』



富岡町民による富岡町民のための相談電話。そこから、解決の手立てを、行政、現場の支援員等につないでいく。

### 『循環型「ささえる仕組み」の構築』



少しずつ復興をした町民同士が「支え合える」仕組みを作り、町と共に行く。全長民の支援員とする。それを運営する富岡独自の中間支援組織(NPO 法人など)の強化。

## C 富岡町クリニックタウンをつくる

### 『医者村?(クリニックタウン)』



利便性を考え、移動する時間、距離を短縮、車移動の出来ない年配者にも優しい。内科、外科、眼科、歯科、耳鼻咽喉科等・・・集約したクリニックタウン又は1つの建屋にあると便利、助かる。

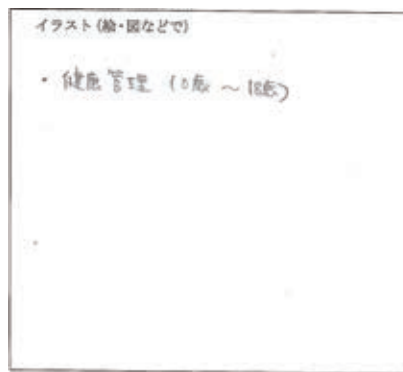
## D 子どもに対する継続的な健康管理の支援

### 『健康相談』



相談会ではなく座談会的に行ってみる(世代別に)(専門家をまじえて)

### 『子どもに対する支援』



子どもの健康管理を徹底する。(内部被ばく検査、甲状腺検査体制の強化、受検率の向上)

## E 高齢者が一人でも健康に暮らせるための支援

### 『手続きサポート』

支援を受けたいが、申請方法が複雑だったり、必要書類が多かったり、申請できない方に対するサポート。

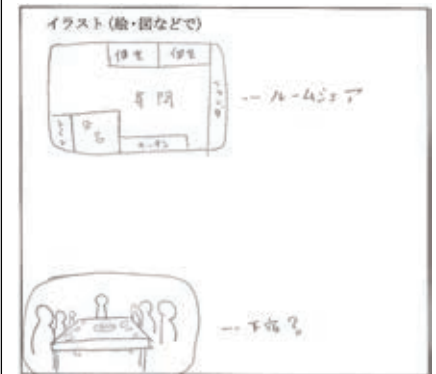
### 『健康イベント』

高齢者向けに、体操かジム等の健康イベントを開催し、健康維持や再開のつどいにもなるかも

### 『高齢者の健康維持支援』

お年寄りが閉じこもりきりになるのを防ぐため健康体操や料理教室などを開く。

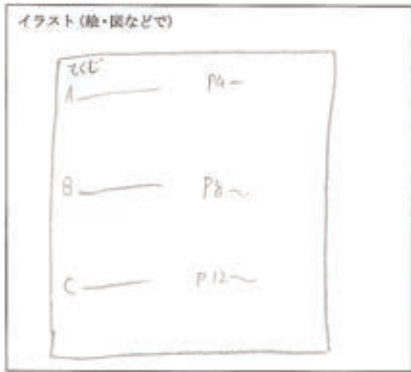
### 『一人暮らしの方への支援』



施設に明るいイメージを抱きにくいと思うので、ルームシェアや下宿の形で3～6人ほどの構成を作る。下宿ならば雇用にもなる。

## F 支援情報を冊子化して保存版で更新

### 『保存版 生活支援本』



今実施している生活支援の情報をカテゴリーにわけ、1冊にまとめる。またタブレット版も作り、タブレットでもみれるようにする。(みやすさ。絵を入れたり等、みんなが見たくなるように)

## G 性別・年代に応じたわかりやすい広報

### 『分かりやすい広報』



広報の内容を年代別で分かりやすく作る。男性向けの情報と女性向けの情報で分けて作ってもおもしろそう。誰でも読みやすくなる。

### 『分かりやすい広報』



広報を読みやすくするのではなく、分かりやすい物を別な形で提供する。そして詳細は広報に書いておき、後方を読ませる。

## H ニーズの把握

### 『ニーズの把握』

きめ細やかな支援をするための住民ニーズの把握が必要では。世代間・家族構成等によって必要としている支援が異なることもある。

### 『ニーズの確認』



その支援に対し、必要としている方と必要としない方がいるので、どのような支援を必要としているか定期的にたずねる。(必要ないが続いた時はうちきり)

## I 家族をつなげる支援

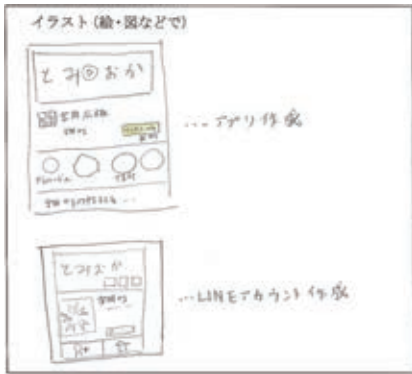
### 『家族をつなげる支援』

仕事等、状況により分断せざるを得ない家族の心をつなげる支援を行う(親子交流会)。(分断の期間が長ければ長いほど、家族のつながりが薄れていくため)



## J 富岡町アプリで若者向け情報発信

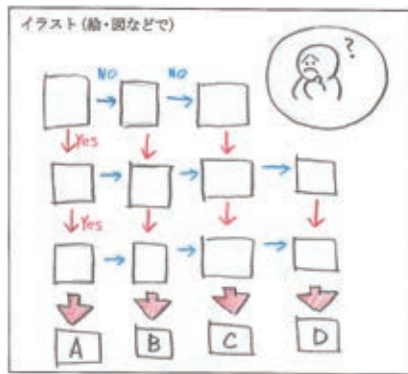
### 『若者向けの情報発信』



若者にとってタブレットの速度は遅く感じる。なのでアプリを作成しスマートフォンで操作できる情報。またはLINEアカウントを作り情報作成。

## K 年齢や状況に応じたきめ細やかな個別支援の見える化

### 『見える支援サービス』



町民のおかれた状況にあわせた支援サービスが見える形にする。そこで対応できないものは次のサービスにつなげていき、サービスを体系化していく。

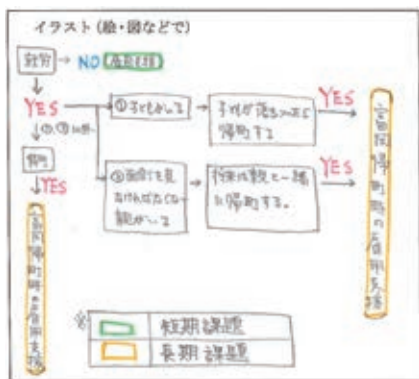
### 『きめ細やかな個別支援』



町民の帰還意向、年代及び家族の状況等を考慮したきめ細やかな個別支援を行う。

## L 親子が集える場やイベントで横のつながりを作る

### 『見える支援サービス(雇用版)』



20代～50代の支援は雇用支援が重要施策の1つと考える。世帯においては子育て世代、親を面倒みている世代等さまざまなので、帰町の判断を考慮した短期長期に分かれた雇用新を考える必要があると思います。

### 『親子が集える場づくり』

クリスマス会など季節のイベントの開催を通して親子が集まる機会をつくる。子育ての母親が不安等言い合える子育てセンター、親子サロンのようなものをつくる。保健師巡回して子育てについての勉強

### 『母子が一緒に参加できるイベント』

低年齢の子どもがいるママたちが子どもを連れて集まれる場を設け、ママ同士、子ども同士で新たなつながりを生むように企画。クリスマス会とかいもほりとか

**M タブレット等でバーチャルな交流ネットワークの創出**

『子育て世代の横のつながり』

子のいる世帯で横のつながりがもてるように連絡網の作成、ネット上での専用のグループなど話し出来る機会をつくる。

『町の子供達(乳幼児など)とお母さんの集まる場』



町民で新たに生まれた子供達への支援とそのお母さんを支える仕組みづくり訪問室、集合型。

『子どもの話を聞く機会』



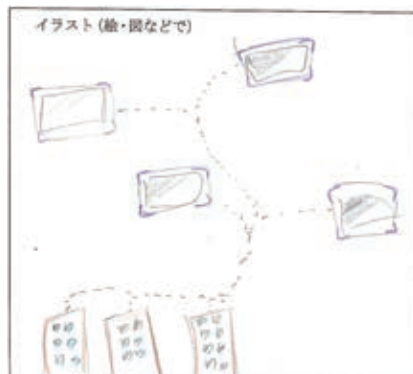
子どもの悩みを聞けるようにLINEなどのスマートフォンなどで使えるアプリケーションでアカウントをつくる。

『子供達の集まれる場』



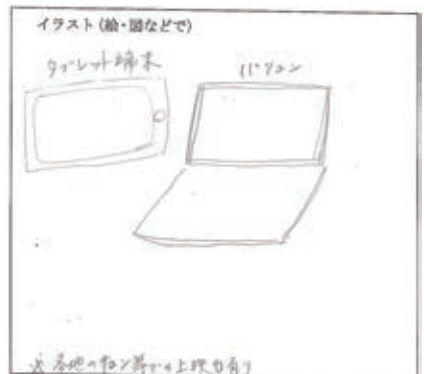
タブレット端末に子供達だけで世間話から意見まで何でも書き込めるページをつくる。また、その中に質問コーナー的なものを設け。子どもたちに理解できる言葉で回答。その内容をみんなで共有できれば、またいろんな意見や質問が集まるし、子供達が富岡を意識するきっかけになる。

『バーチャル富岡学園』



ネット環境を使って勉強とかキャリアの学校をつくる。

『町内の復興状況の映像化』



遠方に避難している人や、年配者、子供達にも目で見て分かる、町内の復興の様子を映像で見ることができるとよい。文章や写真だけだと分かりづらい。映像にすることでリアルに体感できるのでは？いきなり変わってしまった町を見るのは辛すぎる。

○ 交流拠点への送迎で交流を促進する

『サロン』



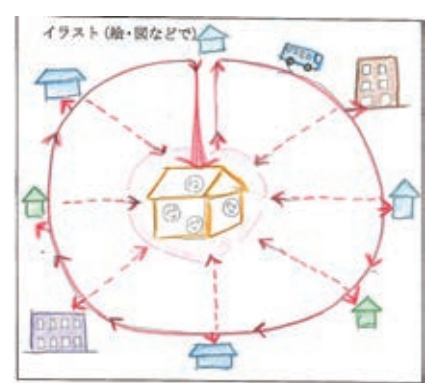
サロンを利用したくても足がない方、気後れしている方などに声をかけて一緒にサロンへ行き、誘い楽しい時間を過ごす。

『お散歩から始めよう!』



日中一人で過ごす人に、話し相手に支援員が出向き散歩から始める。打ち解けてきたらサロンや富岡町のイベント、居住地のイベントと一緒にしかける。

『サロンからお迎え』



絆サロン等へ足がなく出迎えない方たちの為に、サロンの職員が送迎をする(デイサービス型)送迎の範囲は限られるので地区別にし、予約制にする。そうすることで顔なじみや話す場が出来交流が増える。

『送迎バス』

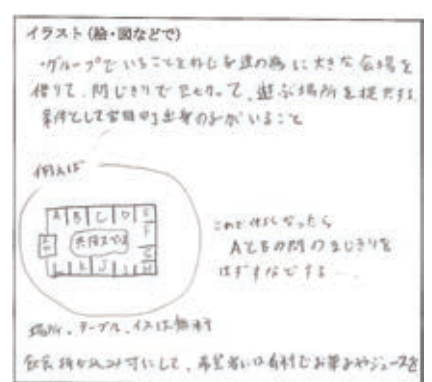


集まりへ行く手段がない方のために送迎バスを実施する。新たな雇用も生まれる。

『富岡町のことを話せる場作り』

老若男女関係なく富岡町のことを話せる場をつくる

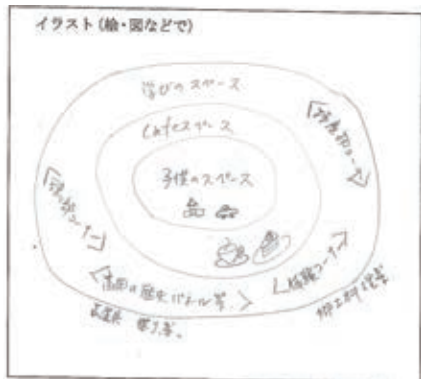
『場所の提供』



全員で一緒に何かのイベントをやりたいがらない年代のために場所を提供する。

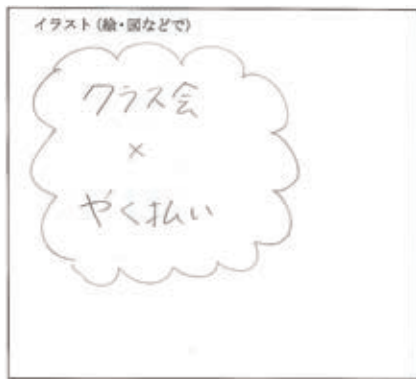
**P 老若関係なく富岡町を学び集えるカフェハウス**

『学びと集える Cafe ハウス』



小さい子から年配者まで気軽に立ち寄れる憩いの場、子どもを囲み富岡町の歴史を学び体験しあれや、これやと懐かしみ、実際に言葉で伝えられる場。他町村県からの観光客にも利用してもらう。体験コーナーでは餅つきや物造りをする。(年配者の手解き)

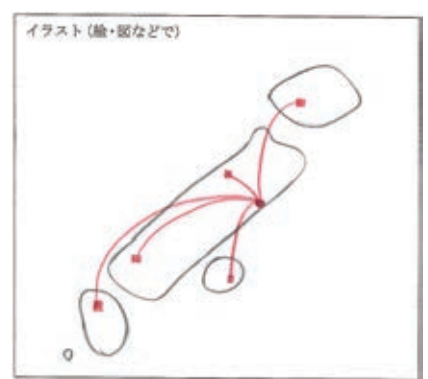
『クラス会』



厄払いをかねて定期的に小学校、中学校の同級生と集まって交流を続けて行きたい。

**Q アクセスポイントを作って全国ネットワークづくりをして情報収集**

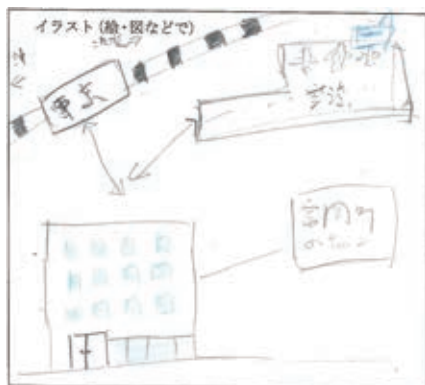
『全国ネットワーク作り』



サロン、タブレットなどの内容を充実させ、町と町民、町民と町民間のネットワークを強化し、富岡町全国ネットワークを構築する。

**R まちの中で子どもが集える拠点をつくる**

『富岡町民「アクセスポイント」』



全国の町民に会いに行く来てもらう為に「アクセス」が良い東京に拠点を作る、又は来てもらうための場所。

『<知恵の輪>点在する各地の利点収集』



全国各地に避難しているので、各市町村の利点、こういうところが便利！富岡の町にもあったらいいなと思える事を情報収集し共有しあう事で新しい、便利で魅力あるまちづくりに生かす。(アンケートやタブレット活用)

『富岡トムトムの活用』

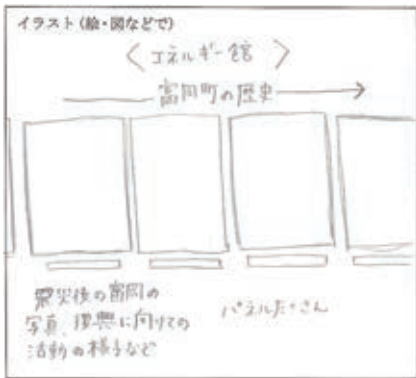


使われていない富岡トムトムを交流サロンにして、富岡町民が集まりやすい場所にする。買い物も出来る。



## S 支援者が出向くことの活用

### 『エネルギー館の活用』



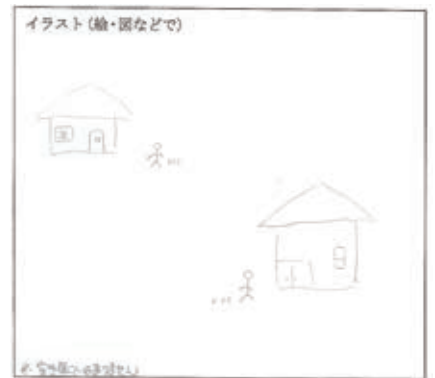
エネルギー館を歴史資料館にしてパネルをたくさん貼る。いつでも振り返ることができる。

### 『お宅訪問、出向いて話そう』



容易に出歩くことができない方への御宅訪問。家族に言えない話し、相談、困っている事等、話を聞き、その後のフォローができるように定期的に行う。

### 『出向きの活用』



サロンや拠点などに来にくい人、行きにくい人の所に積極的に出向き、引きこもりにならないようにお話し相手になったり、また「外に出たい」という意欲を引き出せるようにする。

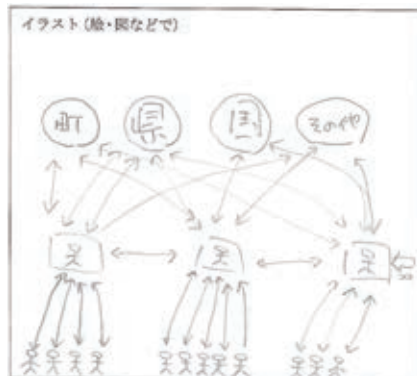
## T 町民と行政を橋渡しする場所と人と組織

### 『それぞれの地でも生活できる』



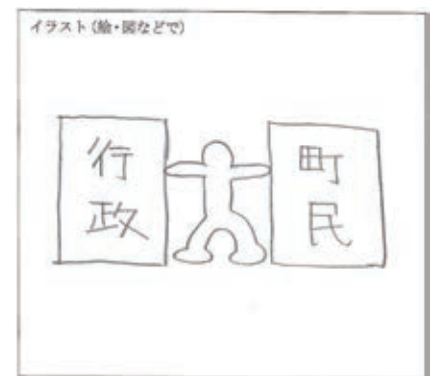
帰還する(した)人、行ったり来たりの人、戻らない人、それぞれが生活できるよう見守り制度、支援員の活用。

### 『ネットワークの構築』



町民同士、町民と行政などの橋渡しの存在を育成。「人」だけでなく「施設」も。

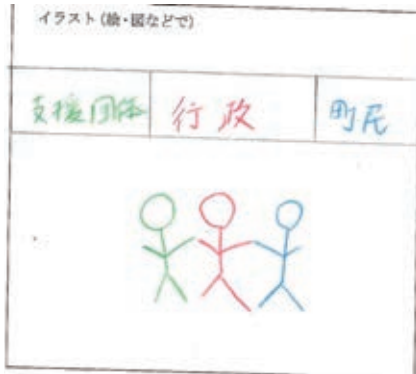
### 『町と避難先町民とのパイプ役』



避難先の町民と町との間でパイプ役となる、(人材)町民、団体の掘り起こしを行う。

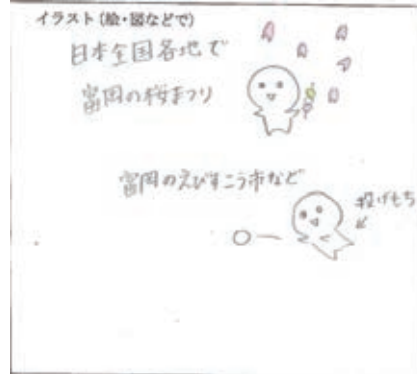
## U 富岡町を感じられる催しを各地で開催

### 『協力して支援』



行政、町民、支援団体協力し、それぞれができること及び協力すればできることを実施する。支援の幅を広げる。

### 『富岡町の祭りを各地でやる』



県内や県外で福島から避難している人や福島出身の人たちの中からパフォーマーやイベントを企画してくれる人を募集する。各地で富岡の伝統的なお祭りや、イベントなどを開いてもらう。どこに避難していても行くことができる。

### 『富岡の夏休み』

今は富岡町でできなくなってしまった「夏休み」を安心してできる事業を行う。

## V 時間外でも対応できるチャンネル

### 『広報、問い合わせの多様化』

広報誌だけでお知らせして終わりではなく、不定期でも職員などとの対話できるような場を設ける。電話、TV 電話、チャットメールなどチャンネルを用意して対応できるようにする。

### 『官公庁窓口時間の拡大』

避難の状況により、勤務地や学校が遠くなった人の為に 8:30～17:15 だけでなく早朝・夜間・休日にも窓口を開く。

## W 桜の並木でつながる町民と富岡町（ふるさと）

### 『「さくら」って言ったら夜の森大作戦』



避難先(移住先)に富岡から「さくら」を送る。植えるスペースがない人には鉢植えを送る。



## X ふるさとと教育を通じた次世代への富岡の継承

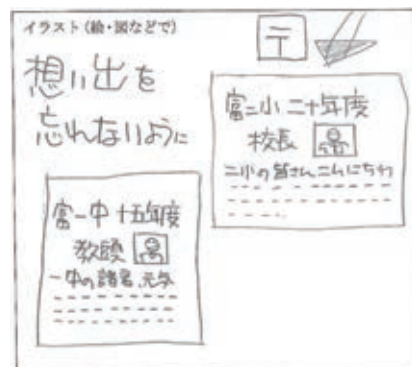
### 『子どもに直に富岡も見てもらおうツアー』

直接郵便で子供の名前宛で送付。その当時の学校の先生をピックアップ。子供に元気の出るようなメッセージを綴っていただく。逆に先生に返事を出したい人は役場経由で取り次ぐ。

### 『「ふるさと富岡」の継承』

後世に「ふるさと富岡」を継承していく。(対象 中学生～)

### 『子供たちへの手紙(大人も!)』



直接郵便で子供の名前宛で送付。その当時の学校の先生をピックアップ。子供に元気の出るようなメッセージを綴っていただく。逆に先生に返事をだしたい人は役場経由でとりつぐ。

## Y 富岡を舞台とした映画やドラマの作成

### 『授業で学ぶ』

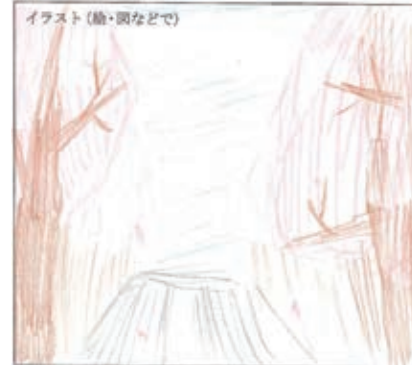
歴史の教科書の中に東日本大震災や原発事故についてを盛り込む。避難に関することを道徳の授業などで学ぶ。

### 『富岡の映画』



富岡町を舞台とした映画をつくる。テーマは震災など重いものではなく、桜並木やよさこいなど。それを観た子供たちが富岡に行ってみたいと思えるような作品。鑑賞会などにも開いて富岡町民の交流の場にする。

### 『テレビや映画のロケ地』



桜トンネルを中心にドラマや映画に使ってもらおう。

**z 富岡 FM に有名なゲストを呼んでリスナーとの交流を図る**

**『有名人をラジオに!』**



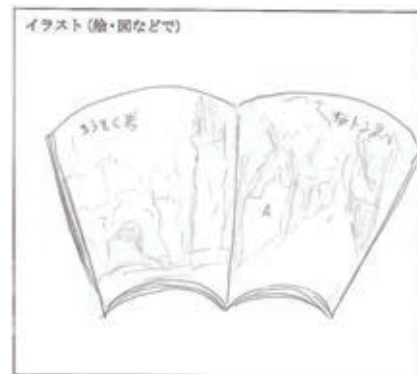
富岡町臨時災害 FM に有名な女優さんやアイドルや、リスナーさんがリクエストした人などをゲストに呼ぶ。

**あ 富岡町の何気ない暮らしの気づきのアーカイブ化**

**『記憶の表面化(具体化)』**

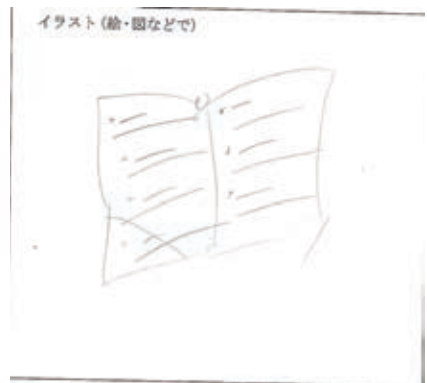
震災前の記憶を表面化(具体化)させ、子どもに伝えていく。また、子ども同士が共有化できる仕組みを作る。(タブレット、携帯へ配信)

**『富岡町の絵本』**



絵本を作る。

**『富岡町の方言辞典』**



町の方言の辞典を作る。

**『世代をつなぐ』**

全国にいる町の高齢者と子どもたちをつなぎ、アーカイブを作る。「おせっぺ富岡」事業。

**い 富岡町の新しい文化をつくる**

**『富岡の銘菓を作る』**



子どもが喜ぶ、子どもに富岡の良い印象を与える、全国の人にも「富岡のお菓子おいしいよね!」と好きになってもらえたらいいな。

う 復興検討会メンバーによる  
計画のプレゼンテーション

『富岡町の新しい文化と産物』



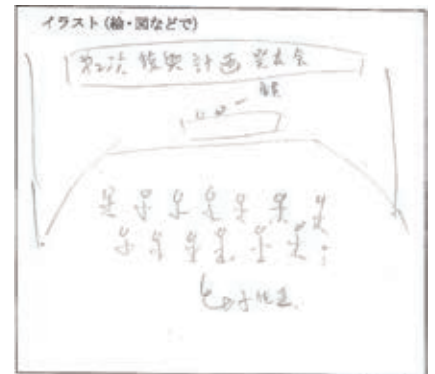
富岡町の新しい伝統文化と産物を創ることで、若い世代へ継承し、富岡町の魅力を伝える。町興しにも繋がり、アピールに使用できる。また、最終的には雇用を生むことができる。良い。(体験事業等で地域との密着性も)  
※染料となる植物は自然の物を使える。  
現在3年の研修、本格的に質の良い商品作りをしてきているので無くすには勿体無い!大きな企業の依頼、リピートもある。

『祝日、富岡町民の日で会いましょう』



富岡町民の日を制定して、各地で顔をあわせ町民同士の絆を深める。

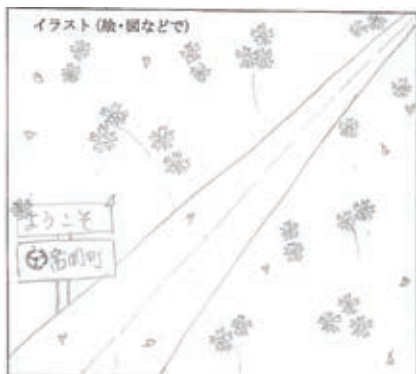
『第二次復興計画発表会』



第二次復興計画の発表会。町の子供たちにこの計画の内容をわかりやすく説明する会。

え 富岡の入り口を桜並木にする

『富岡町の入り口は”桜”で始まる』

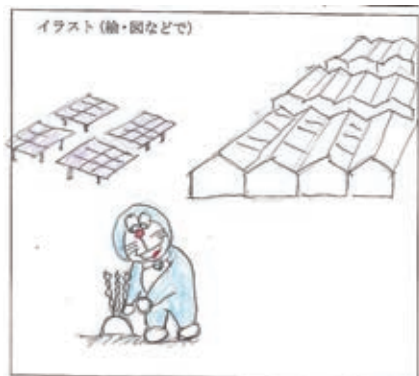


“富岡町”と言えば桜のイメージ通り、町全体を“桜”で囲む!富岡町入りした途端桜並木(トンネル)で始まる。次世代へ”桜”へ対する想いを伝える(ツツジも忘れてはいけないが)

# 心のつながり部会

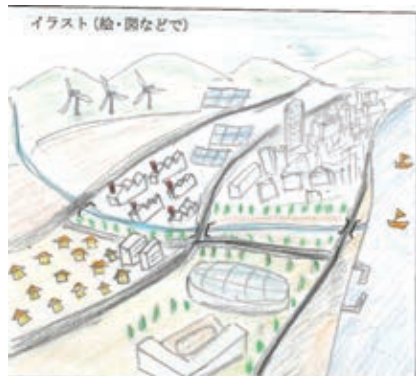
## A 未来都市モデル

### 『先進農業とロボット産業のあるエコ・タウン』



農地を集約して大規模栽培できるようにし、先進農業に取り組む。イノベーション構想と連動して、ロボット技術の導入もする。町内のエネルギーは地産地消する。

### 『未来都市のモデル』



自然・科学・教育・産業がバランスよく配置された未来型都市のモデルとなるようなまちに。

## B 双葉同盟

### 『双葉同盟』

イラスト (絵・図などで)

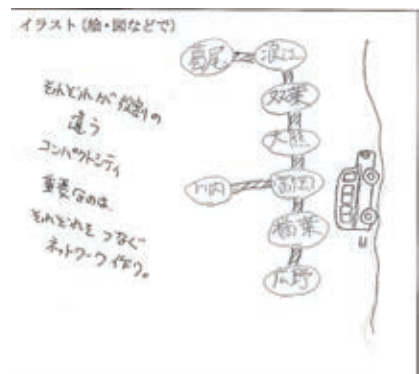
## 双葉同盟

今良くて先に不安有る人も  
今ダメで将来に望み多い人も  
同じ双葉のもとで手をつなごう

双葉 8 町村は各町村で普及のスピードに差があるため産業や商業で連携しづらい現状です。しかし、教育、医療、福祉など連携した方が効率よい分野もあります。双葉地方全体が将来復興できるように、今から連携できる分野は協力しよう。

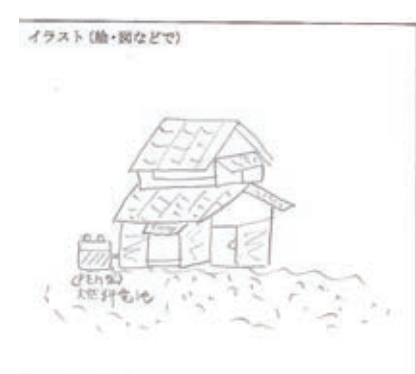
## C 第2のタウンスマートシティを目指そう

### 『8つのコンパクトシティをつなぐ』



各町村で復旧、復興を描いている現状では各町村はコンパクトシティとして2・3千人程度の拠点作りが無難な将来像です。同じ内容の施設を作らずに役割を分けて、それをつなぐ巡回バスを細かく設定することで、全体として大きく発展できる。

### 『第二タウンスマートシティ (その1)分散型発電システム』



巨大な原子力発電所から生み出す大型集中型、送電方の発電システムから、PEM(水素×酸素×陽子膜)型燃料電池等による小型分散型発電システムを家庭で小口の電力として地域の中で効率的に消費し、自立する持続可能な多様なエネルギーシステムを築き地域の気候、風土、伝統、文化などを地域資源として活用した「地域自立社会」を確立する。

### 『第二タウンスマートシティ (その2)双葉都市学園一貫教育』

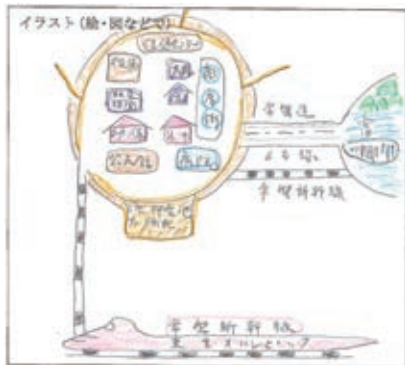


海、山、川の自然に囲まれながら、命と自然を引き換えにして原発を選択してきたそれぞれの功罪両面を反省し、未来の子供たちがいかにして温もりを手にするのか、教育はそのための根幹である。特出した幼少中高一貫教育として福島双葉のシンボルになる科目構成、授業料無料化を図り、文化・芸術+理工系に高・大・研究機関をつくり人づくりをする。



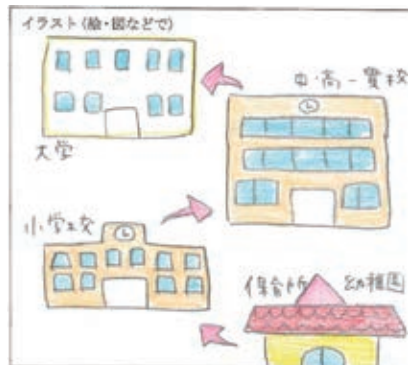
## D 魅力ある教育施設

### 『第二タウンスマートシティ』



町外へのドーナツ型。学校を中心として第二タウンスマートシティづくり。大学院は廃棄事業、人材養成等。原子力工学系と技術者バカにならないため教養科(文化・芸術)含む学校づくり。町全体をドーナツ型にしスマートシティ型として富岡に通うようになる。

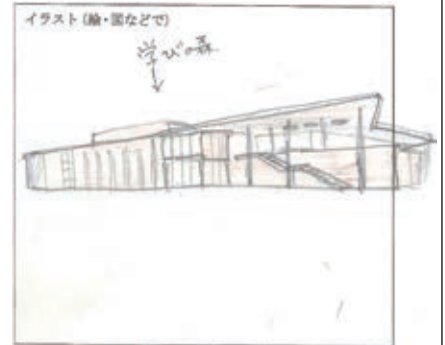
### 『魅力ある教育施設』



幼稚園から大学まで一貫した教育を受けることができる。大学生と幼稚園など日常的に幅広い交流ができる。双葉郡内の連携により、たとえば広野町に開校する中・高一貫校との兼ね合いも視野に入れる。スポーツや理系など特に力を入れた教育。

## E 学びの森防災研修センター

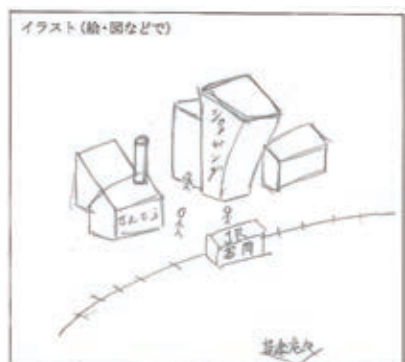
### 『学びの森を防災研修センターに』



東日本大震災での教訓を踏まえ、町民だけでなく外部の自治体や団体等が防災のための研修や災害時のシミュレーションを体験できる研修施設としての機能を学びの森に。防災に関する意識を高め、安全で安心して暮らせる町を目指す。

## F 心と体を癒す施設整備

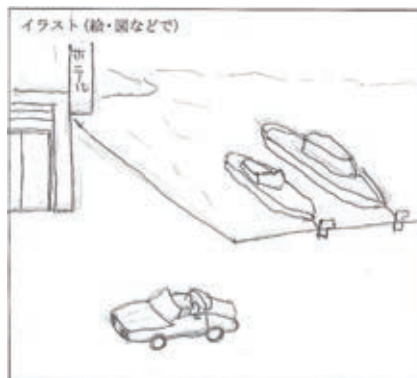
### 『心と体をいやすましよう』



富岡駅周辺に商業施設、娯楽施設等を集結する。心と体がいやされればより良いまちづくり、心のつながりに役立つ。

## G 観光資源としての漁港活用した(仮)富岡マリーナ

### 『富岡マリーナ』



漁港を活用するために、観光用マリーナとして整備する。将来的に、クルーザー所有するVIPな方々が楽しめるホテルや、観光スポットを整備し、風評被害の払拭ともなる楽しい計画作りをする。

## H 富岡の桜で復興の道筋づくり

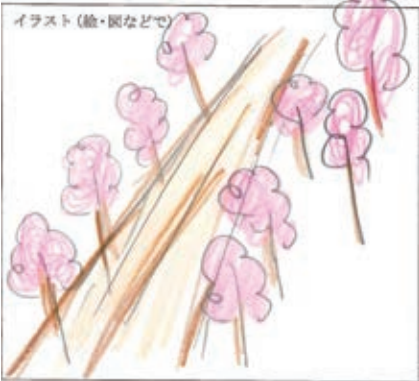
### 『フラワーパークの開園』



桜はもちろん、1年を通して季節を楽しめるフラワーパーク。家族連れでもピクニックに来れる。冬にはイルミネーションも見られる。

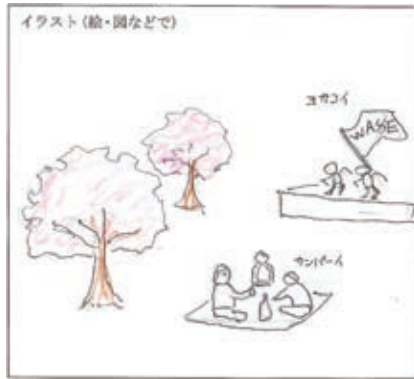
## I コンパクトシティを目指そう

### 『桜で若い人にも富岡を思い出してもらおう』



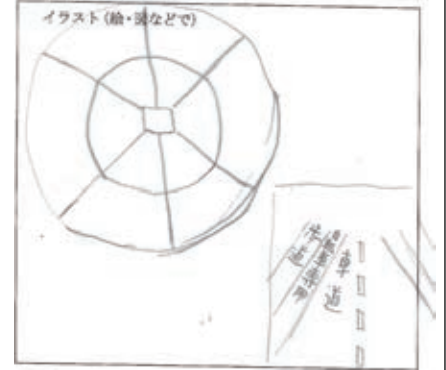
若い人の富岡町離れが起きるのを懸念しています。富岡町といえば桜です。新しい桜の苗木を町内に沢山植えて、昔の桜のトンネルを思い出してもらおう。富岡に帰ってくる機会が増えれば少しでも活性化すると思います。

### 『夜の森・桜祭り復活』



コミュニティのつながりのため夜の森のさくらまつりの復活をする。

### 『コンパクトシティ』



複合施設や学校を中心に放射線状に商店や復興住宅等の居住地を配置し、距離的格差の少ないコンパクトシティ。車道と歩道の間に自転車専用道路を設ける。従来のまちを1ヶ所に集約するという意味でなく、新しい人が魅力を感じられるようなコンパクトシティのモデルとなるようなまちへ。

## J 多くの機能を兼ね備えた複合施設

### 『多くの機能を兼ね備えた複合施設』



役場機能、医療施設、商業施設、宿泊施設等を兼ね備えた複合施設。

## K 子供が安心して暮らせる富岡まちづくり

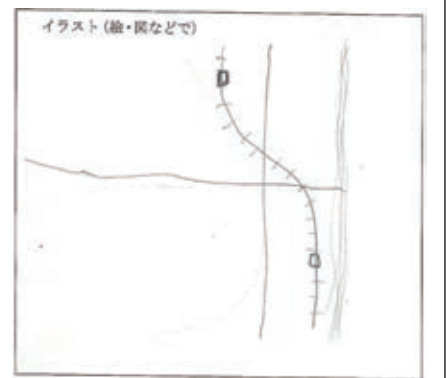
### 『桜が咲き、子供が戻れる町にする』



桜が咲き、普通にそこで生活できる町にする。家の燃料はバイオマスでまかなう。桜を植樹し、昔の桜の夜の森に負けない町を作る。外で子供達のがのびのびと遊べるのが普通の町。

## L 未来の町を見据えた復旧・復興の拠点

### 『将来のまちづくりを見据えて』



将来のまちを見据えて、今のうちから復旧・復興作業の拠点を都市計画の邪魔にならないような場所に集約する必要があると思う。



## M 現地から町民が発言する目安箱

### 『御意見頂戴!』



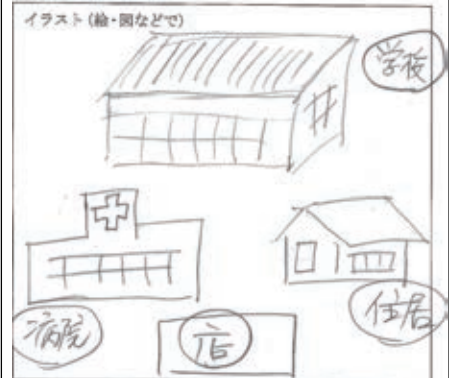
復興拠点など、人々が集まる場所に御意見箱を設置し、文字として意見を残し、共有する。高齢者を考慮し、あえて紙媒体を利用する。

## N 放射能に関する脅威の解消

### 『放射性』

文献毎で基準値が違う為信用できないがあるが、理解する知識が必要。

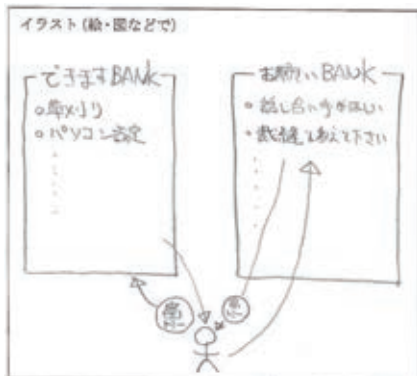
### 『環境の整備、放射能に対する不安』



学校、住居、病院、店等生活に必要な物が揃わないと戻れないのが現実だが、その前に放射能に対する不安が大きいため、それが解決できなければ先には進めないと思う。

## O 相互コミュニティの確立

### 『「できます!お願い!バンク」による相互共助コミュニティの確立』



特別なことはできないけど「町のために何かやりたい!」そんな人ひとりひとりに得手、不得手がありそれを結びつけることで人のつながりができるだけでなく、お互いの喜びや生きがいづくりにもなる。やり取りは富岡町独自のエコマネー「富(トミー)」で行う。

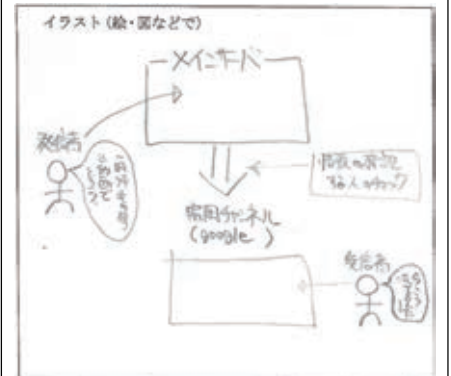
## P 町民が自ら情報の受発信に参加できる仕組み

### 『スマホの活用』



町でも配布しているタブレットはもちろん、個人のスマホも利用し、心のつながりを図る! 富岡町アプリの作成。

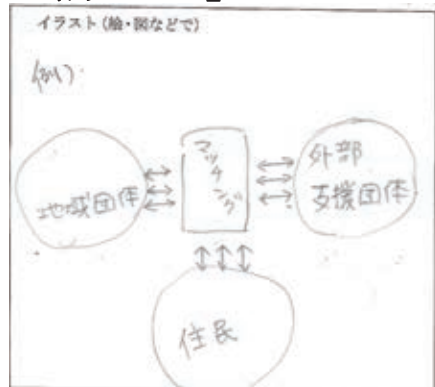
### 『スマホ・タブレットを活用した情報受診発信ネットワーク大作戦!!』



スマホ・タブレットの普及で動画撮影から編集までスマホ・タブレットでできるように。町民自らが発信者としてそれぞれの目線で情報受発信出来るような仕組みとしたい。

**Q 住民・地域団体・支援団体のマッチング人材育成の仕組みづくり**

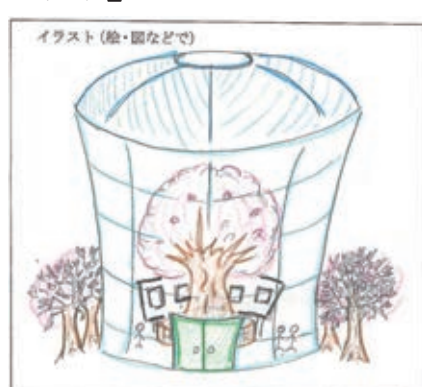
**『町民が復興のノウハウを培うために』**



町民が自立的に復興に取り組む仕組みづくりのきっかけとして外部の支援団体や地域の各団体、住民等の中に入り需要と供給のマッチングができるような仕組みづくり。団体同士や人と人が復興を通して交流することで、人間関係だけでなく、ノウハウや経験を培うことで、将来的には町民自らが復興の先頭に立てるようにする。

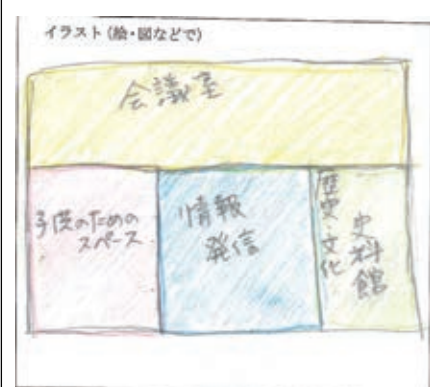
**R 富岡町とつなぐ復興拠点**

**『心のつながりを保つ復興拠点』**



帰る人、帰らない人、帰らないけれど富岡町とは関わりたい人、そんな人たちがへだたりなく集まれる事ができる拠点が必要では(桜の写真、富岡の歴史、原発についての情報の発信施設としても)

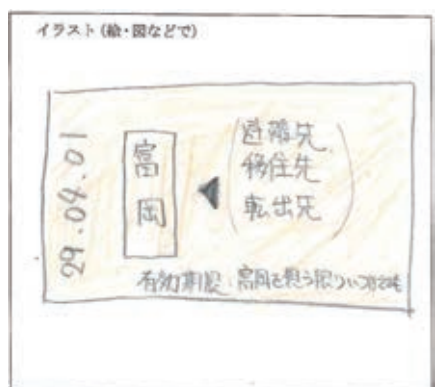
**『復興拠点』**



情報発信や史料の展示だけでなく、子供のためのスペースを作り、子供達自身がそのスペースをプロデュースしていくことで、子供達と町のつながりを維持していく。

**S 富岡帰還切符発行**

**『富岡帰還切符の発行』**



様々な事情により富岡から転出した人に富岡帰還切符を発行。自分の状況でいつでも帰還したいんだという心のよりどころに思ってもらえればと考える。

**T ネット配信を利用した故郷を体験できる仕組み**

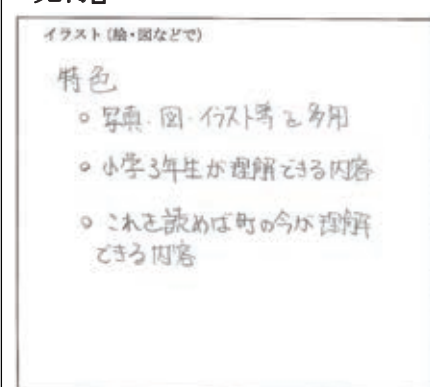
**『伝統文化やお祭りのネット配信』**



富岡町でも行われている伝統文化(麗山の火祭り)を再現して配信したり、各避難先で行われているお祭りをネットで配信し、皆に雰囲気を感じてもらおう。

**U 富岡町の現状を知るライブカメラや広報の活用**

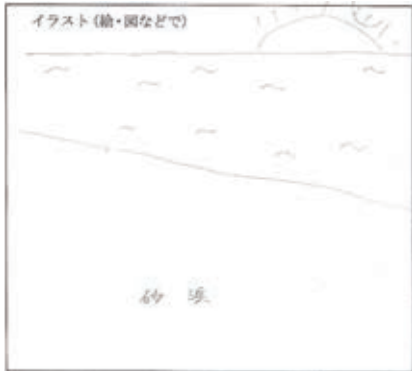
**『子ども向け「広報とみおか」発行』**



子どもたちに町の現状等を少しでも理解してもらうために子ども向け広報誌を発行。理解が深まることで町への関心が高まることを期待したい。

**V 福島県の現状を知ってもらうための心の復興特使**

『町内見える化配信』



目まぐるしく変化する町内の状況を動画配信する。復興の状況を伝えることにより被災風化対策を図る。自然を映し、郷土をなつかしむことも郷土愛の維持。

『心の復興特使』



この4年弱を日本各地で過ごした人達、特に子供達にはそれぞれに仲の良い関係を築いた友達がいる。その人達が福島県内に戻ったら関係が終わるのでは無く、その友情を富岡や福島県の現状を深く知ってもらうことに役立てたい。宿泊や、観光サービスを町が支援する。

**W 自立支援と安心安全を確保するための里の駅**

『里の駅』



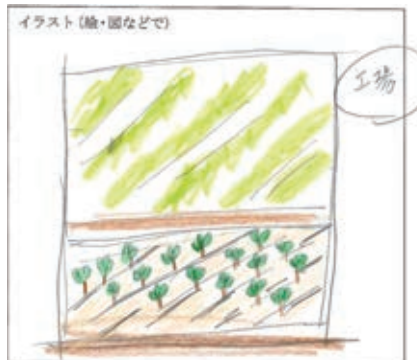
日中の出入り可能な地域で行政区毎に、里の駅のような生活拠点と治安の拠点を合わせた施設を作る。自立を支援するためにシルバー人材センターに町内の監視を委託する。帰還推進のためにも役立つ。

『自立支援の働きかけ』



生活意欲がなくなるサポート、制度、指針の見直し。町民が帰還をしても、国、自治体が頑張っても、利用・使用する側による部分が多い短命自治他になってしまう。心の充実。

『高齢者で農業をしたい人の為に工場内で野菜づくりをする』



高齢者で農業・土いじりをしたい人は多いと思うので、工場内で農業のできる施設を作り、そこで働いてもらう。やりがいも生じ、ハウスや工場内なら外気も関係なくできるので良いのでは。

**X 被災慰霊公園**

『被災慰霊公園』

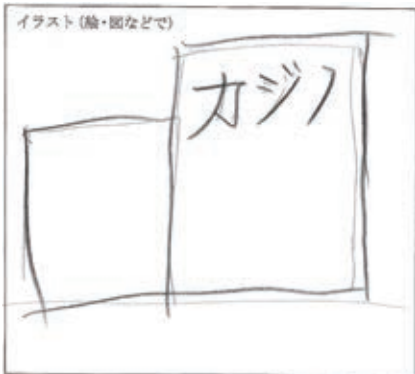


津波災害の歴史を風化させない為にも、人々の心のよりどころとなる慰霊公園を造成する。(津波被災エリア付近への造成)



## Y 雇用創出を目指したカジノ特区

### 『特区でカジノを持ってくる』



若い人が住みたくくなるようなまちづくりをしなければこれから先の町はなくなる。ならば若い人働ける場、カジノを特区として持ってくる。雇用はあるし、人は集まる。国策の原発がこういう結果になって双葉郡がなくなってしまう危機なのだからカジノを持ってくるという話もまったく無ではないと思う。

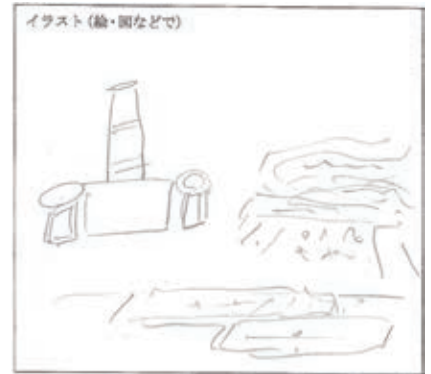
## Z 富岡町史の編さん

### 『富岡町史編さん』



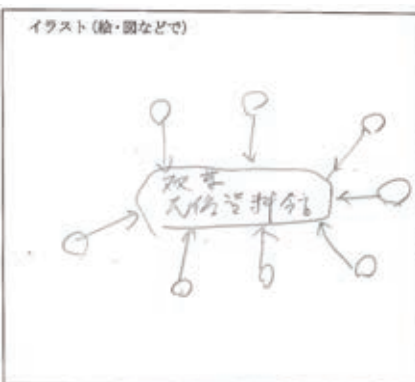
3.11 以後町民はどのようにして避難して現在に至っているのか。1000年に一度と言われるこのとき、全戸聞き取り調査を早急に取り組むようにする。調査体制、財源は復興予算を確保する。当然、国・県の助言を受けながら民俗記録の観点から行い、町史に追加記録編さんする。

### 『富岡町史編さん』



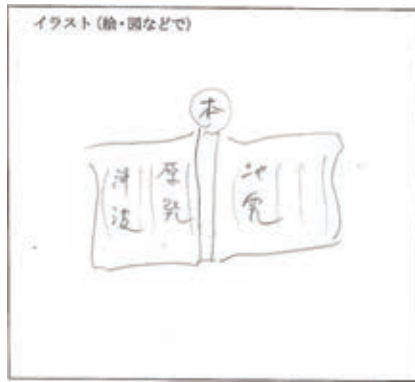
町は原子力発電所と津波、地震について検証機関を設置し、早急に取り組み検証結果を町史に追加記録し、後世に引継ぎ残すよう編さんする。また被災状況をフィルム保存記録しデジタル化も図り、保存と広報を行う。(雑誌、新聞は当然保存)

### 『富岡町史編さん』



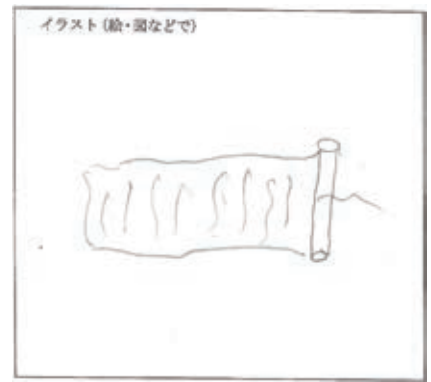
町は民族資料館の保管資料について一町のみでなく8町村で双葉郡一ヶ所に双葉民族資料館を設置し、貴重な古文書等の歴史資料を保管し継承する。

### 『東日本大震災出版本の保存』



原発、地震、津波関係の出版されているあらゆる出版本を購入し町民、子どもたちにも伝える歴史の価値として早く取り組むこと。

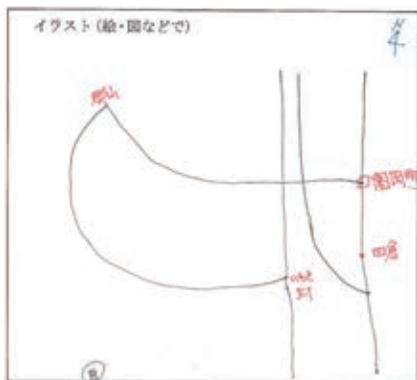
### 『古文書等の収集保管』



富岡町歴史にはまだまだ町の歴史について分からない部分がいっぱいあるので、3.11以後家屋を取り壊される前に貴重な古文書等を寄贈していただく取り組みを早急にする。また、今後の町史編さんに追加する。

**あ 避難先と富岡町をつなぐバイパスの整備**

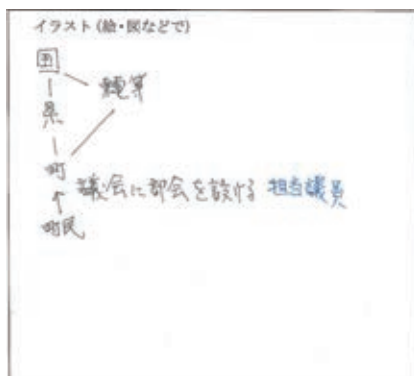
『心の折れる時』



富岡町⇄四倉(居住圏)往復  
100km 時間 110分 労働時間  
8:00~17:00 実質 19:00  
自宅⇄郡山 120km 2H 震災前ではありえない夕日に向かって帰る時  
みなさまが言う、富岡町での作業の実状。

**い 検討委員会解散後の受け皿づくり**

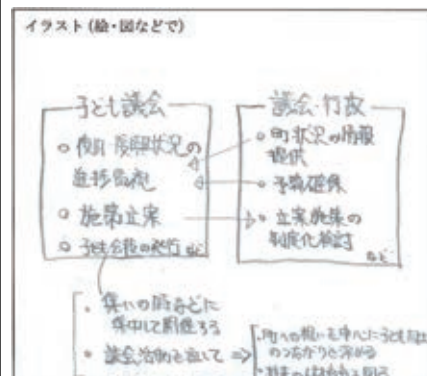
『第二次検討委員会解散後』



町民一人ひとりが参加するのは大変だが町民が意見を発信して自己の問題の改定に役立て町民である思いを持たせる。

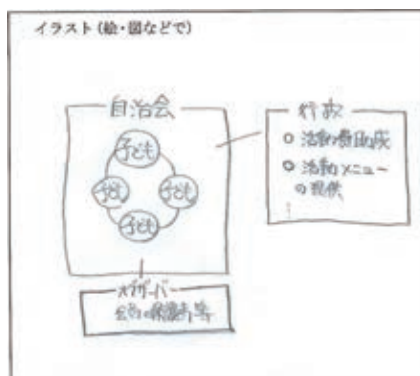
**う 子供自治会制度の設立**

『子ども議会の創設』



子どもの視点を町政に取り入れ反映できる仕組みとして子ども議会を創設。議会活動を通して町への想いの下に子ども同士のつながりを深め、町のために働きたいと思う人材育成を図る。

『子ども自治会制度の創設』



子どもたちが主体的につながる仕組みとして子ども自治会制度を創設。子ども達の主体的な活動を保護者等の大人と行政が支えていく仕組みとしたい。子どもに権限と金を与える。



# 産業再生・創出部会

## A 情報通信基盤の整備・拡充

### 『情報通信産業の拡充』

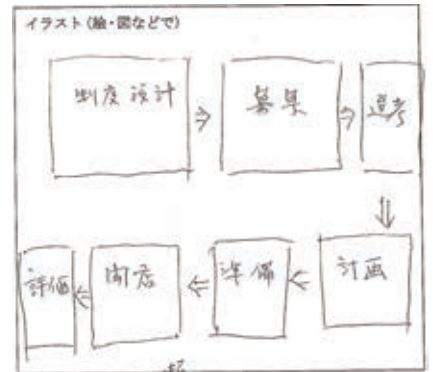
通信技術は現代の情報社会の中で非常に重要である。災害時の正しい情報等より正確性を増す技術産業の誘致を行う。

### 『地域型エネルギー政策による災害防災計画』

生活全般を自然再生可能エネルギーを利用した家、各種施設の施工。地域型電力にしていくことで電源喪失等を防ぐ

## B 若者や起業精神を持つ人たちのための支援制度の創設

### 『ベンチャー育成制度』



町内で起業、開店する未経験者を町内外に募集し、町内で夢を実現する支援をする。資金の貸付、アドバイザーをつける。業種などの条件をつけても良い。

## C 災害訓練による産業づくり

### 『災害訓練による産業づくり』

東日本大震災と原発事故を教訓にNPOや住民、自治体を混ぜた実体シミュレーション型の防災訓練を企業、自治会を招いて行う。独自性として杉戸と行っている協働災害訓練の利用。自治体、NPO、企業とのつながりをつくる。

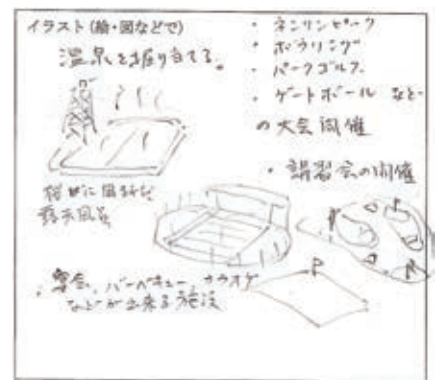
### 『防災フェアの開催』



毎年3月11日に全国全世界の防災関係者、NPO等を招いて防災フェアを開催する。(期間中に町の訓練を行い、見学・体験してもらおう。メーカーに出展してもらおう)

## D 高齢者が住みやすい拠点づくり

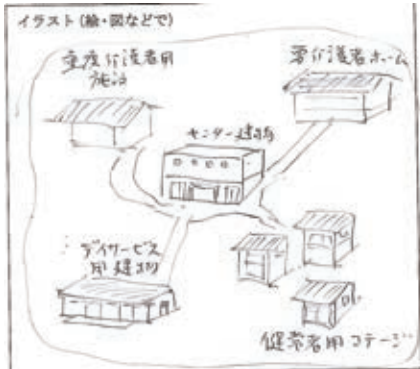
### 『高齢者用娯楽場(チェリーランド)』



高齢者が日帰り、あるいは宿泊して楽しめる施設を町内に建設する。民間のノウハウを入れる。町や周囲から働き手と客を集める。既存のものも活用する。賞を作る。(文化、スポーツ)

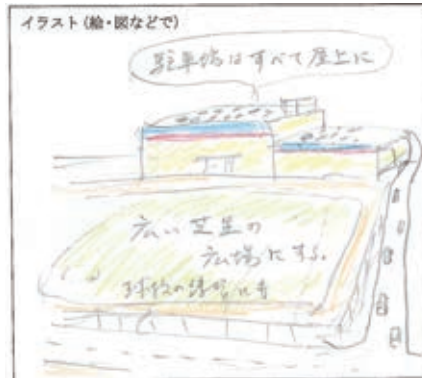
## E 帰還のための早急な生活基盤の整備

### 『大規模高齢者施設』



高齢者のための施設を要介護の段階毎に建設し、それらを双葉郡内の高齢者に開放する。健康な人にはサービスの一部を手伝ってもらい、ポイントを積み立て将来介護を受けられるようにする。

### 『最新の大型スーパーの誘致(再開)』



帰還する前提として買い物ができる場所が必要。ベニマルの早期再開を促す。あるいは他の資本により大型店を開店させる。(帰還時期に合わせて)

### 『国道沿いのサービス業エリアづくり』



サービス業の大型店を国道沿いに連続して誘致し、双葉郡の人々がワンストップで利用出来るよう。ドコモ、au、オートバックス、保健、東北電力、住宅展示場、クリーニング、医療(歯、耳鼻科)

## F 商店街再開のための支援

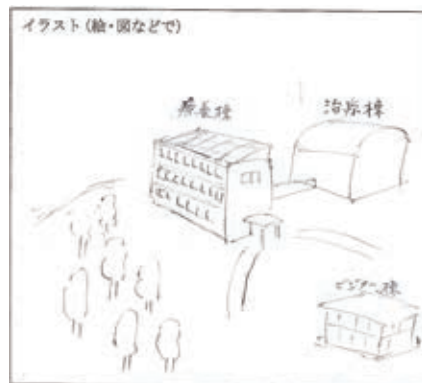
### 『商店街再開支援』



避難の長期化で薄れている商店街再開の気持ちをバックアップして、役場と商工会が共同でニーズにあった商店街の構築を行う。

## G 先進医療施設の整備

### 『先進医療施設の建設』



全国に数ヶ所しかないガン治療施設を建設する(重粒子線治療など)。患者は1ヶ月程度療養し、その間家族も宿泊する。東北全域、関東全域から治療に訪れるようにする。(見晴らしのよい所、ゴルフ場跡でもよい)

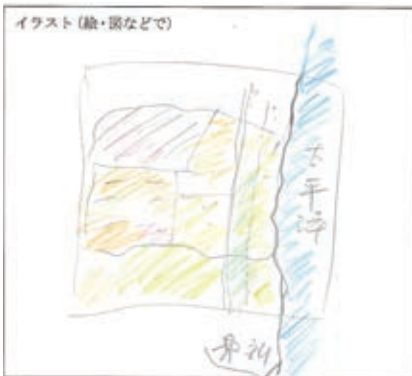
## H 未来産業技術に関する大学の誘致

### 『未来産業技術に関する大学の誘致』

再生可能エネルギー、ロボット、航空、宇宙等の技術開発に関連する大学の誘致。被災地相双管内の第1号の大学。

## I 除染による第三者評価機関

### 『放射線量表示アプリの開発』



毎月測定した最新の放射線マップをケータイアプリで見られるようにする。自分がいる場所もGPSで表示。

### 『第三者機関的な除染に関する評価機関』

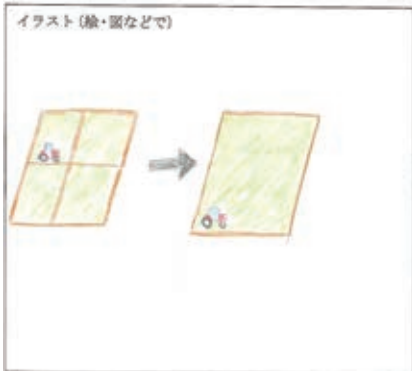
除染後地権者に引き渡す前に安全なレベルになっているかチェックする機関をつくってもらいたい。

## J 農地・農業再生に向けた取り組み

### 『農業の復興のための準備』

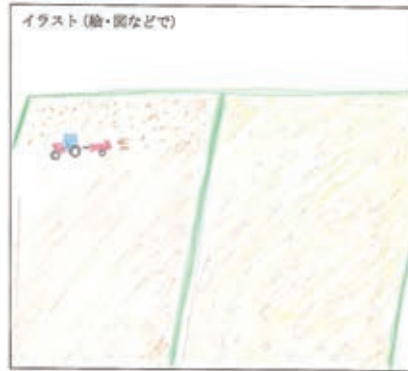
田畑は除染されてもすぐに作物を作付けすることはできません、地力がない。帰還してすぐ農業復興をしやすいように有機肥料等を入れ知力回復事業を町としてやるべきだと思う。

### 『ほ場の区画を大きく』



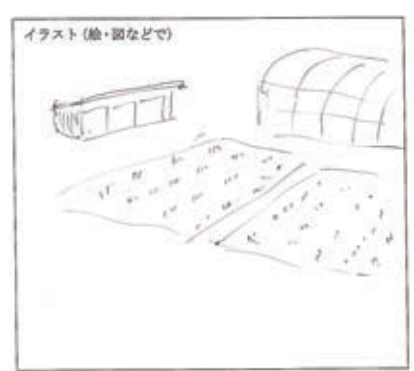
小さな田んぼの区画を大きく作り直し効率的な土地の利用をする。

### 『農地の再生』



除染が終了し地力の落ちた田んぼに堆肥などの有機物を散布し地力回復に有効な作物を栽培し農地の早期回復を図る。景観にも有効。

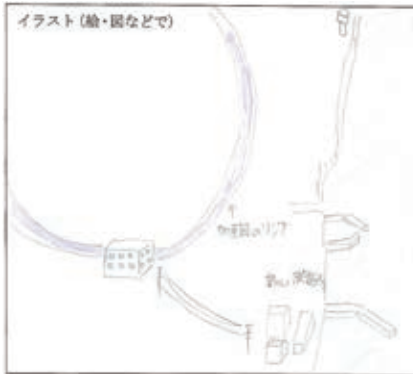
### 『農業の成長産業化』



新規参入の自由化(農地法改正、特区)。大規模化(放棄地などの集約)。農業スクール。加工品開発、6次化(漬物など)

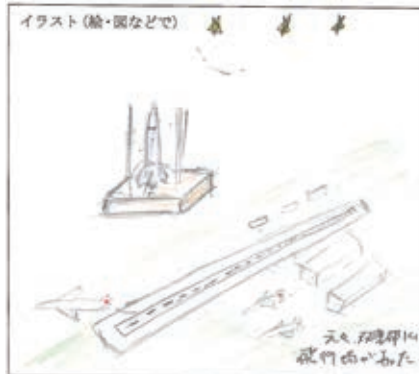
## K 未来に向けた夢のある産業づくり

### 『富岡に誘致、高速加速器』



大型の高速加速器を誘致し、その建設・維持などで人を呼ぶ。加速器は地下に作るの地上は別の物に利用できる。大電力を必要とするので新しい発電所も作る。

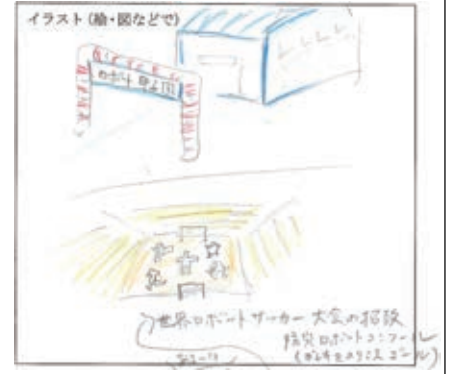
### 『未利用地の有効利用による夢のある子供もあこがれる産業の創出』



富岡町の北部、大熊町、双葉町など高線量の土地を最大限活用して、次世代にもつながる航空(MRJ など)や宇宙開発の研究試験施設など製造ラインを備えた工場を誘致。子供や大人が夢を持つ産業を創出する。

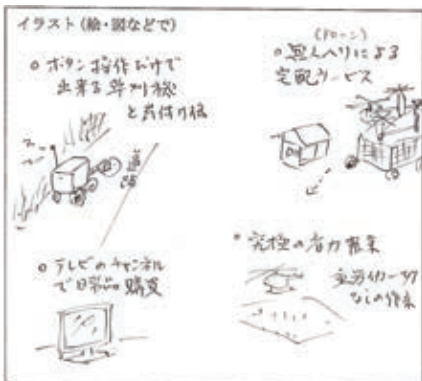
## L 将来を見据えた未来型ロボット産業の構築

### 『世界ロボットコンテスト開催』



双葉郡あるいは浜通りで年1回世界ロボットコンテスト。工業高校、高専対象のロボット甲子園などの開催。参加者、応援団に地域のロボット産業やロボットが生活で活用されているところを見せよう。

### 『高齢者社会に向けたロボット産業の導入』



配達、移動、草刈。耕作、買い物など IT やロボットを高齢者の生活に役立つように改良する試験場とする。(各メーカーから委託を受けてテストする機関として町民の協力で行う)。じょじょに周辺の町村に広げる。

### 『未来型ロボット産業の構築と産業ロボットを体感できる地域』



廃炉に関わるロボットだけでなく医療、福祉、災害に必要となる未来型ロボットの開発に加え、地域の担い手不足による農業、漁業、林業などの一次産業を支えるロボット。更には、子供たちに夢を与える宇宙開発や海底調査に関わるロボット開発も行い。近い将来から遠い未来を見据えた開発拠点の整備を行う。

### 『ロボットコンクールの開催』

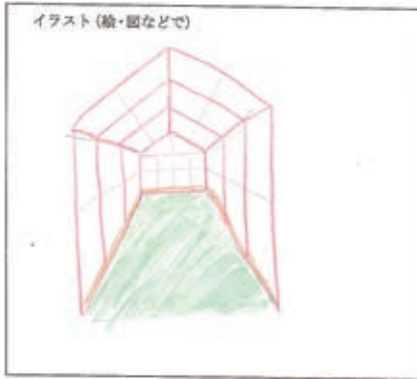


ロボットの大会を行える場所を作りやがてロボットの拠点にする。新しい産業やゆめの創出。



## M 仮設焼却施設の将来的な転用

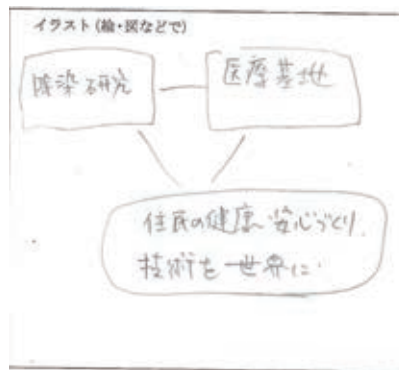
### 『屋内運動場』



現在建設している仮設焼却炉などの建物を使用後に除染の上運動場に転用する。

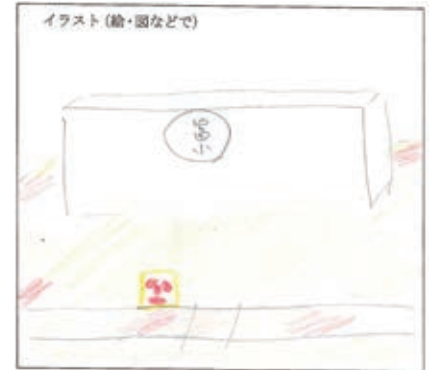
## N 徹底的な除染と除染技術の開発

### 『除染・研究施設』



汚染された場所での生活を選択せざるを得ない人もいる。低線量被ばくや除染技術を研究するまたとない地であり、その技術確立、世界に発信、技術輸出していく。

### 『継続的な除染の仕組み』



環境省が行っている除染では落としきれない汚染がある。民間がモニタリングを行い、ホットスポットの除染を継続しながら技術開発できる拠点整備。

## O 除染物の資源化

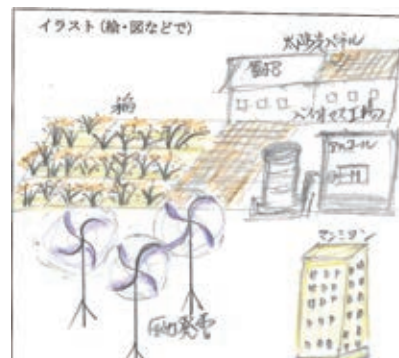
### 『除染で出た草木を資源化』



除染で発生した草木を集め、バイオコークス(石炭様)を製造し、それを燃料に発電する。(CO<sub>2</sub>フリー)除染終了後は川内なども含めた山林の間伐材を使用する。

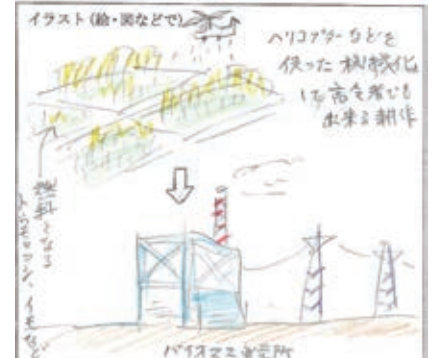
## P 農地を活用した総合エネルギー方策

### 『農地を活用した総合エネルギー政策』



作っても売れない米でも土地は守っていかないとダメ。そこで農地を利用した太陽光、風力、バイオマス工場そして管理するマンションも1階はPR館として取り組む。

### 『農地で再生可能エネルギーづくり』



食料でなく燃料として作物を作り、バイオマス発電所で燃やし電力を販売する。これなら汚染問題もクリアー出来、24時間送電できるので電力会社にも買ってもらえる。作物から燃料油を作っても良い。

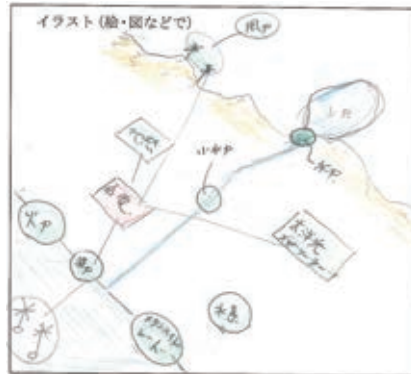


## Q 基幹エネルギー産業再生と構築

### 『原子力発電所が変わる再生可能エネルギー基地』

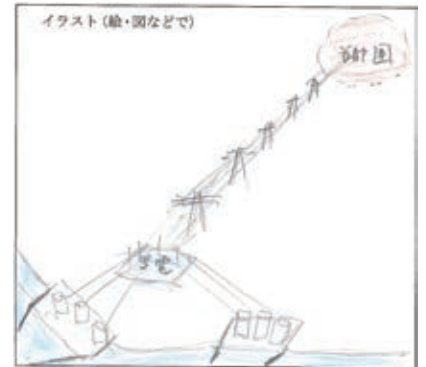
自然エネルギーの開発と既存の送電線を利用した売電による大規模発電施設を地域型で作り収益を教育、農業他町を再生していく為の人材育成の基金をして使っていく仕組みを作っていく必要性を強く感じる。(農地を利用したソーラー発電事業)(小水力発電)(風力発電)

### 『全てのエネルギー産業を体験・発信できる地域』



主要な電源(火力、原子力(廃炉、安産管理))のみならず地域の資源を最大限生かし、水力(滝川ダムの機能変更)、小水力、地熱、太陽光、風力、波力、さらには次世代の水素、メタンハイドレードなどの開発に加え、災害や資源の有効利用を見据えた蓄電技術の開発をまちづくりとタイアップで行う。国内外の自治体、研究機関、一般の方の視察・学習・体験の場とする。

### 『基幹エネルギー産業の再生と構築』



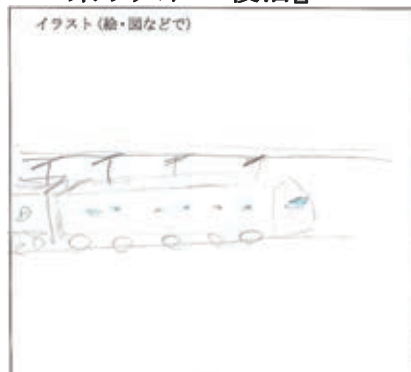
双葉郡を中心とする浜通りは国内有数の電力供給基地であるため世界規模の送電・変電施設を有する。また、この地域の住民には電力に関する技術者が多く暮らしていた。長期の時間を要して築いた基幹産業(電力)を違った形、未来を見据えた電力基地を再生する。

## R 双葉郡を支える道路・鉄道ネットワークの強化

### 『滝川ダムの利用』

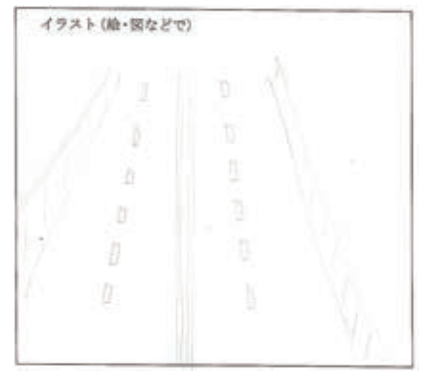
法的な制約がありますが町としても考えてほしい。

### 『- 鉄道交通の早期再開と移動時間の短縮-JR の早期再開とスーパーひたちの乗り入れの復活』



富岡駅までの JR の早期の再開に加え震災前に取りやめられたスーパーひたちの乗り入れの復活。また、軌道改良を行い東京-富岡間を2時間30分以内で結ぶ。超特急スーパーふたばと名づけても。

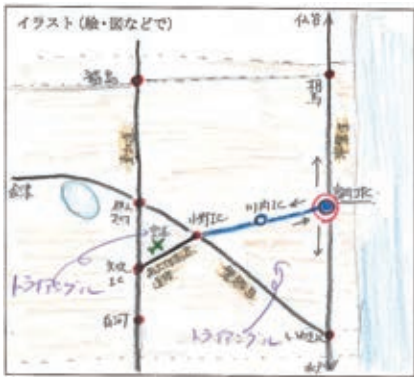
### 『常磐道を4車線に』



現在対面通行の常磐線を早期に4車線にする。

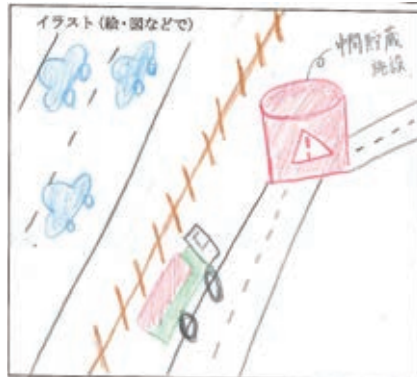
## S 中間貯蔵施設専用道路の整備

### 『広域交通ネットワークの強化・整備(ダブルトライアングル・ハイウェイ)』



あぶくま高原道路を同じ規格で小野 IC から富岡 IC まで延伸する。その途中で川内 IC。中通りと双葉郡への移動時間の大幅短縮により帰還意識の高揚、2 地域居住形態の強化、国内外及び県内の交通環境の改善、郡山・富岡の移動時間は 1 時間以内。緊急避難路としての確保。

### 『中間貯蔵施設への搬入専用道路の建設』



富岡町近隣市町村を巻き込み中間貯蔵施設への道路を作つくる。専用のスマート IC をつくり、一般車両と作業用車両を分ける。そのためのプロジェクトチームを他市町村共同でつくり、国・県への要望をしていく。青写真でルートを示していく。

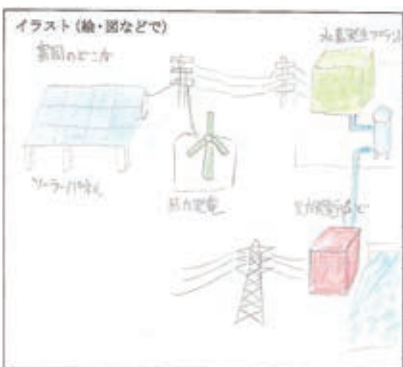
### 『中間貯蔵施設専用走路をつくる！』



放射能は目に見えず・・・だが交通事故は一瞬にして人の命を奪ってしまう。フレコンバッグを積んだトラックが事故を起こした場合放射性物質拡散の危険性も高い。帰還住民の命が中間貯蔵施設に関わる交通事故で奪われるようなことがあっては絶対にあってはならない。

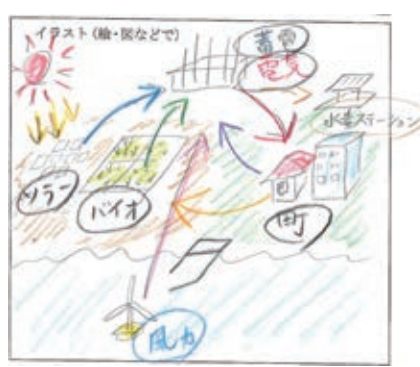
## T 循環型のまちの整備

### 『世界一効率の悪い発電施設』



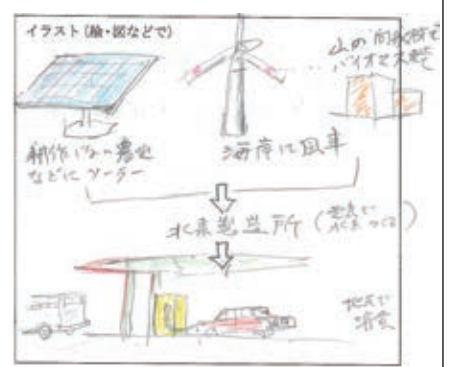
ソーラーパネルや風力発電で作った電気で水素を作り、その水素で大型の発電所で発電し大消費地へ送る。既存の送電網を利用できる。

### 『循環型の町』



再生可能エネルギーを最大限利用した、循環型のエネルギーの町にする。

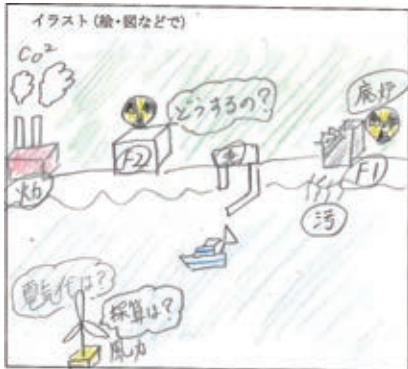
### 『水素社会の先駆け』



ソーラー、風力、バイオマスで電気をつくり、それで水素を製造する。町の GS に水素スタンドを併設し、公用車などを燃料電池にする。このスタンドを双葉郡内に拡充していく。各世帯にもエネファームに供給。

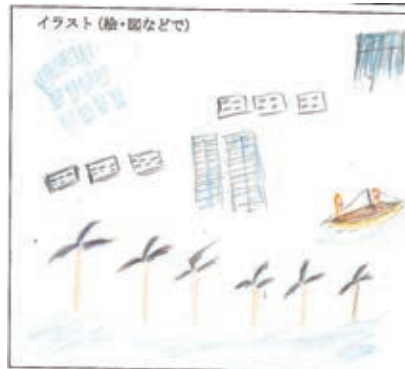
## U 新しいエネルギー観光政策

### 『エネルギー問題』



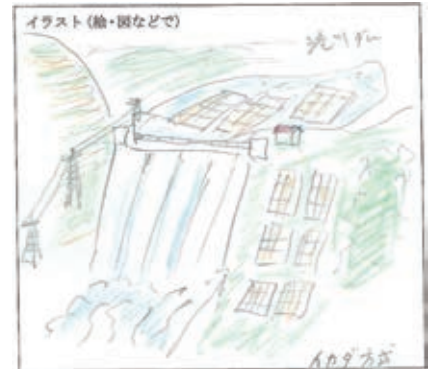
第一原発、第二原発、火力発電、洋上風力発電が一望できる。過去・現在・未来のエネルギー問題を考えてもらう。

### 『新たな産業(エネルギー観光)』



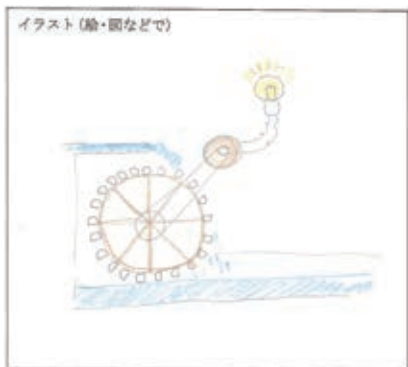
原発に変わり新しく再生可能エネルギー(ソーラー、風力、地熱、水力、小水力、揚力)の発信基地。東京、東北電力の送電線の利用。ホテル、船による観光、研究機関設置(医療含)。富岡の地形を生かした配置が必要。

### 『ダムの有効利用』



ダム湖の湖面にイカダ方式浮体型のメガソーラーを設置する。またダムの側面にソーラーを設置することも可能。

### 『小水力発電の整備』



町内にある水路の落差を利用する発電設備を整備する。

### 『ダムの水面で太陽光発電』



ダムの水面に太陽光電池を浮かべて発電する。向きなどを合わせやすいので発電効率も上がると思う。ため池でもできると思う。

### 『とみおかの心のきずな』



とみおかとは赤い糸で結ばれている。町民がその絆が確認できて、太くしていくことができるような様々な支援策を実行していくことが大切でっせ。



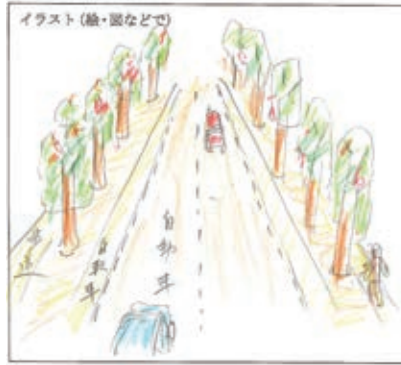
## W 将来の財産となる道路づくり

### 『町内の道路は幅広く』



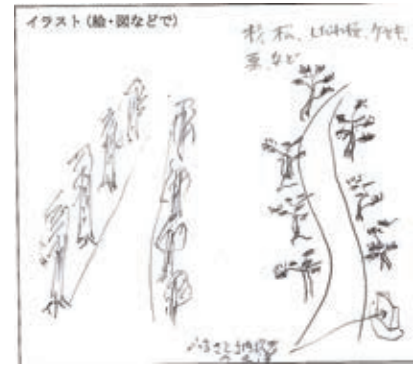
新しく造る道路は歩道に自転車道を設け車道は片側3車線に。

### 『花咲く道づくり』



桜並木でない大きな道はすべて花の咲く木を植えた並木道にする。この際自転車専用の歩道をつける(このため住民帰還前に拡幅する。30年後に名所となる。電線も地中化する)。

### 『並木と街道づくり』



日光の杉並木、東海道の松並木、夜の森の桜並木のような並木を町内の道路を街道に見立てて、今から育て、30年後に立派にする。手入れをするために雇用が発生する。(費用 ふるさと納税)

## X 復興祈念公園と新しいまちの整備

### 『Tomioka Hills』



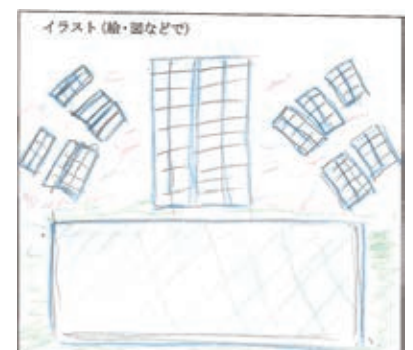
人が住みたくなる、行きたくなる町 Tomioka Hills。高層ビルにホテル、病院、行政施設、オフィス、レストラン併設。原発事故を伝える資料館、低線量被ばく研究を進める大学研究所、ショッピングモールが整備されている。海岸沿煮はでっかい港あり。ここに来れば遊んで学んで楽しめる。

### 『復興記念公園(国営)と歩いて暮らせる街』



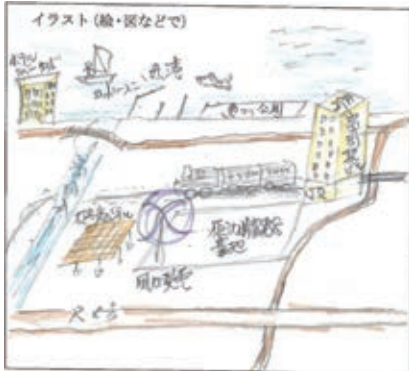
常磐線の駅で最も運に近い好立地。津波で被害のあった駅舎、漁港、既存のスポーツ施設、海水浴場などを最大限に活用して約100ha規模の国営の復興記念公園を設けて国内外の交流・情報発信拠点とする。その西側はすべての機能を有する歩いて暮らせる次世代の居住空間を創出する。

### 『情報発信拠点』



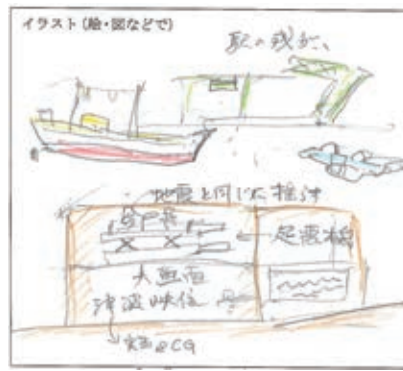
原発事故を記録継承するための世界に向けた情報発信拠点=住民の為の拠点ともなる(40年にわたる廃炉作業が予定される中防災施設も考えた)居住地(集合住宅と戸宅)コミュニティの在り方。

### 『富岡駅周辺開発計画』



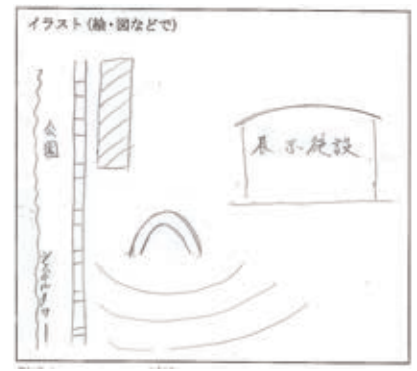
JR 富岡駅をビル、ホテルそして商店が入る集合ビルとし、漁港と原子力事故の情報発信基地とし、太陽光・風力発電によるエネルギー活用を図り、交流と商用を兼ねた計画として取り組む。

### 『震災・原発事故記念館』



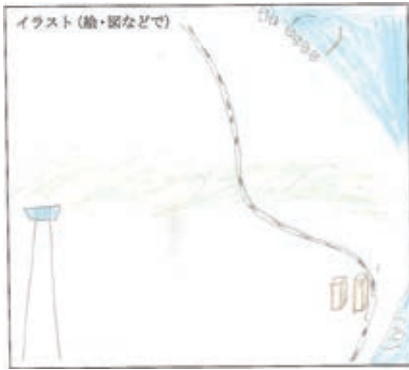
記念館の前提として富岡駅、車、陸に上がった車を保存。館内には地震の体感装置、津波の大迫力映像などの体験型の内容とする。映像には原発事故当時の写真、動画もCG。防護服の着用体験も。

### 『復興拠点としてシンボル施設』



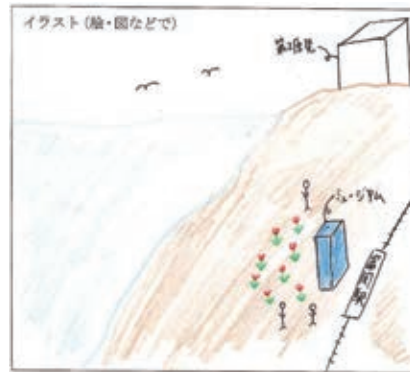
シンボル施設を中心とした産業開発集客施設。

### 『すごく高い展望台』



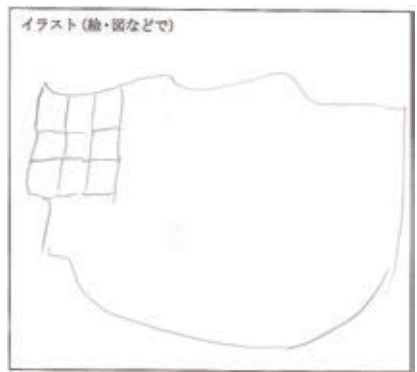
町内や原発を一望できる展望台を作る。ランドマークにもなる。

### 『原発事故に関するミュージアムの建設』



現在富岡駅周辺に原発に関する専門の施設を建設する。その施設は単なる博物館ではなく公園も併設して富岡海岸、第二原発を見渡せる環境にする。また、観光の為の施設として町外者を集客するだけでなく情報発信の拠点としての役割を持たせる。

### 『除染後の放射線対策(理解促進)』

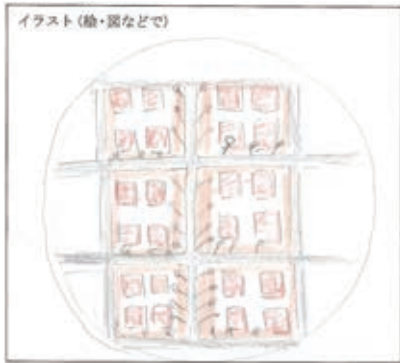


線量マップによる放射線管理。地図上500m四方の計測を計画的に進める。(メッシュ調査)



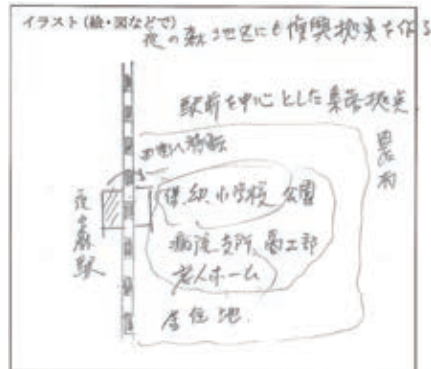
## Y 夜の森周辺の将来拠点づくり

### 『夜の森の面的除染と花が咲き誇る次世代のまちづくり(スマートシティ)』



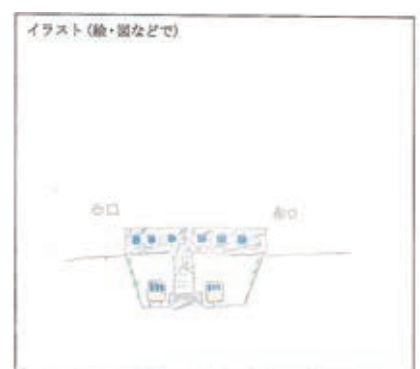
夜の森の中心市街地を面的に解体・除染し全体のエリアの線量を大幅に下げ次世代のコンパクトシティを構築する。また、日本が世界に発信するスマートシティの整備を行い。国内外からの先進事例の視察先として多くの人々の交流を図る。ロボット技術との連携も図る。

### 『夜の森地区にも復興拠点を』



富岡地区には曲田、岡内、上郡山地区に富岡駅を中心とした、復興拠点が計画されていますが、夜の森地区にも復興拠点が必要だと思っています。

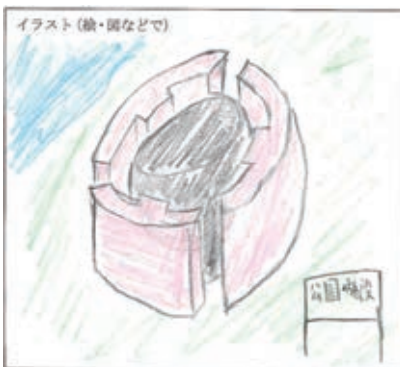
### 『夜ノ森駅橋上化計画』



夜ノ森を橋状にして東側と西側の地区を結ぶ。自転車専用の橋も同時に作るのも良いと思う。

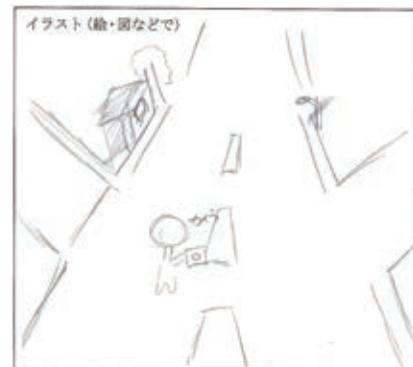
## Z 町並み保存事業

### 『残す化事業』



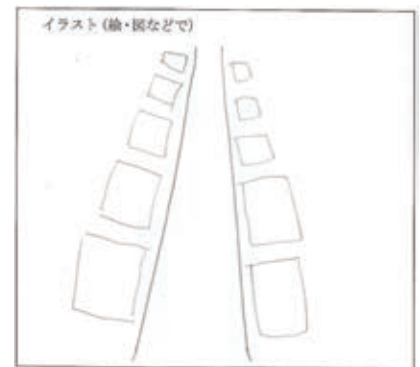
風化防止、次世代への継承の観点から、震災と原発事故により被災したものを残し、復興記念公園へ保管する。(避難により放置された車両、家畜(きちんと処理してから)、最初に一時帰宅したときの一時帰宅セット、発災当初の災害対策本部等)

### 『残しとくべ事業』



解体除染本格化前に全ての道路をストリートビューとしてデータで残す。また、町内各所の写真を撮ってケータイでかざすと、その写真が出てくるシステムをつくる。

### 『町内の再現を事業化』



グーグルのストリートビューや建設業のノウハウを活かして、写真等から町並みを再現する。3Dマップ。

『震災前後の町並み、文化遺産のビジュアル保存』



これから急速に変化する富岡町の町並みや文化遺産などをストリートビューや3Dに観測し模型や画像として残し、後世に伝える。そして、この情報や模型を復興記念公園に保存する。

『富岡を知らせる放送局を作る』



その時の町内の様子や出来事を撮影保存して世界中の人達が見られるようにする。

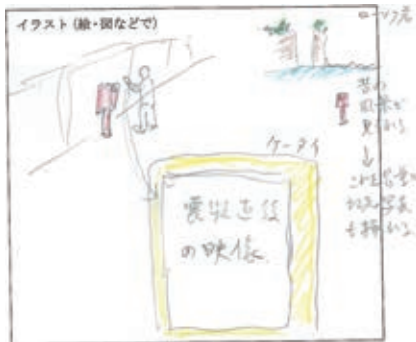
『国営ミュージアム』



復興公園を作って、災前・災後の町の模型を展示したり、視察の場とする。出来れば国営とする。

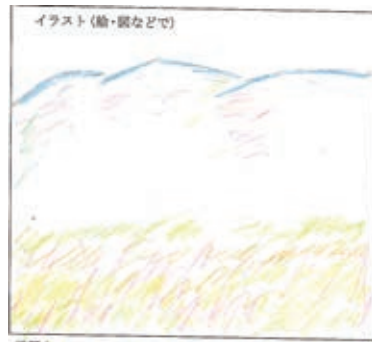
あ 自然の豊かさを残す

『震災メモリアルデジタル案内』



震災直後の映像をその場でケータイをかざすことで、見れるシステムをつくる。

『自然の豊かさを残す』



桜・つつじだけでなく、エネルギーを作る材料も含め植物(四季が楽しめる)で満たす。(遊休地、山林などの工夫)里山の風景を活かす。

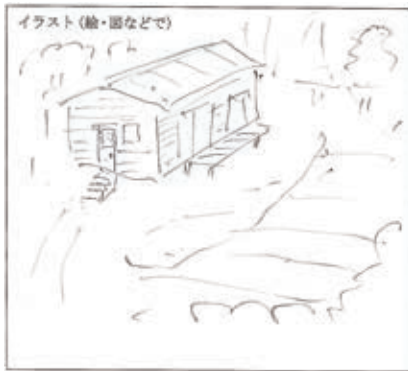
い 双葉郡の合併

『双葉郡合併』

双葉郡全体が一枚岩になるべきだ。各町村単独で、今の問題に立ち向かっていくのは無理があると思う。それぞれ出来る事が違うはず!!役割分担をするべきだ。

## う 田舎暮らしモデルハウスの整備

### 『田舎暮らしモデルハウス』



田舎暮らしモデルハウスを何棟か建てる。(県内のハウスメーカーに協力してもらう)。東京など都会の人に見学、宿泊してもらい田舎暮らし体験をさせて、移住につなげる。

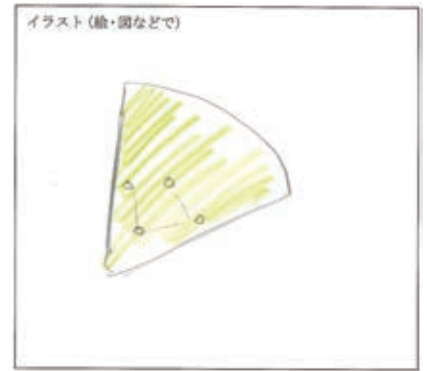
## え 国内外からの集客施設の整備

### 『コンサート会場をつくる!!』



福島に想いを寄せる芸能人は少なくない。そういう人たちにコンサートをひらくことができる日本武道館クラスのコンサート会場をつくる。集客施設、スポーツ施設やイベント施設を兼ねる、オリンピックにも使える。

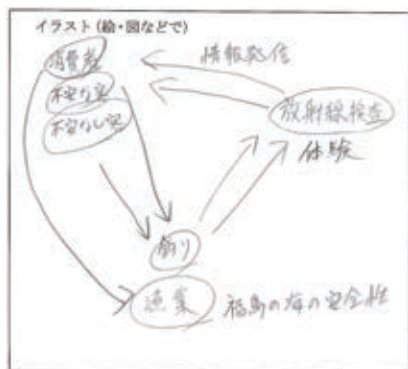
### 『世界大会開催可能規模スポーツ施設の整備』



サッカーW杯、野球WBC等世界大会の開催が可能となるスタジアム等を建設する子他で富岡町へまた行きたくなる人が現れるはず。国・県の交付金(使えれば)を活用するとともに、スタジアムの屋根に太陽光パネルをおき売電収入により、維持管理を行う。

## お 釣り客を通じての福島の漁業の復興

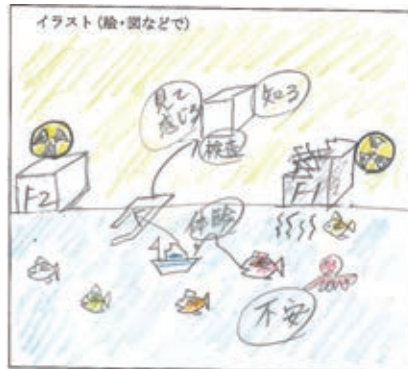
### 『釣客を通じての福島も漁業の復興』



県内外から釣り客を呼び込み、口コミで情報発信することによって信頼できる情報になり、漁業の復興につながる。外から人を呼込むことにより町の活性化にもなる。

## か 調査・体験プログラム

### 『調査、体験ツアー』



全魚介類の出荷制限が解除されても原発周辺海域の魚介類は、なかなか消費者に受け入れてもらえない。一般の人達に実際に体験し、見てもらうことで、安心、安全を判断してもらう。

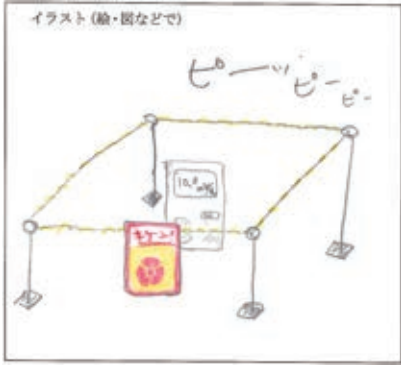
### 『漁業への認識を体験して知ってもらう』



まずは、海のない県(埼玉、群馬など)等に漁業を体験してもらう。友好都市の杉戸町、自治体名が一緒の富岡市の人達に体験してもらいどれだけ海のある県の海産物が美味しいか認識していただく。また体験による風評被害の払拭を行う。

## き 新たな観光スポットの整備

### 『ホットスポットをあえて残す』



除染しきれず、放射線量の高い場所を区画した上であえて残し、来訪者が汚染の実態を実感できるようにする。

### 『釣り場の整備』



仏浜から深谷、小良浜にかけての崖の上に釣り場を整備し、有料の海釣り場にする。トイレ、休憩所、レストラン、駐車場、安全柵、照明などつくる。

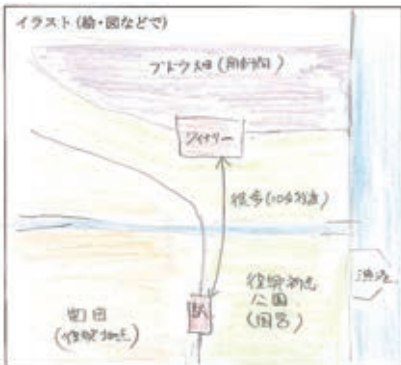
### 『パワースポット、霊場づくり』



町内の神社、寺(八十八カ所など)、海岸から見る日の出、満月、星空などをパワースポットにして、それらを巡るルートをつくる。広野町～浪江までネットワークにしてもよい。

## く 地元食材とワインづくりによる地域振興

### 『地元の食材とワイン作りによる地域振興』



富岡町には元々質の高い魚介類、牛・豚肉(太平洋ブリーディング)、山菜など山から海まで豊かな食材が揃っていた。復興が進むにつれて、これらの食材の安全性も確認されてくる。また、国内外から多くの人が廃炉、復興などでこの地を訪れる。これらを結ぶ一つとしてワインの可能性、そして駅や曲田に近い場所にワイナリーを配置することで観光産業の活性化を図る。畑の管理やワイン作りで高齢者の雇用の場を提供する。

### 『地元食材を使用したレストラン』



地元産の食材を使用したレストランを作る。

## け 観光に資する商品開発

### 『桜にちなんで商品開発』

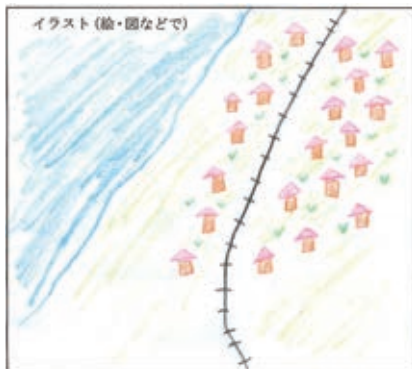


桜にちなんで商品開発する。例として菓子、食品、工芸品、おもちゃ、盆栽、苗木などを桜まつりの際に展示販売、インターネットで販売。



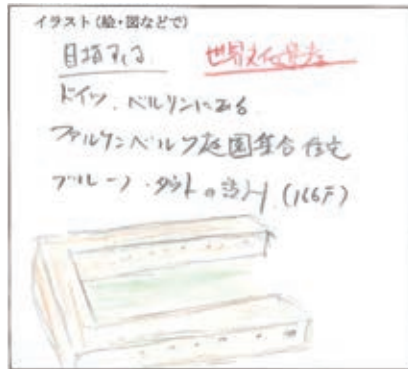
## こ 30年後の価値を意識したまちづくり

### 『いろいろなハウスメーカーを招き共同出資した先進的復興公営住宅の建設』



色々なハウスメーカーと富岡町建設業界が共同で復興住宅の建設を行う。大手ハウスメーカーであれば受益者負担を全面だす。立地条件は特別区として共同負担金として県税だけでなく民間資金も導入する。決まりだとして屋根等は全部同じ色にしてみる。

### 『世界文化遺産をめざして30年後の価値を意識したまちづくり』



ドイツでは第一次世界大戦後に建設した集合住宅が後々世界文化遺産に登録された。これから富岡町に建設する施設(復興公営住宅や駅)や町並みについては将来的な価値を考慮し、そして30年後の世界文化遺産を目標に掲げて景観・利用環境を十分考慮したまちづくりを行う。

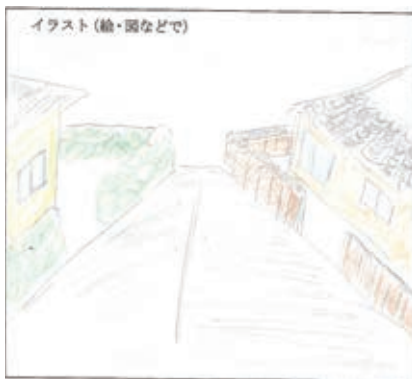
### 『区毎のシンボルツリー』



町内の各区毎に宝泉寺のしだれ桜、夜の森の「基準桜」のようなシンボルとなる木(桜にこだわらない。名木が現在あればそれでもよい)を植える小公園をつくる。30~50年かけて大木に育てあげる。

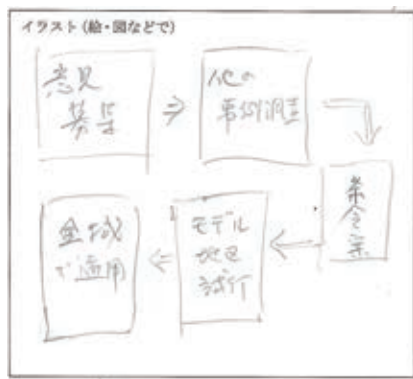
## さ 町並みの再現と早急な法整備

### 『町並みの整備』



震災以前のような町並に戻して人々が安心して帰って来られるように整備する。

### 『町並み条例に施行』



復興が進む前に町の景観条例を見直す。新築に適用、古い建物、構造物には改善支援金を。



## (8) 検討委員名簿

	氏 名	部会
公 募 委 員	安 藤 学	心のつながり部会
	猪 狩 祐 介	産業再生・創出部会
	石 井 宏 和	産業再生・創出部会
	市 村 高 志	生活支援部会
	遠 藤 秀 文	産業再生・創出部会
	遠 藤 典 男	産業再生・創出部会
	遠 藤 義 之	情報発信部会
	小 倉 祐 丞	情報発信部会
	小 貫 和 洋	心のつながり部会
	神 谷 健 二	心のつながり部会
	北 村 俊 郎	産業再生・創出部会
	佐 藤 昭 詮	心のつながり部会
	佐 藤 敦	情報発信部会
	関 根 乃	情報発信部会
	高 橋 大 樹	心のつながり部会
	林 秀 樹	産業再生・創出部会
	藤 田 大	産業再生・創出部会
	堀 本 高 次	産業再生・創出部会
	増 田 健 司	情報発信部会
	渡 辺 和 則	情報発信部会
	渡 部 彰 一	心のつながり部会
	渡 辺 泰 仁	生活支援部会
	遠 藤 陽 子	産業再生・創出部会
	坂 本 弘 子	心のつながり部会
	高 野 匠 美	情報発信部会
	長 沼 蘭	生活支援部会
	山 本 めぐみ	生活支援部会
	吉 野 明日香	生活支援部会
渡 邊 彩 乃	生活支援部会	
渡 邊 幸	生活支援部会	

## 職員委員

	氏名	所属	役職	部会
	杉本 良	復興推進課	除染対策係 課長補佐 兼除染対策係長	産業再生・創出
	駒田 栄雄	復旧課	復旧係 副主査	情報発信
	遠藤 博生	いわき支所	総務係 副主幹兼総務係長	生活支援
	堀川 新一	総務課	総務係 主査	心のつながり
	伊本 知佳	総務課	財政係 副主査	心のつながり
	阿部 祥久	企画課	企画政策係 副主査	産業再生・創出
	堀本 航生	企画課	広聴広報係 主事	情報発信
	鎌田 祐輔	税務課	固定資産係 副主査	情報発信
	猪狩 英伸	税務課	課税係 副主査	生活支援
	篠田 明広	住民課	住民係 係長	生活支援
	畠山 祐美	住民課	国保年金係 主査	情報発信
	安藤 崇	健康福祉課	福祉係 主査	生活支援
	大和田 裕子	健康福祉課	健康づくり係 副主任・保健師	生活支援
	猪狩 宏美	健康福祉課	介護保険係 主査	生活支援
	原田 恵美	健康福祉課	放射線健康管理係 主査	心のつながり
	藤田 志穂	生活環境課	消防交通係 主査	情報発信
	小山 和樹	生活環境課	環境衛生係 主事	生活支援
	大和田 侑希	産業振興課	商工係 主事	産業再生・創出
	畠山 信也	産業振興課	農林水産係 係長	産業再生・創出
	吉田 豊	産業振興課	賠償対策係 主事	心のつながり
	三瓶 秀文	生活支援課	住宅支援係 係長	情報発信
	吉岡 崇	生活支援課	住宅支援係 主事	産業再生・創出
	遠藤 淳	生活支援課	避難生活支援係 主査	生活支援
	久米 彩子	生活支援課	避難生活支援係 主事	情報発信
	大和田 豊一	議会事務局	庶務係 係長	情報発信
	渡辺 沙織	教育総務課	総務管理係 主事	心のつながり

## III. 政策化会議での検討内容

### (1) 政策化会議策定経緯

回数	日時・場所	主な内容
第1回	2014（平成26）年 11月7日（金）	○委員委嘱、自己紹介、会長選出 ○議題 ・富岡町災害復興計画（第二次）策定の全体フレーム ・検討委員会の状況報告 ・政策化会議の目的と実施概要 ・富岡町災害復興計画（第二次）作成の方向性に関する意見交換
第2回	2014（平成26）年 11月27日（木）	○政策化会議の位置づけ・役割についての再確認 ○議題 ・富岡町災害復興計画（第一次）の進捗と評価 ・意見の発表と全体意見集約
第3回	2014（平成26）年 12月19日（金）	○議題 ・富岡町災害復興計画（第一次）の進捗と評価（前回の続き） ・検討委員会における不足課題の抽出
第4回	2015（平成27）年 1月16日（金）	○情報提供（国、県の復興事業の状況について） ○議題 ・復興に向けた町民の選択パターンについて
第5回	2015（平成27）年 3月13日（金）	○議題 ・富岡町災害復興計画（第二次）計画について

## (2) 政策化会議での主な検討事項

### 災害復興計画(第一次)計画の評価

評価の凡例

- ・・・一次計画に記載されており、二次計画にもそのまま反映可能な施策  
 △・・・一次計画に記載されているが、二次計画への反映にあたり改善が必要な施策  
 ×・・・一次計画の記載有無を問わず、二次計画に記載が不要と判断できる施策

## I. 帰還できる町民への施策

### 1. 最優先での除染等実施

#### 1-1 迅速かつ確実な除染及び原発事故処理の実施

##### (1) 速やかな除染活動の実施・原子力発電所の安全確保

災害復興計画(第一次)での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町の除染活動拠点整備【国】	復興推進課	○	そ
② 日常生活圏の除染【国】	復興推進課	△	そ
③ 農地・山林等の放射線量調査及び除染【国】	復興推進課	△	そ
④ 町内の放射線量の測定【国】	生活環境課	○	J
	産業振興課	○	
⑤ 原子力発電所の安全確認 【国・県・町・東電】	生活環境課	○	J・こ

##### (2) 仮置き場及び廃棄物処理施設の整備

災害復興計画(第一次)での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 汚染土壌等仮置き場の検討・整備【国】	復興推進課	△	そ
② 焼却施設の整備【国】	復興推進課	△	そ

### (3) 国の除染計画の早期具体化

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 国の除染計画や新たな避難指示区域設定の早期具体化等に対する要請【国・町】	復興推進課	○	G・う

### (4) 研修・講習会の実施

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 放射線・除染に関する研修・講習会の実施【国】	復旧課	△	J・K
	企画課	○ △	J

## 1-2 除染や復旧・復興等に関する取り組みの保存及び情報提供

### (1) 情報提供の実施

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 放射線量調査結果等の公表【国・町】	生活環境課	○	E・J・K

### (2) 震災・原発事故関連資料の保存・作成

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 震災や原子力災害の記録の保存【町】	企画課	○	ふ
② 災害誌の作成【町】			ふ

## 2. 雇用の確保と産業の再興・活性化

### 2-1 生活再建のための緊急的な補償・支援の実施と雇用確保の推進

#### (1) 生活再建のための緊急的な補償・支援の実施

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 国に対する一律な全損賠償の要望【町】	総務課	○	○
② ハローワーク等雇用情報の提供【双葉郡全域・町】	産業振興課	○	



## (2) 雇用確保の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 雇用の受け皿・仕組みづくり【町・事業者】	産業振興課	○	
② 雇用の創出と就職の相談の強化【国・県・町】	産業振興課	○	
③ まちづくり会社による雇用の推進【事業者】	産業振興課	△	
④ 廃炉・瓦礫処理等災害に関連する産業での雇用 確保の推進【国・県・町】	産業振興課	○	

## (3) 商工業者の事業再開支援

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 事業再開・施設復旧の経済的支援【国・県・町】	産業振興課	○	て

## 2-2 農林漁業の営業環境の回復

### (1) 農林漁業施設の被災調査及び検討

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 農林漁業施設の被災調査及び線量調査の実施 【町】	産業振興課	○	と
② 漁港関連施設の検討【県・町】	産業振興課	○	と
③ 農林業施設の検討【県・町】	産業振興課	○	と

### (2) 放射能による風評被害対策

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 農林漁業後継者との意見交換の実施【町・専門 家・農林漁業後継者】	産業振興課	○	は
② 農産物や海産物などに対する風評被害対策の 推進【県・町】	産業振興課	○	ひ

## 2-3 原発に頼らない新たな産業基盤の形成

### (1) 新たな産業基盤の形成に資する企業・研究施設の誘致

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 企業の誘致及び人材育成（次世代・自然・再生可能エネルギー、放射線医療関連）【国・県・双葉郡全域・町】	企画課	△	な
② 国や県の協力による大学・研究機関の導入（次世代・自然・再生可能エネルギー、放射線医療関連）【国・県・双葉郡全域・町】	企画課	○	な
③ 工業団地の有効活用（貸し工場の整備等）と販売促進【町】	企画課	○	な
④ 「復興特区制度」の活用による新しい産業基盤の早期実現【国・県・町】	企画課	○	と

### (2) 廃炉や除染に関する国際的な企業・人材の育成

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 廃炉や除染に関する国際会議等の誘致【国・県・町】	企画課	△	ふ
② 廃炉や除染を通じた国際的な企業・人材の育成【国・県・町】	企画課	△	な

## 2-4 高付加価値化や新たな生産・販売体制の構築による農業・漁業の再生

### (1) 農業・漁業の再生への取り組み

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 新たな農漁業への転換に向けた実験【町】	産業振興課	○	け
② 被災した農地の有効活用と営農促進【町・事業者】	産業振興課	○	け
③ 富岡漁港の復旧・整備【国・県・町】	産業振興課	○	ほ
④ 漁港背後地域整備の促進【町】	産業振興課	○	ほ

(2) 「富岡ブランド」の形成を通じた販売促進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 食用以外の農産物ブランド化の推進【町・事業者】	産業振興課	○	
② 農産物の加工品開発の推進【町・事業者】	産業振興課	○	な
③ 海産物加工と活魚産業の振興【町・事業者】	産業振興課	○	な
④ 農林水産品を利用した新商品、新サービス開発及び販売の促進【町・事業者】	産業振興課	○	な・ほ

2-5 商業・観光等サービス産業の再生

(1) 商業の復旧・再開

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 商店街の再整備【町・事業者】	産業振興課	○	と
② 中心商店街の再生に向けた新たな業種・業態の誘致【町・事業者】	産業振興課	○	な
③ 地域特産品、地域ブランド品の販売やPR活動の推進【町・事業者】	企画課	○	な

(3) 新たな観光資源の形成と情報発信

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① テーマ観光の充実とネットワーク形成【町】	産業振興課	○	ほ
② 町が誇れる花や木の情報発信【町・事業者】	企画課	○	す

3. 都市基盤の整備

3-1 浜通りの軸となる主要幹線道路やJR常磐線等交通基盤の早期復旧・復興

(1) 交通基盤の早期復旧

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 道路・橋梁等の被災状況調査の実施【町】	復旧課	○	う・と・ぬ

② 被災状況調査に基づく道路・橋梁等の復旧【国・県・町】	復旧課	○	う・と・ぬ
③ JR 常磐線及び富岡駅の移設整備の推進【JR・町】	復旧課	○	う・と・ぬ
④ 町内公共交通機関の充実【町】	企画課	○	の

## (2) 町内外の幹線道路網の整備

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 広域幹線道路ネットワークの整備促進（南北） 【国・県・町】	復旧課	○	う・と・ぬ
② 広域幹線道路ネットワークの整備促進（東西） 【国・県・町】		○	う・と・ぬ
③ 町内その他の幹線道路の整備【国・県・町】		○	

## 3-2 生活を支える上下水道・電気・ガス等ライフライン施設の復旧

### (1) 生活を支える上下水道・電気・ガス等ライフライン施設の復旧

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 上下水道・電気・ガス等のライフライン施設の被災状況調査の実施【町・事業者】	復旧課	○	う・と・ぬ
② 被災状況調査に基づく上下水道・電気・ガス等のライフライン施設の復旧【町・事業者】	復旧課	○	う・と・ぬ

## 3-3 災害に強いまちづくり

### (1) 災害を受けにくい土地利用等の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 原発事故や地震・津波被災を踏まえた土地利用再編の検討【国・県・町】	企画課	○	B・う
② 津波被災を受けにくい地域での居住地整備【国・県・町】	企画課	○	B・う

③ 津波浸水区域における防災緑地または海岸防災林の整備【県・町】	復旧課	○	B・う
④ 公園の防災対応化の検討・整備【町】	企画課	○	B・う
⑤ 地震・津波及び原発事故を後世に伝えるモニュメント等の整備【町】	企画課	○	ふ

## (2) 主要機能・重要施設の分散・再配置

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町役場の主要機能の早期復旧及びバックアップ・分散配置の検討【国・県・町】	総務課		う・の
	いわき支所	△	う・の
② 重要な公共施設の再配置整備【町】	企画課	○	う・の

## (3) 防災関連施設の整備

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 防災関連施設の整備【町】	復旧課	○	B

## (4) 住宅の耐震化

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 住宅の耐震補強の促進【県・町】	復旧課	○	B・う
② 住宅再建時の耐震性向上の促進【町】	復旧課	○	B・う

## (5) 治水・治山事業の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 河川改修事業の促進【国・県・町】	復旧課	○	B・う
② 海岸保全施設の整備促進【国・県・町】	復旧課	○	B・う
③ 適正なダム管理及び水源の位置を考慮した水道管の再配管【町】	復旧課	○	B・う
④ 林業の推進【町】	産業振興課	○	B・う



### 3-4 震災・原発事故からの再生を契機とした魅力の創出

#### (1) 新たな拠点や魅力的な空間の形成

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 移設を要望する JR 常磐線の新駅周辺での復興拠点整備【JR・国・町】	企画課	○	の
② 曲田土地区画整理事業の精査及び整備推進【町】	企画課	○	う・に
③ 既存の街路樹（桜等）の保全・再生【町】	復旧課	○	う・に・き
④ 桜の植樹による観光シンボルの形成【町】	企画課	○	う・に・き

### 3-5 情報通信技術によるネットワークづくり

#### (1) 情報通信技術によるネットワークづくり

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① ICT を活用した平時の防災情報の提供【町】	企画課	○	B
② ICT を活用した利便性の高い行政情報の提供【町】	企画課	○	E・J・K・L・P

### 3-6 広域的な課題を解決するための双葉郡全域の連携による取り組み

#### (1) 広域的な課題を解決するための双葉郡全域の調整・連携による取り組み

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町外の一時的居住地整備における双葉地域全体での調整・連携【双葉郡全域・町】	企画課	○	I
② 広域的なインフラ施設整備等の要望における調整・連携【双葉郡全域・町】	復旧課	○	I・ぬ
③ 原発事故に伴う補償要望における調整・連携【双葉郡全域・町】	総務課	○	I・O

## 4. 住宅再建と生活環境の向上

### 4-1 被災住宅の早期再建、管理等及び災害公営住宅等の整備

#### (1) 被災住宅の早期再建、管理等

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 家屋被害の現地調査の実施【国・町】	税務課	○	
② 町民が帰還するまでの間の継続的な除染及び 補修の実施要請【国・東電・町】	復興推進課	○	
③ 空き家となる家屋の管理、処分の実施要請【国・ 東電・町】	総務課	○	せ
④ 町民の一時帰宅支援の実施【町】	生活支援課	○	E

#### (2) 災害公営住宅等の整備

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 災害公営住宅に関する意向調査の実施【国・町】	企画課	○	S
② 意向調査の精査に基づく災害公営住宅の整備 【国・県・町】	企画課	○	S

### 4-2 避難時における住宅・森林等の防火、防犯等の推進

#### (1) 住宅・森林等の防火、防犯等の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 警察、消防団による巡回の実施【国・町】	生活環境課	○	B
② 自治会等との協力による防火・防犯の推進【町】	生活環境課	○	B

### 4-3 廃棄物等の処理や生活環境美化の推進

#### (1) 避難先でのごみ処理等の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 避難先におけるごみ収集、廃棄物処理の実施	生活環境課	△	

【避難先の自治体・町】			
② 避難先（仮設住宅地）におけるペットハウスの設置【町】	生活環境課	×	

## (2) 町内の震災廃棄物等への対策の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町内の清掃、廃棄物処理の実施【国・県・町】	生活環境課	△	
② 町内に放置された畜犬等対策の推進【町】	生活環境課	△	
	産業振興課	○	
③ 不法投棄対策の推進【町】	生活環境課	○	

## 4-4 避難先での生活支援

### (1) 避難先における暮らしの充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 仮設住宅地における放送設備の整備【町】	生活環境課	○	
② 仮設住宅地における生活支援バスの運行【町】	生活支援課	△ ○	
③ 復旧・復興及び生活支援に関する情報の提供【町】	企画課	○	

## 4-5 自助・共助・公助による地域の安全・安心な暮らしの確保（地域防災・防犯）

### (1) 災害時に対応した社会システムの構築

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 防災無線等情報伝達設備の充実【国・県・町】	企画課	○	B
② 緊急時避難情報システムの構築【町】	企画課	○	B
③ 地震・津波、風水害等の災害に備えた被害想定の実施及び実践的な地域防災計画の策定【町】	生活環境課	○	B
④ 廃炉への過程における事故に備えた原子力災害防災計画の策定【町】	生活環境課	○	B
⑤ 災害時要援護者マップの作製【町】	健康福祉課	○ △	B
⑥ 災害時における迅速・確実な避難に資する避難	生活環境課	○	B

計画の策定【町】			
⑦ 既存集会所等の防災機能の向上【町】	総務課	○	B
⑧ 食料、燃料等の備蓄の充実【町】	生活環境課	○	B
⑨ 消防力の維持・強化【町】	生活環境課	○	B

## (2) 防災・防犯意識の向上

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 自治会単位での防火・防犯・防災組織の設立の 推進【町】	生活環境課	△	B
② 防災・防火意識の啓発のための防災訓練、防災 教育の実施【町】	生活環境課	○	B
③ 防犯施設の整備【町】	生活環境課	○	B
④ 学校・警察・防犯協会との連携による防犯活動 の実施【町】	生活環境課	○	B

## 4-6 高齢者等にもやさしい交通利便性及び交通安全対策の充実

### (1) 高齢者等にやさしい交通利便性及び交通安全対策の充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 生活支援のためのバス路線の整備【町】	生活支援課	△	
② 交通施設のバリアフリー化等、ユニバーサルデ ザイン化の推進【町】	企画課	○	
③ 交通安全教育の充実、教育団体への支援【町】	企画課	○ △	
④ 交通安全施設整備の要望【国・県・県警・町】	企画課	○	
⑤ 富岡町民交通傷害保険による共済制度の普及【町】	生活環境及 び企画課	△	

## 4-7 循環型の仕組みによる環境負荷の少ないまちづくりの推進

### (1) ごみの再資源化・分別強化

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① ごみ削減及び再資源化の推進【町】	生活環境課	○	
② ごみ処理の効率化の推進【町】	生活環境課	○	

(2) 次世代・自然・再生可能エネルギー利用の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 太陽光発電システム普及の推進【国・県・町】	企画課	△	な
② 新エネルギー導入の支援【国・県・町】	企画課	△ ○	な
③ 低炭素・循環型社会への展開に関する町民意識 啓発の実施【町】	企画課	△	
④ 除塩・除染作物の資源化・エネルギー転換に関 する実験【町】	産業振興課	○	な

4-8 町民間の絆の維持及びコミュニティ醸成の取り組みの推進

(1) 絆の維持・再生

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 知人の安否、支援制度等に関する情報伝達の推進 【町】	企画課	△	K
② 離れていても町民相互で情報共有できる仕組 みの構築【町】	企画課	○	す
③ 「ふるさと富岡」の絆と町民の心をつなぐ“サ ロン”の運営【町】	生活支援課	○	す

(2) 気軽に立ち寄れるふるさと空間の整備

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町民が立ち寄り、交流できる場の整備【町】	総務課	△	の

5. 健康福祉の再生・充実

5-1 放射線量の検査等による町民の安全・安心の確保

(1) 放射線量の検査等による町民の安全・安心の確保

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 食品、水道水等の放射線量検査の実施【国・県・ 町】	産業振興課	○	



② 町民に対する線量計の貸し出し【町】	健康福祉課	○	
③ 線量計の配布【町】	生活環境課	○	

## 5-2 放射線の健康被害解消に向けた健康づくり活動の推進

### (1) 継続的な健康管理の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① ホールボディカウンターによる検査等の実施支援【県・町】	健康福祉課	○	
② 放射線による発がんリスクを軽減するための継続的検診の推進【県・町】	健康福祉課	○	お
③ 放射線の影響を受けやすい子どもの健康を守るための保健・医療サービスの強化【県・町】	健康福祉課	○ △	お

### (2) 健康づくり活動の推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 放射線の影響を受けにくい生涯食育の推進【町】	健康福祉課	△	
② 被災者のケア【町】	健康福祉課	△	

## 5-3 町民個々の実情に応じた医療体制整備及び社会福祉の充実

### (1) 町民個々の実情に応じた医療体制整備及び社会福祉の充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 帰還パターン、人口フレーム等に応じた医療施設・福祉施設の整備、再建【町】	企画課	○ △	
② 定期的な町民の健康管理状況の調査【町】	健康福祉課	○	お
③ 介護予防対策の推進【町】	健康福祉課	○	
④ 生活習慣病予防の推進【町】	健康福祉課	○	
⑤ 地域医療体制の確保【県・双葉郡全域・町】	健康福祉課	△	
⑥ 老人クラブ活動の推進【町】	健康福祉課	○	
⑦ 医療・介護・在宅支援サービスの提供【町】	健康福祉課	○	

⑧ 障害の予防と早期発見・早期治療の充実【町】	健康福祉課	○	
⑨ 感染症対策の実施【町】	健康福祉課	○	
⑩ 高齢者等サポート拠点の整備【町】	健康福祉課	○	
⑪ 仮設老人ホーム・介護施設の維持【町】	健康福祉課	○	
⑫ 福祉・介護を支える人材の育成【県・町】	健康福祉課	△	
⑬ 地域活動の支援及び活動を支える人材の育成【町】	健康福祉課	△	
⑭ 障害に応じた教育機会の提供・充実【町】	健康福祉課	△	
⑮ 地域での自立した暮らしの支援、生活サポートの推進【町】	健康福祉課	△	っ

#### 5-4 子育て環境の充実と子育て世代に対する支援

##### (1) 子育て環境の充実と子育て世代に対する支援

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 子育て情報の提供【町】	健康福祉課	○	K
② 子どもを育む家庭・地域支援の推進【町】	健康福祉課	○	
③ 命の大切さを学ぶ機会の提供【町】	健康福祉課	△	
④ 世代間交流の促進【町】	健康福祉課	△	

#### 5-5 セーフティネットの強化

##### (1) セーフティネットの強化

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町民の正しい社会保障制度理解の促進【町】	健康福祉課	△	
② 社会保障制度に基づく適正・確実な事務事業の執行【町】	健康福祉課	△	
③ 生活保護受給者への支援【生活保護関連機関・町】	健康福祉課	△	

## 6. 教育と学習の再生・充実

### 6-1 避難先における教育環境の整備

#### (1) 避難先における学校教育等の場の提供と安全の確保

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 避難先における学校教育等の場の提供【町】	教育総務課	○	え
② 保護者・地域の協力による通学時の見送りや声かけの実施【町】	教育総務課	○	え

### 6-2 町の将来を担う若者を育む学校教育の充実

#### (1) 魅力的で特徴ある教育施設の整備

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 帰還パターン、人口フレーム等に応じた教育施設の整備・体制づくり【国・県・町】	教育総務課	○	え
② 大学・専門学校等の誘致促進【町】	企画課	○	え

#### (2) 愛着心の維持・醸成

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 子ども・保護者を対象としたまち情報の提供や小中学生等の交流を深める事業の実施【町】	教育総務課	○	す

### 6-3 エネルギー教育や防災教育の充実

#### (1) エネルギー教育や防災教育の充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 原子力・放射線教育の実施【町】	教育総務課	○	J・え
② 地震・津波等の災害事象や防災・減災に関する教育の実施【町】	教育総務課	○	

## 6-4 生涯学習・スポーツ教育等の充実

### (1) 生涯学習・スポーツ教育等の充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 総合スポーツセンターや文化交流センター等の施設・設備の復旧、充実【町】	教育総務課	○	う・の
② スポーツニーズの把握と情報発信【町】	教育総務課	○	
③ 生涯学習・社会体育事業の展開【町】	教育総務課	○	
④ 指導者の育成と資質の向上【町】	教育総務課	○	
⑤ 地域コミュニティ活動による世代間交流の促進【町】	教育総務課	○	

### (2) 伝統文化、歴史遺産の保存・継承

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 地域のまつり、踊りの保存・継承【町】	教育総務課	○	ね
② 歴史遺産の保存【町】	教育総務課	○	ね

## Ⅱ. 当面帰還できない町民への施策

### 7. 住宅再建と生活環境の向上

#### 7-1 町外の居住の場(サテライト)の形成

##### (1) 帰還できない町民がまとまって暮らせる町外の居住の場(サテライト)の形成

災害復興計画(第一次)での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 災害公営住宅に関する意向調査の実施【国・町】	企画課	○ △	
② 町外における居住地に関する関係機関との調整【避難先の自治体・町】	企画課	○	
③ 意向調査の精査に基づく災害公営住宅の整備【国・県・町】	企画課	○ △	
④ 避難先の自治体との協議・調整に基づくライフライン施設の整備【国・県・避難先の自治体・町】	復旧課	△	

#### 7-2 生活再建及び町内に所有する住宅等の財産の保全・補償

##### (1) 帰還できない町民が町内に所有する住宅等の財産の保全・補償

災害復興計画(第一次)での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町民が帰還するまでの間の継続的な除染及び補修の実施要請【国・東電・町】	復興推進課	○	せ・そ
② 空き家となる家屋の管理、処分の実施要請【国・東電・町】	総務課	○	
③ 国に対する一律な全損賠償の要望【町】	税務課	△	○

##### (2) 生活再建のための緊急的な補償・支援の実施

災害復興計画(第一次)での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 避難生活や生活再建のための補償や支援等に関する国等への要請【双葉郡全域・町】	税務課	△ ○	H
② 雇用の創出と就職の相談の強化【国・県・町】	産業振興課	○	



### 7-3 生活関連サービスの確保及びコミュニティ醸成

#### (1) 生活利便性・快適性の確保

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 商業施設の整備・体制づくり【国・県・避難先の自治体】	産業振興課	△	と
② 仮設商業施設の維持【国・県・町】	産業振興課	△	
③ 生活支援バスの運行【避難先の自治体・町】	産業振興課	△	
④ ごみ収集、廃棄物の処理の実施【避難先の自治体・町】	生活環境課	△	
⑤ 復旧・復興及び生活支援に関する情報の提供【町】	企画課	○	E・K

#### (2) 町民間の絆の維持及びコミュニティ醸成の取り組みの推進

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 町民間のコミュニケーション促進の機会・場の整備【国・県・避難先の自治体・町】	総務課	○	す
② 地域コミュニティ活動による世代間交流の促進【町】	総務課	○	
③ 遠隔地で生活基盤を築いた人々に対する情報提供【町】	企画課	○	K
④ 離れていても町民相互で情報共有できる仕組みの構築【町】	企画課	○	す
⑤ 町民が立ち寄り、交流できる場の整備【町】	総務課	△	の
⑥ 「ふるさと富岡」の絆と町民の心をつなぐ“サロンの設置【国・県・避難先の自治体・町】	総務課	△	す

## 8. 健康福祉の環境づくり

### 8-1 医療・福祉の確保

#### (1) 医療・福祉の確保

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 医療施設の整備・体制づくり【国・県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
② 定期的な町民の健康管理状況の調査【県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
③ 高齢者等サポート拠点の整備【避難先の自治体・双葉郡全域・町】	健康福祉課	○	お
④ 介護予防対策及び在宅での医療・介護の支援サービスの提供【避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
⑤ ホールボディカウンターによる検査等の実施支援【県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
⑥ 放射線による発がんリスクを軽減するための継続的検診の推進【県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
⑦ 放射線の影響を受けやすい子どもの健康を守るための保健・医療サービスの強化【県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	○ △	お
⑧ 放射線の影響を受けにくい生涯食育の推進【避難先の自治体・町】	健康福祉課	○	お
⑨ 被災者のケア【県・避難先の自治体・町】	健康福祉課	△	お

### 8-2 セーフティネットの強化

#### (1) セーフティネットの強化

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 社会保障制度に基づく適正・確実な業務の執行【避難先の自治体・町】	健康福祉課	△	
② 生活保護受給者への支援【生活保護関係機関・避難先の自治体・町】	健康福祉課	△	

## 9. 教育と学習の環境づくり

### 9-1 教育の確保及び子育て支援の充実

#### (1) 教育の確保及び子育て支援の充実

災害復興計画（第一次）での 施策・事業【事業主体】	担当窓口	評価 ○・△・×	検討委員 56の提案 該当タイトル
① 教育施設の整備・体制づくり【国・県・避難先の自治体・近隣町村・町】	教育総務課	○	え
② 保護者・地域の協力による通学時の見送りや声かけの実施【町】	教育総務課	○	え
③ 子ども・保護者を対象としたまち情報提供や小中学生等の交流を深める事業の実施【町】	教育総務課	○	K・え
④ 子どもを育む家庭・地域支援の推進【町】	教育総務課	○	
⑤ 家庭教育に関する子育て情報の提供【町】	教育総務課	○	K

### (3) 居住地に関する住民意向に対応する主な取り組み

居住地		避難指示解除後の町・地域との関わり方	主な施策		
現在 (復旧期)	避難指示解除後 (復興期)		復旧期	復興期	
	町内	第1の道	自宅 賃貸住宅 新たな住宅	○生活再建と雇用の確保 ○住宅再建と生活再建の向上 ○最先での除染の実施 ○都市基盤の整備	○住宅再建と生活再建の向上 ○都市基盤の整備 ○住宅の再建・整備 ○産業の再興 ○健康福祉の再生・充実 ○教育と学習の再生・充実
				○情報収集・情報発信	
町外	仮設住宅 (建設型)  仮設(借上型) 復興住宅等 (賃貸)  親族・知人宅 等	第3の道	賃貸住宅 自宅 など	○生活再建と雇用の確保 ○住宅再建と生活再建の向上 ○健康福祉の充実 ○教育と学習の充実 ○交流促進(絆づくり)	○住宅再建と生活再建の向上 ○健康福祉の充実 ○教育と学習の充実 ○交流促進(絆づくり)
				○情報発信	
				○健康福祉の充実 ○情報発信 ○交流促進(絆づくり)	
		第2の道	自宅 など	・帰還しないが、町とは関わりを持つ  ・帰還しない選択	

## (4) 政策化会議委員名簿

分野	氏名	所属	役職
有識者	土方 吉雄	日本大学工学部	建築学科准教授
	浦部 智義		建築学科准教授
復興庁	中村 伸也	福島復興局	次長
	森村 英一郎		参事官補佐
福島県	佐藤 庄一	避難地域復興課	総括主幹・副課長
	木村 麻美		主事
職員	杉本 良	復興推進課	除染対策係 課長補佐・兼除染対策係長
	駒田 栄雄	復旧課	復旧係 副主査
	遠藤 博生	いわき支所	総務係 副主幹兼総務係長
	堀川 新一	総務課	総務係 主査
	伊本 知佳		財政係 副主査
	阿部 祥久	企画課	企画政策係 副主査
	堀本 航生		広聴広報係 主事
	鎌田 祐輔	税務課	固定資産係 副主査
	猪狩 英伸		課税係 副主査
	篠田 明拡	住民課	住民係 係長
	畠山 祐美		国保年金係 主査
	安藤 崇	健康福祉課	福祉係 主査
	大和田 裕子		健康づくり係 副主任・保健師
	猪狩 宏美		介護保険係 主査
	原田 恵美		放射線健康管理係 主査
	藤田 志穂	生活環境課	消防交通係 主査
	小山 和樹		環境衛生係 主事
	大和田 侑希	産業振興課	商工係 主事
	畠山 信也		農林水産係 係長
	吉田 豊		賠償対策係 主事
三瓶 秀文	生活支援課	住宅支援係 係長	
吉岡 崇		住宅支援係 主事	



	遠藤 淳		避難生活支援係 主査
	久米 彩子		避難生活支援係 主事
	大和田 豊一	議会事務局	庶務係 係長
	渡辺 沙織	教育総務課	総務管理係 主事
事務局	菅野 利行	企画課	課長
	竹原 信也		課長補佐
	佐々木 邦浩		まちづくり係 係長
	門馬 健		まちづくり係 主事
	橋本 壮史		まちづくり係 主事
	山城 英子		まちづくり係



